



対話を重ねて125年。これからも研究者と語り合いませんか？
125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?

1897年
125年ほど昔
京都大学創立。教授と学生が対等に学問を対話する関係へ
にゃー

1925年
時計台竣工。
京都大学のシンボルが誕生

1943年
学徒出陣。
対話との別離

1946年
敗戦後、新しい大学の体制へ
1946年
女学生入学
この意見
みんなはどう思う？

1953年
全国共同利用
研究所が設立
海外では
進んでいるんです
そんな研究が
今日は「人間」について考えてみましょう
市民講座
1979年

2012年
アカデミックデイの始まり
先ほどの話、もっと詳しく聞きたいです！
たしかに
お話を聞いてもいいですか？
この研究、とっても面白いんですよ！どう思いますか？
なるほど
なるほど
なぜ？
どうして？
どうして？
にゃー

つづく



京都大学アカデミックデイ2022

創立125周年記念
Kyoto U's 125th Anniversary

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto

報告書



京都大学アカデミックデイ 2022～創立 125 周年記念～

「対話を重ねて 125 年。これからも研究者と語り合いませんか？」

開催日時 2022 年 6 月 19 日（日）10 時から 16 時 ※但し、一部プログラムについては 17 時まで実施

会場 ロームシアター京都

目次	1. 概要
	1-1. イベント概要
	1-2. 湊総長からのメッセージ
	1-3. 会場配置図
	2. プログラム
	2-1. プレイベント：オンラインでも膝詰め対話
	2-2. 研究者と立ち話
	2-3. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	2-4. お茶を片手にクロストーク
	2-5. 研究者の本棚
	3. アンケート
	3-1. プレイベントリスナー / メインイベント来場者アンケート
	3-2. 出展者アンケート
	3-3. 京都大学アカデミックデイ賞
	4. 出展者情報
	4-1. 研究者と立ち話
	4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	4-3. 出展参加者一覧
	5. その他
	5-1. 各種説明会
	5-2. 広報物
	6. 支援体制・準備スケジュール
	6-1. 支援体制
	6-2. スタッフリスト
	6-3. 準備～事後スケジュール
	7. 資料
	7-1. マニュアル：来場者コメント書き込み方法（お茶を片手にクロストーク）
	7-2. ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2022年6月19日、ロームシアター京都にて「京都大学アカデミックデイ 2022～創立125周年記念～」を開催しました。12回目となる今年は、京都大学創立125周年記念事業の一環として京都大学アカデミックデイを開催し、学部・大学院生含む120名（31組）の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は670名に上りました。またアカデミックデイ当日に先立って行われたオンラインでのプレイベントには、4組の研究者、のべ521名のリスナーが対話の場に参加しました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

2022年度は京都大学創立125周年の記念の年にあたり、京都大学創立125周年記念事業の一環として、創立記念日の翌日にあたる6月19日に京都大学アカデミックデイを開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施しながら3年ぶりの対話の場として「研究者と立ち話」、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手にクロストーク」、「研究者の本棚」の4つの企画を実施し、出展研究者、一般来場者の双方から、直接対話による多くの気づきがあったことがアンケートに寄せられました。

また今年度のアカデミックデイは、学外会場で実施したことも新たなチャレンジとなりました。これまでのアカデミックデイは京都大学百周年時計台記念館で実施してきました（オンライン開催除く）。一方で、京都大学「国民との科学・技術対話」ワーキングでは、研究対話の広がり観点で、学外に対話の場を広げていくことの意義が挙げられていました。今年度は京都大学創立125周年記念事業の一環として、学外のロームシアター京都にて開催し、新規の来場者も例年より多い結果となりました。今回の開催を踏まえ、京都大学の外に積極的に出ていくことで、京都大学の研究や、研究対話を広げていくことをさらに検討していきます。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働して進めました。今回の開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（ロームシアター京都）

1-2. 湊総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。

今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多元的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。



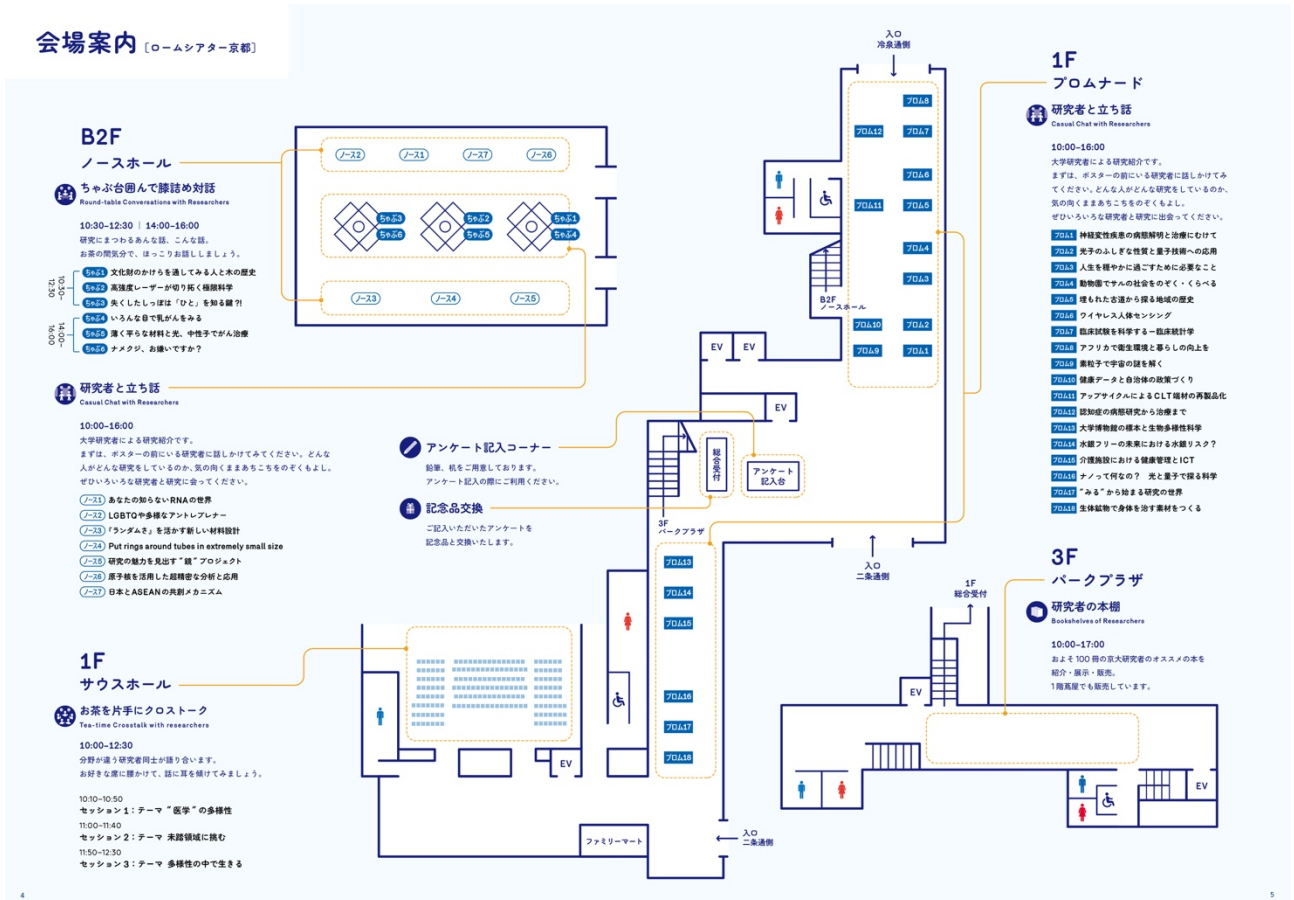
京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 湊 長博

1-3. 会場配置図

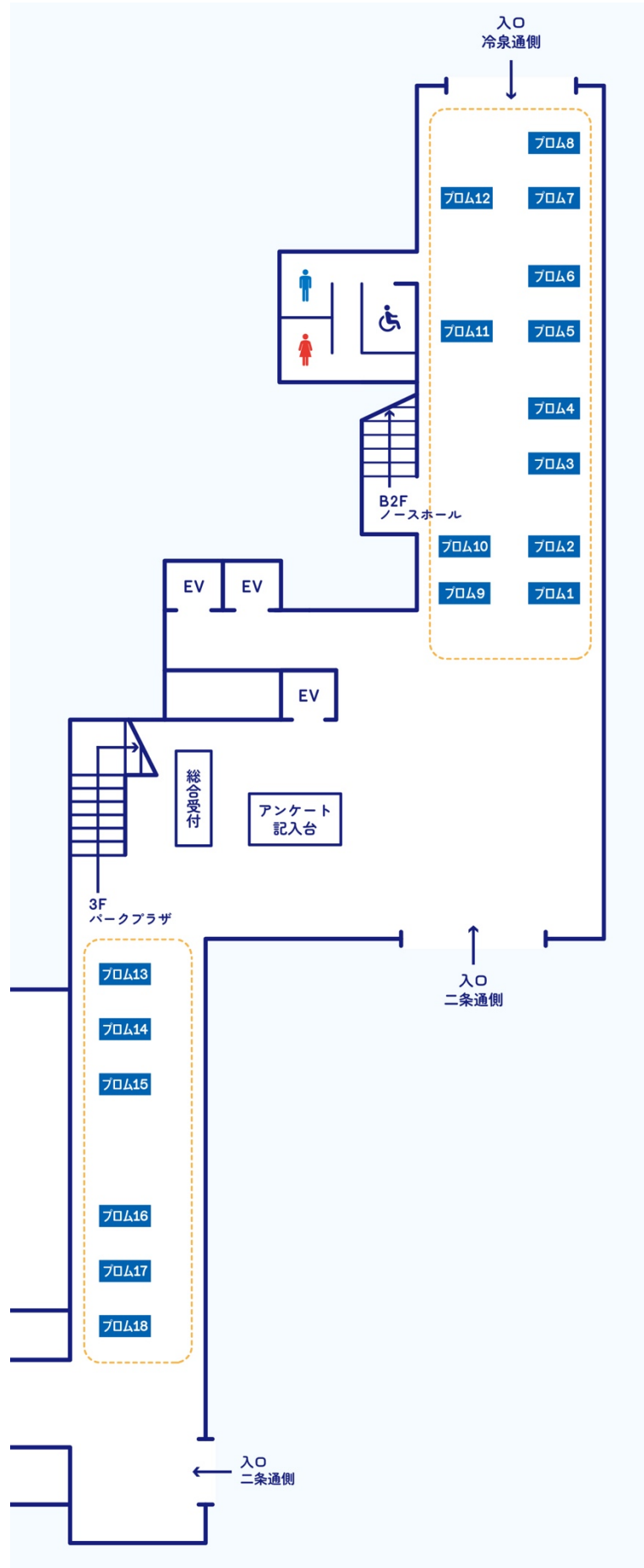
1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図



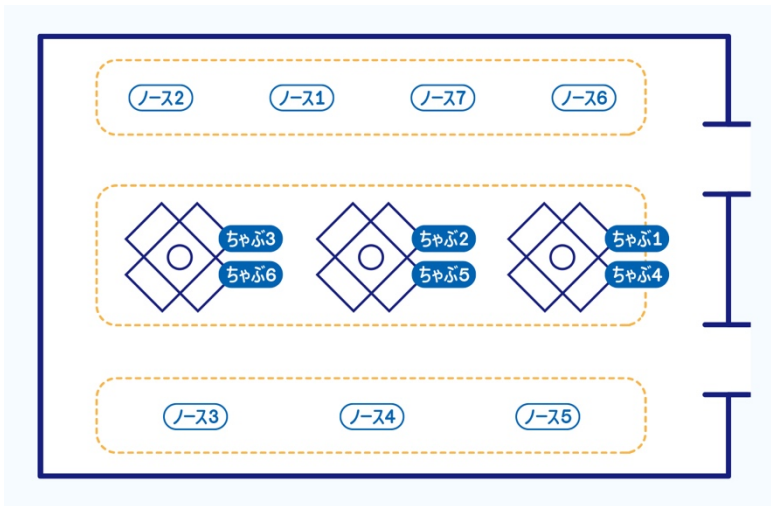


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

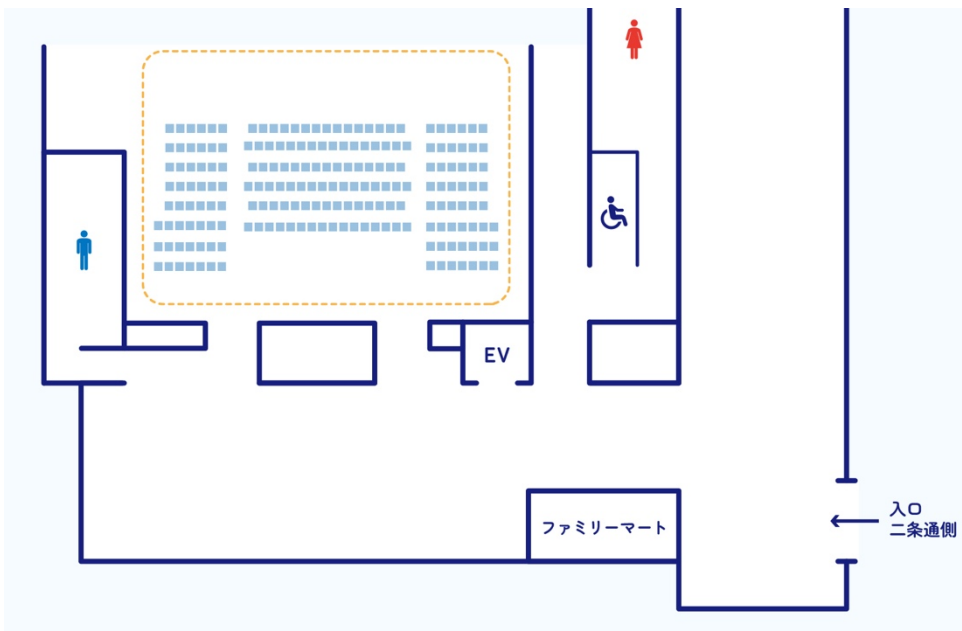
- プロムナード（1F）：研究者と立ち話



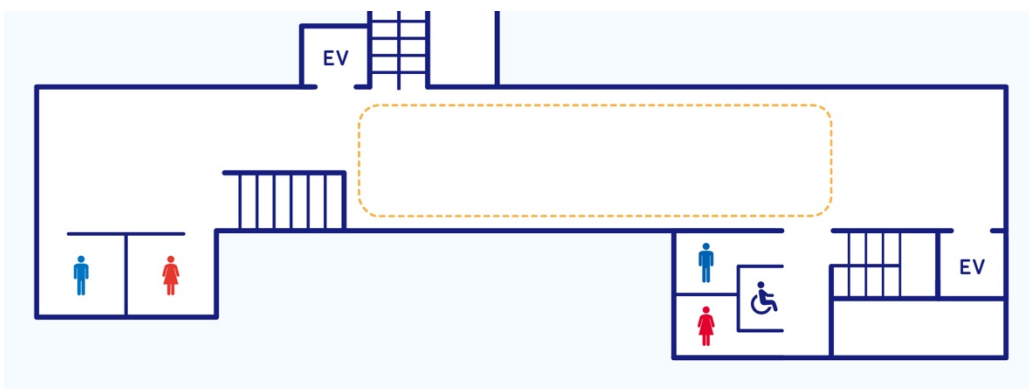
- ノースホール（B2F）：研究者と立ち話・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



- サウスホール（1F）：お茶を片手にクロストーク



- パークプラザ（3F）：研究者の本棚



2. プログラム

2-1. プレイベント：オンラインでも膝詰め対話

■ 2-1-1. 概要

日時 6月1日（水曜日）～6月10日（金）19時30分～20時30分

会場 オンライン（Zoom ウェビナー）

新型コロナウイルスの感染拡大により、一昨年度から始まったアカデミックデイ「オンラインでも膝詰め対話」。本年度は6月19日に行われる現地開催のアカデミックデイへの呼水としての「プレイベント」という位置付けで、4回に分けて開催されました。各回の対話研究者は、アカデミックデイへの申し込み時にプレイベントへの参加を希望した研究者に先着順で登壇頂きました。オンライン開催となった、2020年、2021年のアンケートの結果からは、参加者の大半が京都府以外の都道府県から視聴しており、オンラインでのイベントを今後も続けてほしいという要望が非常に多いことが示されました。今年度も、現地開催の参加者とは違い、日本全国から参加者が集まりました。

■ 2-1-2. 各回紹介

● 動物園でサルの社会をのぞく・くらべる

研究者からの一言	サルの魅力、動物園の魅力、お伝えします
開催日時	2022年6月1日（水曜日）19時30分～20時30分
対話研究者	村松明穂（高等研究院・研究員）
リスナー数	122名
ファシリテーター	大西将徳（学術研究支援室・URA）

プレイベントトップバッターは、動物園でサルの生態を研究する村松先生。研究現場の愛知県犬山から研究を紹介いただきました。研究施設と動物園での研究の違いに始まり、先生が対象とするマカカ属のサルたちの話題に入ると、まずはリスナーに「22種のサルの中で知っているサルを選んでください。」と質問。やはりニホンザルが圧倒的でしたが、1時間の対話の最後にもう一度同じ質問をすると、「ボンネットモンキー 増えましたね!」。動物園での実験を見に行きたくなったリスナーも多かったのではないのでしょうか。




● いろんな目で乳がんをみる

研究者からの一言	画像診断の専門家が力を合わせて頑張っています！
開催日時	2022年6月6日（月曜日）19時30分～20時30分
対話研究者	片岡正子（医学研究科・講師）
リスナー数	109名
ファシリテーター	藤田弥世（学術研究支援室・URA）

画像診断医は普段どこにいるのか、何をしている人なのかといった基礎知識の話題から始まり、現在の診断方法や使用される各種診断装置の長所と短所についてお話いただきました。イベント時間1時間厳守の制約により、最後の話題であった最新の研究動向はほぼ割愛となってしまいましたが、続きはメインイベントでのお楽しみ！という流れにつながるプレイベントらしいお話をいただきました。

今日のトピック




- ① 画像診断医はどこにいるのか？
- ② 画像診断は、何をやっているのか？
- ③ 乳がんの画像診断 今見えるもの
- ④ 研究の進歩によって見えつつあるもの

● 認知症の病態研究から治療まで

研究者からの一言	病院で現在行っている臨床研究もご紹介します
開催日時	2022年6月8日（水曜日）19時30分～20時30分
対話研究者	葛谷聡（医学研究科・准教授） 後藤和也（医学研究科・特定助教）
リスナー数	159名
ファシリテーター	藤田弥世（学術研究支援室・URA）

まずは葛谷先生から認知症の現状やリスク要因、予測因子としての漢字の効果を調べた実験についてお話いただいた後、後半は後藤先生から音楽療法と新薬の研究に関するお話をいただきました。予防的視点も含め認知症の基礎から応用を網羅する非常に盛り沢山の内容に、リスナーからは絶えず質問が寄せられ、質疑応答の時間には、次々読み上げられる質問にテンポよくお二人から回答いただきました。

本日のアウトライン

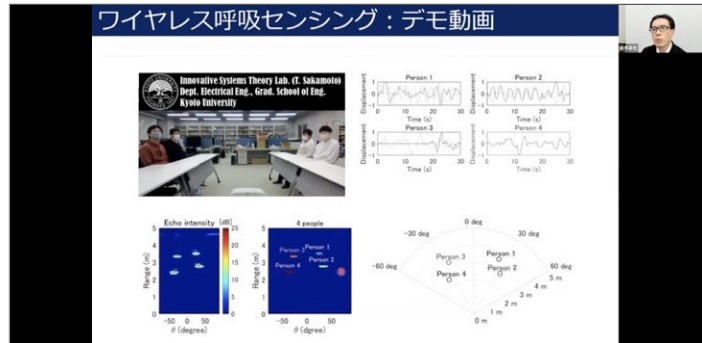


- 認知症の予防意義
- 認知症予防におけるライフスタイル関連因子
- 脳を鍛えてアルツハイマー病に打ち勝つ！

● ワイヤレス人体センシング

研究者からの一言	電波で心拍数が計測できることを知っていましたか？
開催日時	2022年6月10日（金曜日）19時30分～20時30分
対話研究者	阪本卓也（工学研究科・教授）
リスナー数	131名
ファシリテーター	大西将徳（学術研究支援室・URA）

コロナ禍で「非接触」サービスが生活を大きく変えつつある中、阪本先生が開発を進める非接触で人の呼吸や心拍を計測する技術は、保育園の園児見守り、自動車ドライバーのストレスや睡眠の質、さらに睡眠時無呼吸症候群の検査など、様々な応用が期待できることが語られました。一方、知らないうちにひそかに計測されている不安も伴う技術です。この技術が普及した社会は不安？安心？というリスナーへの問いかけには、不安よりも安心とを感じる方が上回りました。



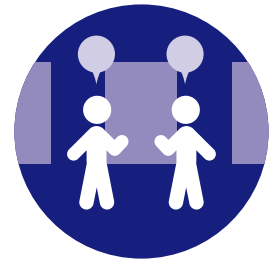
2-2. 研究者と立ち話

2-2-1. 概要

日時 6月19日（日曜日）10時～16時

会場 ロームシアター京都 プロムナード（1F）、ノースホール（B2F）

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度は2箇所の会場で合計25のポスター展示が、互いに密にならないよう間隔を十分に空けながらもずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。中には、ポスターの前に模型や実験器具、資料等を並べ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿も多く見られました。マスク着用が必須だったため、研究者も来場者もお互いの表情がはっきりとは見えない中での対話となりましたが、来場者からのアンケートには「研究者の方がとても楽しそうに話してくださるので、こちらも楽しかったです」といった、研究者が持つ研究へのワクワク感が来場者と共有され、一体的に楽しまれていることがわかる声が多数寄せられました。さらに、さまざまな立場で研究をしている人が一堂に集まっていたため、研究者同士の交流も深まり、互いに刺激をしあう場にもなっていました。



■ 2-2-2. 「研究者と立ち話」出展一覧

● プロムナード (1F)

出展代表者氏名 (所属)	出展タイトル
上田潤 (医学部附属病院)	神経変性疾患の病態解明と治療にむけて
竹内繁樹 (大学院工学研究科)	光子のふしぎな性質と量子技術への応用
鈴木美香 (iPS細胞研究所)	人生を穏やかに過ごすために必要なこと
村松明穂 (高等研究院)	動物園でサルの社会をのぞく・くらべる
伊藤淳史 (大学院文学研究科)	埋もれた古道から探る地域の歴史
阪本卓也 (大学院工学研究科)	ワイヤレス人体センシング
佐藤俊哉 (大学院医学研究科)	臨床試験を科学するー臨床統計学
真常仁志 (大学院地球環境学堂)	アフリカで衛生環境と暮らしの向上を
中田嘉信 (大学院理学研究科)	素粒子で宇宙の謎を解く
祐野恵 (学際融合教育研究推進センター)	健康データと自治体の政策づくり
小見山陽介 (大学院工学研究科)	アップサイクルによる CLT 端材の再製品化
葛谷聡 (大学院医学研究科)	認知症の病態研究から治療まで
本川雅治 (総合博物館)	大学博物館の標本と生物多様性科学
日下部武敏 (大学院工学研究科)	水銀フリーの未来における水銀リスク?
當山まゆみ (大学院医学研究科)	介護施設における健康管理と ICT
田原弘量 (白眉センター)	ナノって何なの? 光と量子で探る科学
松田道行 (大学院生命科学研究科)	“みる” から始まる研究の世界
藪塚武史 (大学院エネルギー科学研究科)	生体鉱物で身体を治す素材をつくる

● ノースホール (B2F)

出展代表者氏名 (所属)	出展タイトル
齊藤博英 (iPS細胞研究所)	あなたの知らない RNA の世界
柳淳也 (経営管理大学院)	LGBTQ や多様なアントレプレナー
乾晴行 (大学院工学研究科)	『ランダムさ』を活かす新しい材料設計
Guoqing Cheng (大学院人間・環境学研究科)	Put rings around tubes in extremely small size
鏡プロジェクト 東島沙弥佳・田原弘量 (白眉センター)	研究の魅力を見出す“鏡”プロジェクト
北尾真司 (複合原子力科学研究所)	原子核を活用した超精密な分析と応用
河野泰之 (東南アジア地域研究研究所)	日本と ASEAN の共創メカニズム

2-3. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

■ 2-3-1. 概要

日時 6月19日（日曜日）10時30分～12時30分／14時～16時

会場 ロームシアター京都 ノースホール（B2F）

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には4帖の畳から成る3つのちゃぶ台ブースを設置。10時30分から12時30分の間に3つ、14時から16時の間に3つ、計6つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究者／グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。



■ 2-3-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

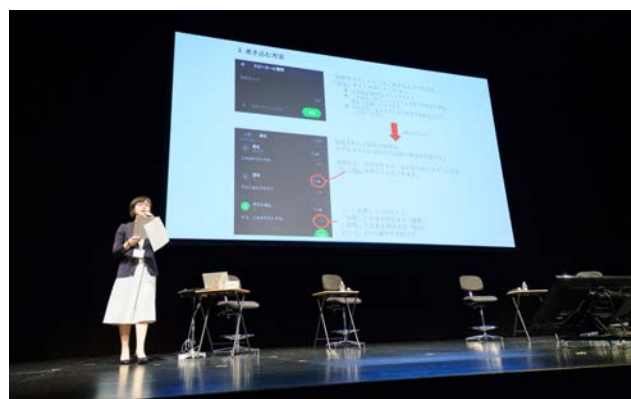
日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
6月19日（日） 10:30~12:30	田鶴寿弥子（生存圏研究所）	文化財のかけらを通してみる人と木の歴史
	松井隆太郎（大学院エネルギー科学研究科）	高強度レーザーが切り拓く極限科学
	東島沙弥佳（白眉センター）	失くしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!
6月19日（日） 14:00~16:00	片岡正子（大学院医学研究科）	いろんな目で乳がんをみる
	Kang Heon Gyu（大学院人間・環境学研究科）	薄く平らな材料と光、中性子でがん治療
	宇高寛子（大学院理学研究科）	ナメクジ、お嫌いですか？

2-4. お茶を片手にクロストーク

■ 2-4-1. 概要

日時 6月19日（日曜日）10時～12時30分
会場 ロームシアター京都 サウスホール（1F）

一つのテーマに沿って、異分野の研究者が集まり語り合うトークライブ「お茶を片手にクロストーク」。イベント同様、アカデミックデイへの申し込み時にクロストークへの参加希望をヒアリング。参加を希望した研究者の顔ぶれを見てから、2 - 3人が1グループになるように研究者のマッチングと各グループのテーマ設定をURAが行った本企画は、アカデミックデイ初の試みでした。今回は7名の研究者から手が上がったため、3グループに分かれて3セッションが開催されました。いずれのセッションも初めは自己紹介をそれぞれ3分ほど行っていただき、その後は小テーマに沿って来場者からのご質問も取り上げながら、フリートークという流れでした。新型コロナウイルス感染症対策のため、来場者からのご質問や感想は「Slido」というアプリ経由で寄せられるようにし、質問や感想が閲覧できるアプリ画面をスクリーンに投影することで、誰もが来場者の思いを見られるようにしました。いつでも匿名で手軽に質問や感想を投げかけられる形式だったため、イベント中は、「研究に喜びを感じる時は？」や「その道に進まれようと思ったきっかけは？」など、研究者の人柄に触れる質問や、共同研究の可能性に迫る質問、「多様性≒幸せに生きるための仕組み？」といったそれぞれのテーマに特有の質問など、数多くの質問が寄せられました。こうした仕掛けを通じて本イベントは、研究者同士の「異分野間対話」という意味のクロストークだけでなく、来場者と研究者による「文字と声の対話」という意味合いも持つクロストークとなりました。



■ 2-4-2. トークテーマ・参加者一覧

● グループ1 テーマ：“医学”の多様性

日時 6月19日（日曜日）10時10分～10時50分

会場 ロームシアター京都 サウスホール（1F）

登壇者 片岡正子（大学院医学研究科）
當山まゆみ（大学院医学研究科）
Kang Heon Gyu（大学院人間環境学研究科）



● グループ2 テーマ：未踏領域に挑む

日時 6月19日（日曜日）11時00分～11時40分

会場 ロームシアター京都 サウスホール（1F）

登壇者 宇高寛子（大学院理学研究科）

陳正昊（大学院工学研究科）



● グループ3 テーマ：多様性の中で生きる

日時 6月19日（日曜日） 11時50分～12時30分

会場 ロームシアター京都 サウスホール（1F）

登壇者 村松明穂（高等研究院）

柳淳也（経営管理大学院）



「お茶を片手にクロストーク」レポート

2019年度は「お茶を片手に座談会」であった企画が、今年度は「お茶を片手にクロストーク」と名前を変え、企画内容もバージョンアップし3年ぶりのオンサイト実施となった。今年度のテーマは3つ。「“医学”の多様性」「未踏領域に挑む」「多様性の中で生きる」と、かなり大きなテーマに7名の研究者が挑んだ。博士後期課程の方も登壇され、まさに“クロストーク”という名にふさわしく多様な研究分野・経歴を持った研究者が集まり、それぞれのテーマについて議論した。また、今回から新たに「Slido」というアプリを導入し、参加者とも対話を促進する仕組みが設けられた。トークの最中も多くの質問・コメントが寄せられ、それによって研究者の様々な一面を垣間見ることができた。一方で1セッションが40分であったため、時間としては少し短い印象であった。登壇者の議論や来場者からのコメントが盛り上がっている最中に終わりの時間を迎えるセッションもあり、もう少し時間があれば研究者同士の議論をもっと深く展開することはできないのではないかと思う。以下にセッションごとのレポートを記す。

○「“医学”の多様性」（医学研究科・片岡氏、医学研究科・當山氏、人間環境学研究科・Kang氏）

基礎研究から臨床研究そして公衆衛生と、医学分野の中でも異なった領域の研究者が登壇され、それぞれの知見から議論がなされた。自身の研究については、「5年後～10年後に使えるようになって欲しい研究」（片岡氏）、「社会との距離がとて近く、短期間で課題を改善していく研究」（當山氏）、「がんの治療法を提案するための基礎研究。人に対して使うには10年～20年はかかる」（Kang氏）とコメントされ、医学という同じ分野でありながら研究に対する時間的長さが大きく違っており、成果を出す（世の中に実装される）ことの難しさを感じた。また、「医者と研究者」としての時間の使い方について来場者から質問があり、病院現場で働きつつ研究時間を確保することは難しいという本音も出つつ、病院現場にいるからこそ見えてくる課題が自身の研究に繋がっている、といったポジティブなコメントが非常に印象的であった。

○「未踏領域に挑む」（理学研究科・宇高氏、工学研究科・陳氏）

生物科学専攻の宇高氏（研究対象はナメクジ）と材料工学専攻の陳氏（研究対象は金属などの材料）、日頃はなかなか交わることが無いであろう2人の研究者が議論を展開した。お互いの研究についてどう思うかという質問に、「工学が研究している対象は常に人間社会を支えているイメージで、理学は何をやっているのか分かりにくい（最終的に社会に出る時に実感が湧きにくい）」という宇高氏のコメントに対し、陳氏は同意しつつも、「例えば素粒子や宇宙の研究は、今は分からなくても生活に影響はしないかもしれないが、誰かが研究を進めなければ、宇宙に対して認識が進まないで、そういった研究も人間社会にとっては重要である。」とコメントを残した。個人的に宇高氏のコメントが印象に残っており、例えば理論研究や基礎研究などは、それらが社会にとってどのような意味や価値を持っているかを“分かってもらう”ことが難しい。「未踏領域に挑む」ためには、そういった研究分野に対しても社会に理解（単なる社会的な認識に留まらず、人的・予算的な支援に対する理解も含む）してもらう必要があり、そういった場作りをアカデミックデイが担っていると考えている。

○「多様性の中で生きる」（高等研究院・村松氏、経営管理大学院・柳氏）

“多様性”という言葉は、今般もメディア等で耳にする機会が多いように思う。社会からの注目度も高いこのテーマに、ヒトとヒト以外の動物を対象に比較認知研究をしている村松氏とヒトの多様性（多様性に係る企業の施策など）について研究している柳氏が、それぞれの視点から活発な議論を交わした。そもそも“多様性”とはどういうことなのかについて、動物研究をしている視点から、種の多様性・種の中の多様性について村松氏より説明があった。また柳氏からは、生物の多様性についてのクイズを交えつつ、「生物学の知見を基盤に、自分達（ヒト）の存在や多様性の正当性を主張するのは良いのか」といった疑問が呈された。私が強く印象に残っているのは、「（多様性に関して）だれかの都合の良い知識をいかついでヒト社会に無理やり当てはめてはいないか」（村松氏）といった指摘である。多様性を議論する上では、その対象だけでなく、その議論をしている人自身の属性・経験によって見方が大きく変わると思った。答えを出すこ

とが難しいテーマであったが、二人の研究者の議論を通し、自分の頭の中でも少しずつ言語化されていく過程があり、クロストークの面白さを感じた。

研究推進部研究推進課研究助成掛 奥田将基

2-5. 研究者の本棚

2-5-1. 概要

日時 6月13日(月)～6月30日(木) 10時～17時
会場 ロームシアター京都 パークプラザ (3F)

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を表示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画はカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 (CCC) 協力のもと、展示スペース「BOOK & AET GALLERIA」にて展示され、気に入った書籍は京都岡崎 蔦屋書店で購入できるようにしました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。



■ 2-5-2. 研究者おすすめの書籍

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

■ 2-5-3. 京都大学 125 周年記念関連の書籍

今年度のアカデミックデイは創立 125 周年記念イベントの一環であることを受け、6月18日（土）に行われた京都大学創立 125 周年記念フォーラムに登壇された利根川進先生、野依良治先生、小林誠先生、山中伸弥先生、本庶佑先生、そして吉野彰先生が執筆された書籍をアカデミックデイ事務局が選定し、研究者の本棚と同じ会場に展示しました。



3. アンケート

3-1. プレイベントリスナー / メインイベント来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、プレイベントのリスナーとメインイベントの来場者に、それぞれ2種類のアンケートにご協力いただきました。

● プレイベント：リスナー向けアンケート

1種類目は、事前申込の際に付随したアンケートです。先生に聞いてみたいことや、どのような人が参加を申し込まれたのかについて、主催者が知ることが目的でした。もう1種類目は、イベント後にご協力いただいた「事後アンケート」です。研究者との対話やその視聴で印象に残ったことなどをご記入いただきました。

○事前申込・アンケート（リスナー）

〈方法〉

- ・アカデミックデイ 2022 ホームページより、イベント申込みの際にアンケートもウェブフォームに埋め込み、回答
- ・申込兼アンケート受付期間：各回当日午前8時まで

〈項目〉

- ・参加を希望する企画（複数回答可・回答必須）
選択肢：①6月1日（水）19:03-20:30「動物園でサルの社会をのぞく・くらべる」村松明穂（高等研究院）、②6月6日（月）19:30-20:30「いろいろな目で乳がんをみる」片山正子（医学研究科）、③9月8日（水）19:30-20:30「認知症の病態研究から治療まで」葛谷聡・後藤和也（医学研究科）、④6月10日（金）19:30-20:30「ワイヤレス人体センシング」阪本卓也（工学研究科）
- ・お名前（回答必須）
- ・メールアドレス（回答必須）
- ・ご年齢（回答任意）
選択肢：10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
- ・ご職業（回答任意）
選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、京大生、京大以外の大学の学生、京大教員・研究者、京大職員、京大以外の大学の教員・研究者、京大以外の大学の職員、公務員・団体職員、教員・研究教育関連、会社員・自営、主婦・主夫、無職・アルバイト、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・お住まいの地域（回答必須）
選択肢：京都市、京都府、その他（※その他の場合は現在住んでいる都道府県名（海外の場合は国名）を自由記述）
- ・対話研究者に聞きたいこと、この企画に期待すること（自由記述・回答任意）
備考：この企画に期待すること、当日に聞いてみたい話などありましたら、自由に記入してください（回答は任意です）。複数の企画にお申し込みの方は、どの企画に対するコメントか明記ください。いただいた内容は、対話研究者、ファシリテーター、京都大学アカデミックデイ事務局でのみ共有します。

- ・アカデミックデイ 2022 を知ったきっかけ（複数回答可・回答必須）
 選択肢：ポスター（高校）、ポスター（京都大学）、ポスター（その他の大学）、ポスター（その他の公共施設）、チラシ、市バス、地下鉄、京都大学創立 125 周年記念イベント広報（ポスター、チラシ、リーフレット、ホームページなど）、京都大学ホームページ、京都大学学術研究支援室（KURA）ホームページ・K. U. RESEARCH、Twitter、Facebook、メール案内、知人からの紹介、Peatix の案内・広告、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・参加しようと思われたきっかけ（自由記述・回答任意）
 備考：今回参加しようと思われたきっかけがありましたら、自由に記入してください（回答は任意です）。
- ・京都大学アカデミックデイへの参加（回答任意）
 備考：2020 年度、2021 年度のオンライン開催を含む過去の京都大学アカデミックデイへ、何回参加されましたか？各年度につき 1 回と数えてご回答ください。（例：2021 年度に複数日参加された場合「1」と数えます）4 回以上ご参加経験のある方は、「その他」の欄へ過去に何回参加されたか記入してください。
 選択肢：初めて、2 回目、3 回目、4 回目、その他（※その他の場合は何回参加したかを記入）
- ・京都大学の他のイベントへの参加（回答任意・複数回答可能）
 選択肢：春秋講義、京大ウィークス、京都大学オープンキャンパス、ホームカミングデイ、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・京都大学 HP 等の閲覧（回答任意）
 選択肢：よく閲覧する、数回閲覧したことがある、閲覧したことがない・知らない
- ・科学・技術に関心がありますか？（回答任意）
 選択肢：とても関心がある、関心がある、関心があるともないとも言えない、関心がない、全く関心がない、わからない
- ・科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？（回答任意）
 選択肢：はい、いいえ、わからない
- ・過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？（回答任意）
 選択肢：見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。 / 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。 / 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。 / わからない。
- ・メール配信（希望者のみチェック）

○事後アンケート（リスナー）

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答

〈設問〉

- ・問 1. ご参加いただいたイベントを選んでください。（回答必須）
 選択肢：①6 月 1 日（水）19:03-20:30「動物園でサルの社会をのぞく・くらべる」村松明穂（高等研究院）、②6 月 6 日（月）19:30-20:30「いろいろな目で乳がんをみる」片山正子（医学研究科）、③9 月 8 日（水）19:30-20:30「認知症の病態研究から治療まで」葛谷聡・後藤和也（医学研究科）、④6 月 10 日（金）19:30-20:30「ワイヤレス人体センシング」阪本卓也（工学研究科）
- ・問 2. ご年齢（回答任意）
 選択肢：10 代、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上

- ・問3. ご職業（回答任意）
 選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、大学生・大学院生（京都大学）、大学生・大学院生（京都大学以外）、大学教員・研究者（京都大学）、大学教員・研究者（京都大学以外）、大学職員（京都大学）、大学職員（京都大学以外）、教員・教育関係者、研究者、会社員・自営業者、公務員・団体職員、主婦・主夫、無職・アルバイト、その他（※その他の場合は自由記述）
- ・問4-1. 本イベント全体の感想を教えてください。（回答必須）
 選択肢：非常に良かった、良かった、どちらとも言えない、あまり良くなかった、良くなかった
- ・問4-2. 上記で選んだ回答に対して、差し支えなければそう感じられた理由を教えてください。（自由記述・回答任意）
- ・問5. 研究者とファシリテーターの対話を視聴して、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。（自由記述・回答任意）
- ・問6. アカデミックデイ 2022～創立125周年記念～イベントのよかった点、改善点について教えてください。（自由記述・回答任意）
- ・問7. オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。（自由記述・回答任意）
- ・問9. Q8. 本日登壇された先生へメッセージがございましたら、ご記入ください。
 備考：回答は任意です。後日、アカデミックデイ事務局から先生へお伝えいたします。


●メインイベント：来場者向けアンケート

今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、「対話マラソンのための給水ポイント」は設けられませんでした。しかし、アンケートの1種類目は例年通り「ドリンクと交換アンケート」とし、総合受付でペットボトルの水と交換できるようにしました。このアンケートの目的は、「京都大学アカデミックデイ」をどこで知ったのか、どのような人が来場されたのかを主催者が知ることでした。

もう1種類は、お帰りの際にご協力いただいた方に記念品をお渡しする「記念品と交換アンケート」です。滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどをご記入いただきました。



● ドリンクと交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)



京都大学アカデミックデイ 2022 ～創立 125 周年記念～

ドリンクと交換アンケート

早めに記入！

以下のアンケートにご記入の上、**15:30 までに受付までお持ちください。**
 ペットボトルのドリンク（お水）と交換させていただきます。

※15:30 を過ぎてもアンケートは受付にて回収しておりますので、ぜひご記入ください

2022.6.19

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？（複数回答可）
 ポスター・チラシを見て ① 高校 ② 京都大学 ③ その他大学（大学名： ）
 ④ 地下鉄 ⑤ 市バス ⑥ その他（ ）

⑦ 京都大学創立 125 周年記念イベント広報
 ⑧ 京都大学ホームページ
 ⑨ 京都大学学術研究支援室（KURA）、K.U.RESEARCH ホームページ
 ⑩ Twitter ⑪ Peatix の案内、広告
 ⑫ Facebook ⑬ サイエンス ポータル
 ⑭ メール案内 ⑮ 会場に来て初めて知った
 ⑯ 知人からの紹介 ⑰ その他（ ）

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？（複数回答可）
 ① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
 ⑤ 京都大学アカデミックデイ（過去 回参加）
 ⑥ 京都大学アカデミックデイ 2022 プレイベント ⑦ その他（ ）

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？
 ① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない


Q 4. 科学・技術に関心がありますか？
 ① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
 ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？
 ① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？
 ① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
 ② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
 ③ 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
 ④ わからない


Q 7. ご自身について教えてください。（※年齢は年代をご記入ください）
 ① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
 ⑦ 京大教員・研究者（年齢 ） ⑧ 京大職員（年齢 ） ⑨ その他（ご職業 年齢 ）

Q 8. お住まいの都道府県はどちらですか。
 ① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他（ 都・道・府・県）


Diabog with the Public
ご協力、ありがとうございました。



● 記念品と交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)



京都大学アカデミックデイ2022 ～創立 125 周年記念～

記念品と交換アンケート

帰る前に記入!

以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください

2022.6.19

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。

Q 1. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？
最も近いものを1つだけお答えください。

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q 2. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q 3. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするのなら、どんな名前の賞にしますか？


例：「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(例：フロム1、ちゃぶ1、など、出展番号はパンフレットを参照) 賞の名前

		賞
		賞
		賞

Q 4. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点
悪かった点



Diaby with the Public

ご協力、ありがとうございました。



■ 3-1-2. オンラインイベントとオンサイトイベントにおける参加者の違い

アカデミックデイ 2022 では、オンラインで実施されたプレイイベントと、オンサイトで実施されたメインイベント、どちらの形式のイベントも開催することができました。当初運営側が想定していたよりは少ない人数ではありますが、プレイイベントに参加されたリスナーのうち 15 名はメインイベントにも参加されました。そこで、開催形式による参加者層の違いに焦点を当てながらアンケート結果を集計しました。

● 参加者数／アンケート回答者数

プレイイベント：

- ・ 事前申込：373 人（同一人物による重複・複数申込は 1 人としてカウント）
- ・ 参加者 521 人 / 回答者数 176 人（回収率 33.8%）

メインイベント：

- ・ 来場者 670 人以上 / 回答者数 616 人（回収率 91.9%）

※ 出入口が複数ありアンケート用紙も不足したため、メインイベントの正確な来場者数は不明

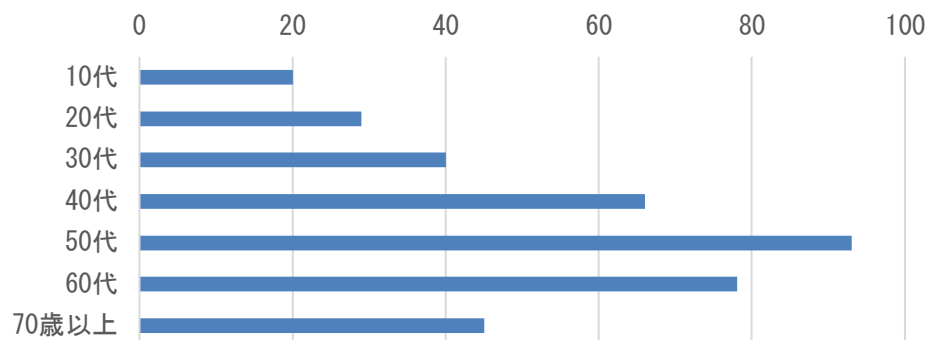
● 参加した人はどのような方だったのか？

・ 年齢層

オンラインイベントでは 40～60 代が多く、オンサイトイベントでは 10 代が最も多い結果となりました。

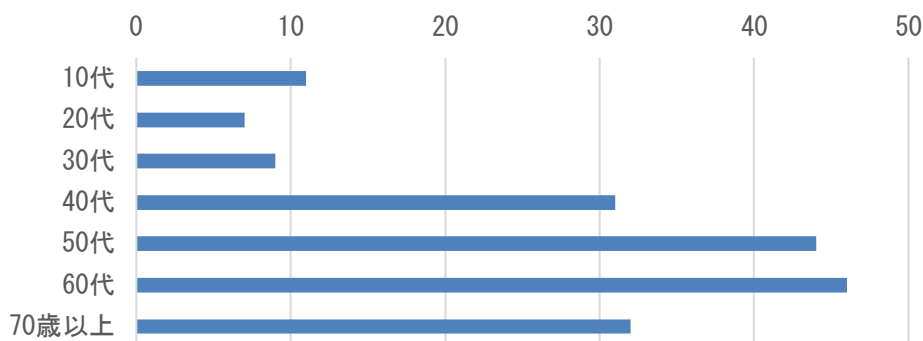
年齢層の違いは、この後の所属の違いにも反映されています。

（プレイイベント：事前申込）



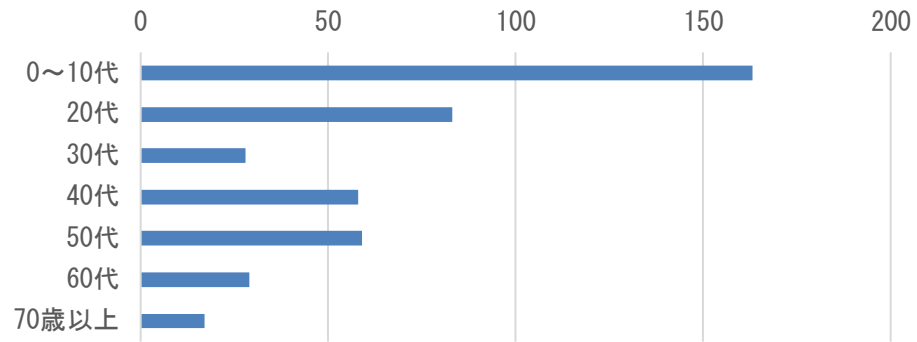
（単位：人）

（プレイイベント：事後アンケート）



（単位：人）

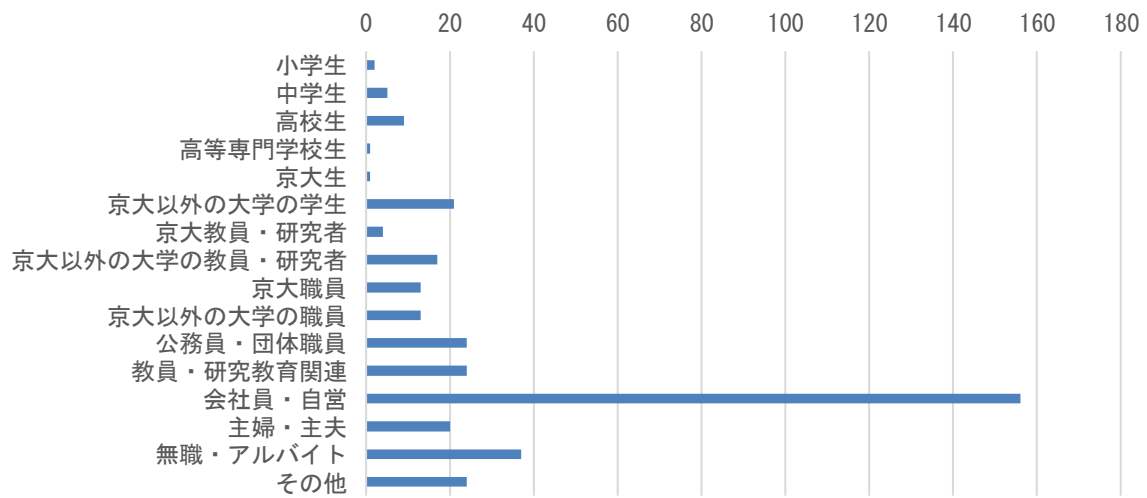
(メインイベント)



(単位：人)

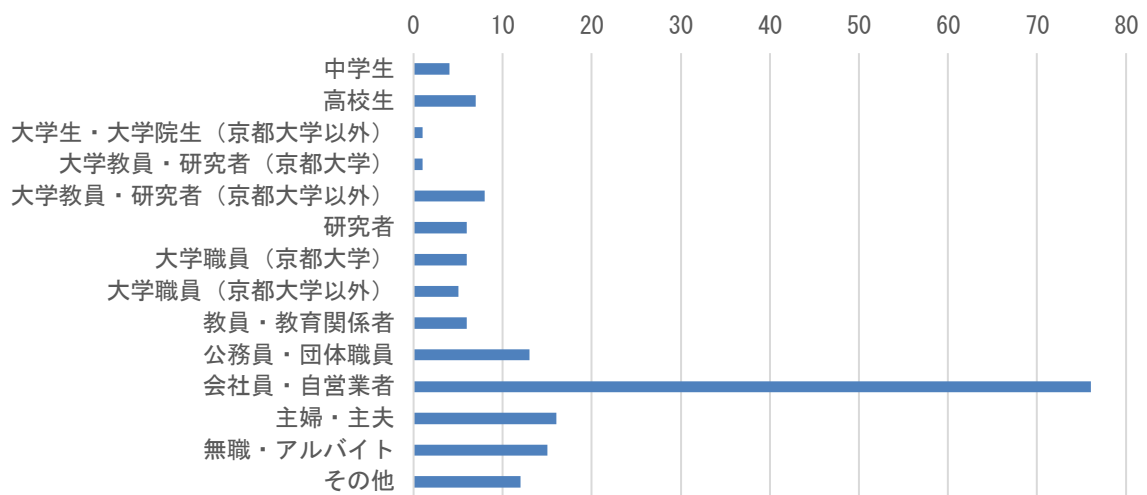
・所属

(プレイベント：事前申込)



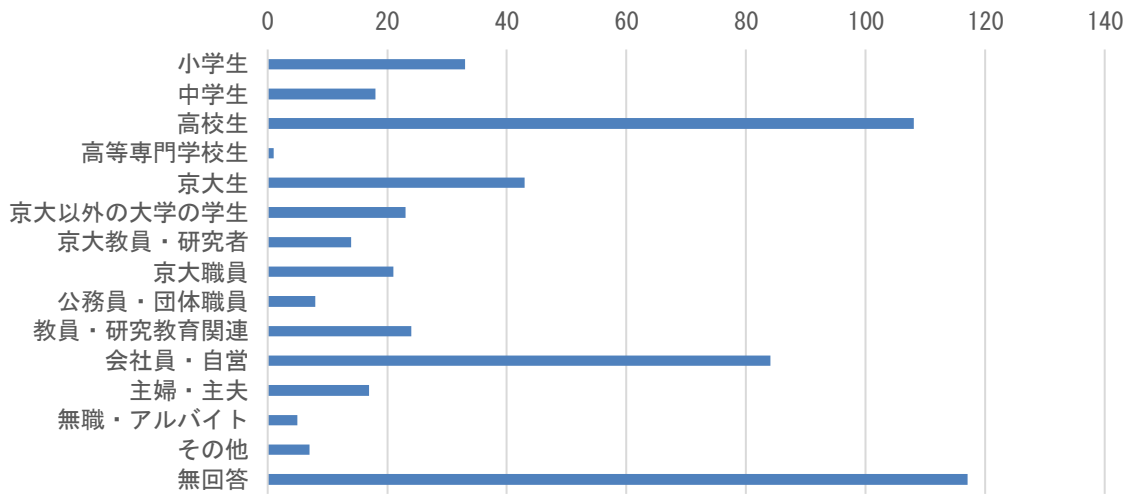
(単位：人)

(プレイベント：事後アンケート)



(単位：人)

(メインイベント)

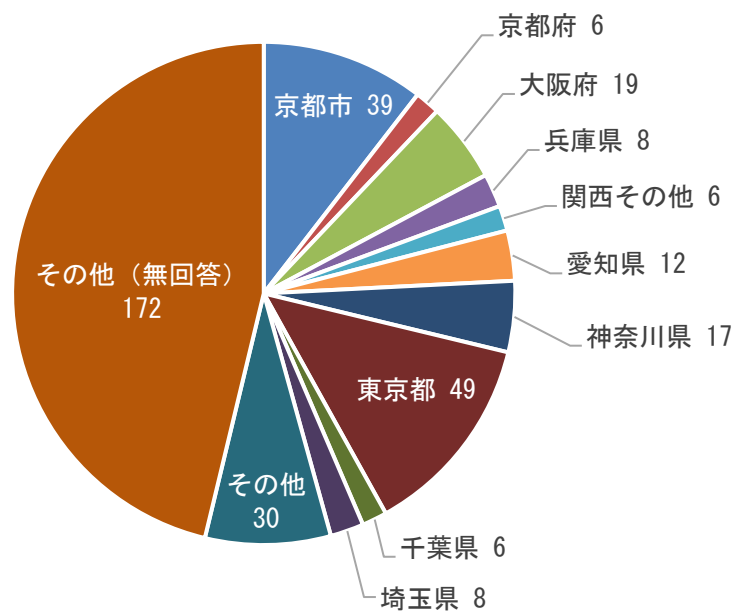


(単位：人)

・住まい

オンラインイベントでは様々な都道府県からお申し込みがあった一方で、オンラインイベントでは関西圏の方が9割近くを占める結果となりました。

(プレイベント ※事前申し込み時のアンケート結果のみ)

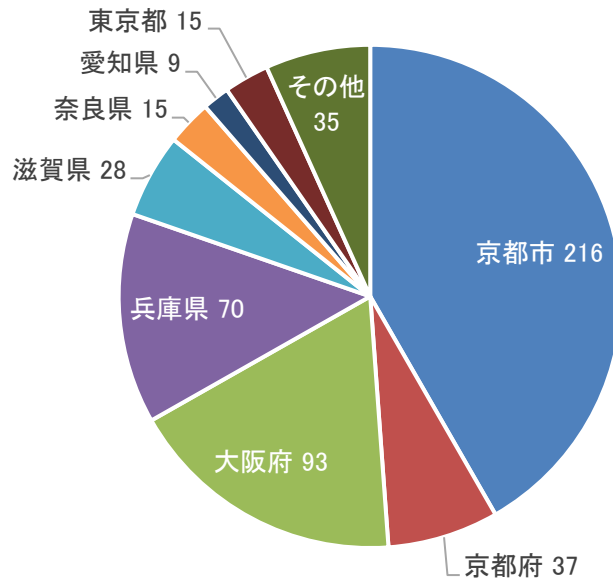


(単位：人)

※関西その他内訳：滋賀県 1、奈良県 4、和歌山県 1

※その他内訳：沖縄県 1、長崎県 1、熊本県 1、大分県 1、福岡県 3、高知県 2、香川県 1、広島県 1、岐阜県 2、長野県 1、石川県 1、静岡県 3、栃木県 1、茨城県 1、福島県 1、宮城県 1、秋田県 1、岩手県 1、北海道 3、海外 3

(メインイベント)



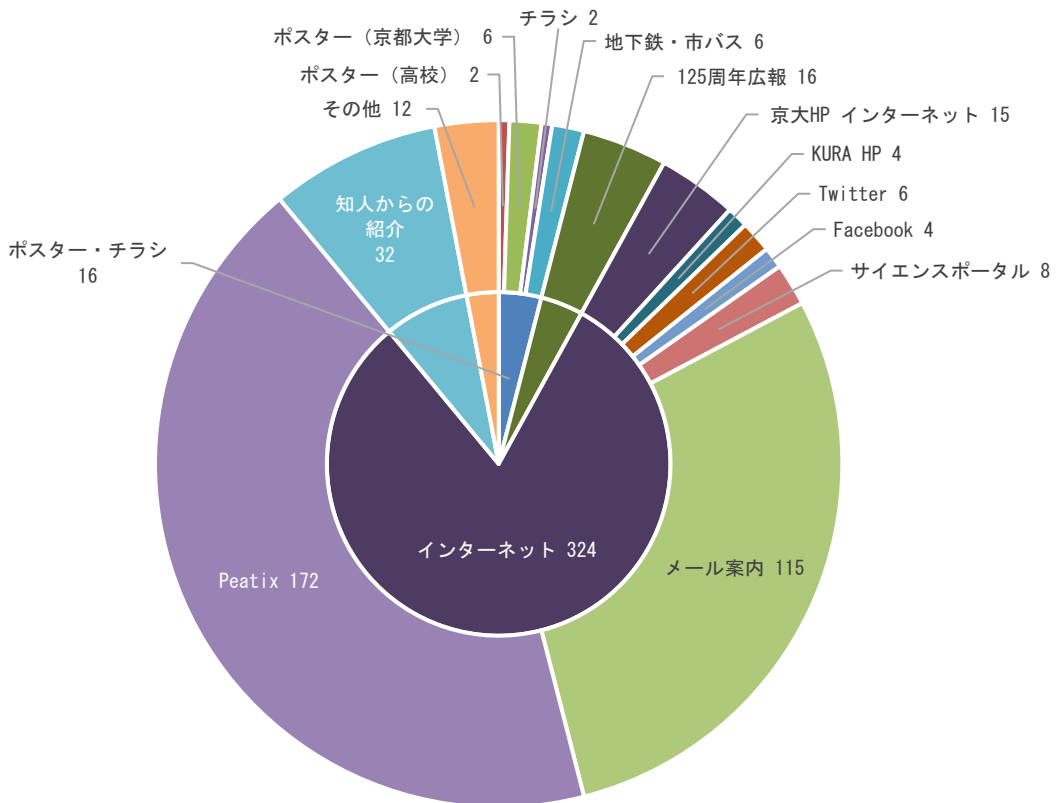
※その他内訳：福岡県 1、香川県 2、徳島県 1、広島県 3、岡山県 1、和歌山県 4、三重県 2、岐阜県 3、長野県 1、石川県 2、富山県 1、静岡県 3、神奈川県 1、千葉県 2、埼玉県 2、栃木県 1、茨城県 1、青森県 1、北海道 1

●参加者 / 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・開催を初めて知ったところ (全体)

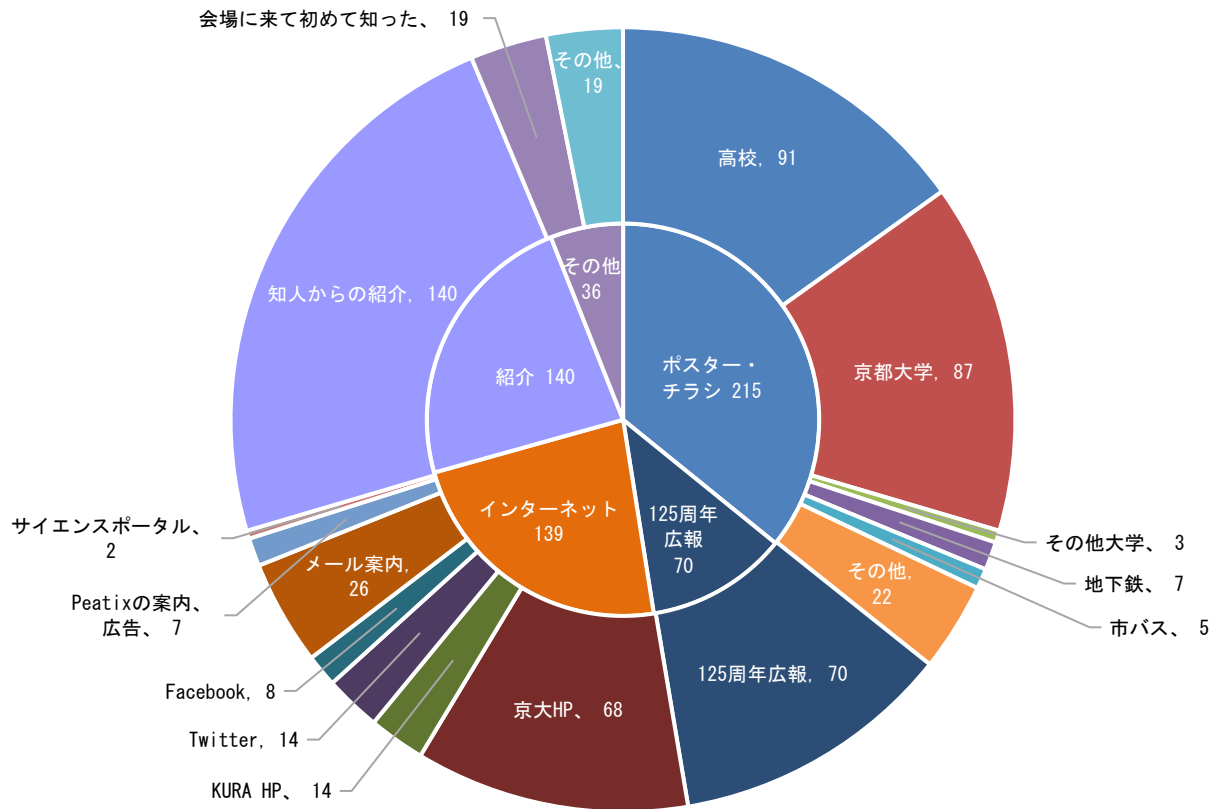
オンラインイベントではインターネット経由で知ったという人が8割を占めていた一方、オンサイトイベントではポスター・チラシの効果が最も大きく、次いで知人からの紹介と続き、インターネット経由で知ったという人は2割程度の結果となりました。

(プレイベント：事前申込 ※複数回答を含む)



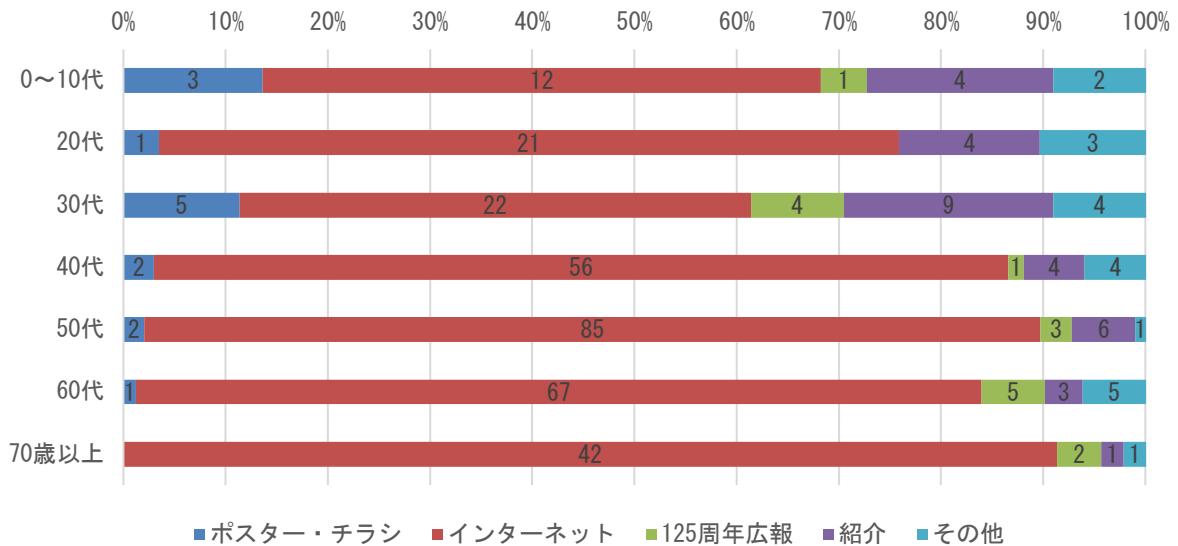
(単位：件)

(メインイベント)



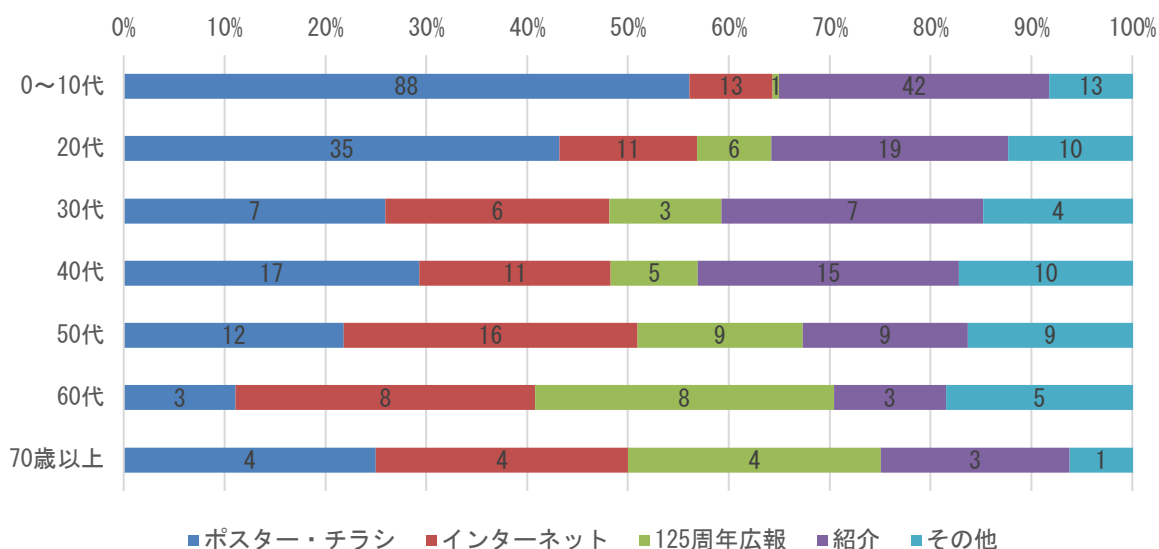
(単位：件)

・開催を初めて知ったところ (年代別 ※いずれも複数回答を含む)
(プレイベント：事前申込)



(単位：件)

(メインイベント)

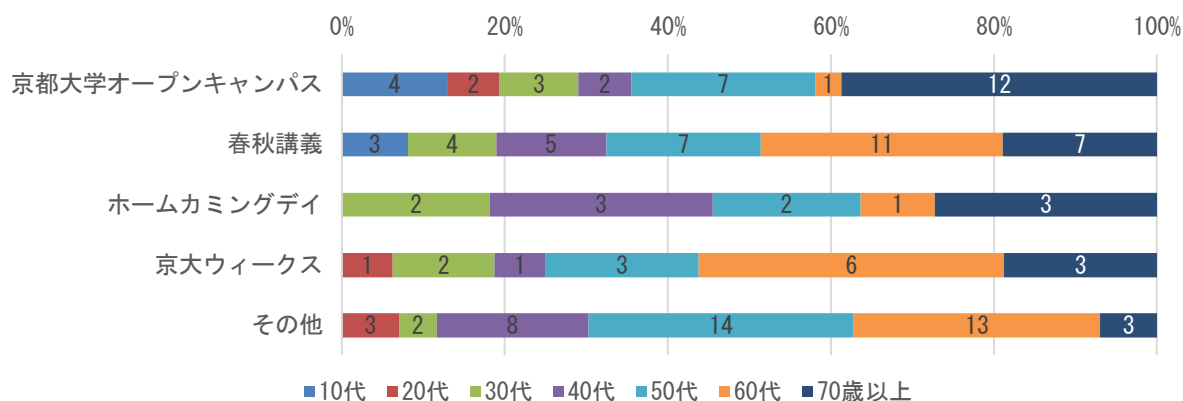


(単位：件)

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

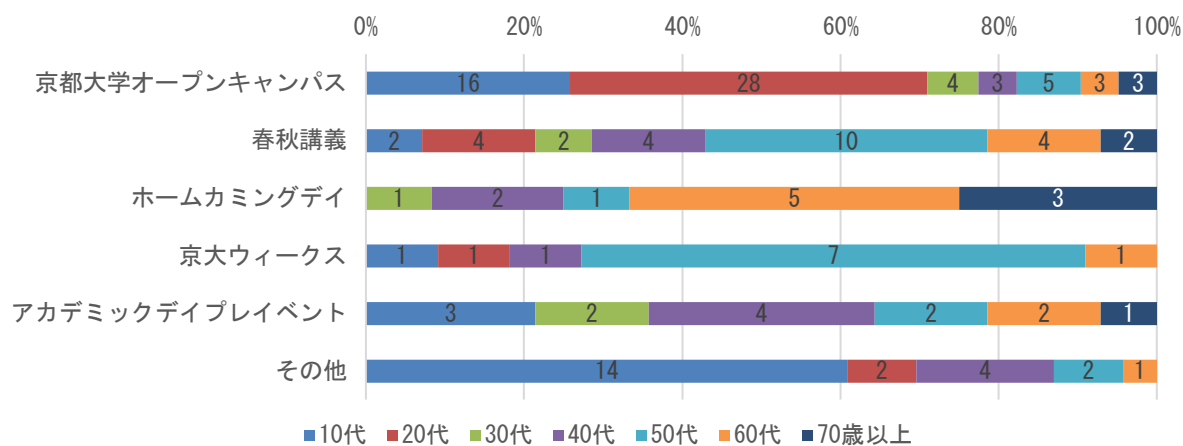
・ 本イベントの他に、参加したことがある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）

(プレイベント：事前申込)



(単位：人)

(メインイベント)

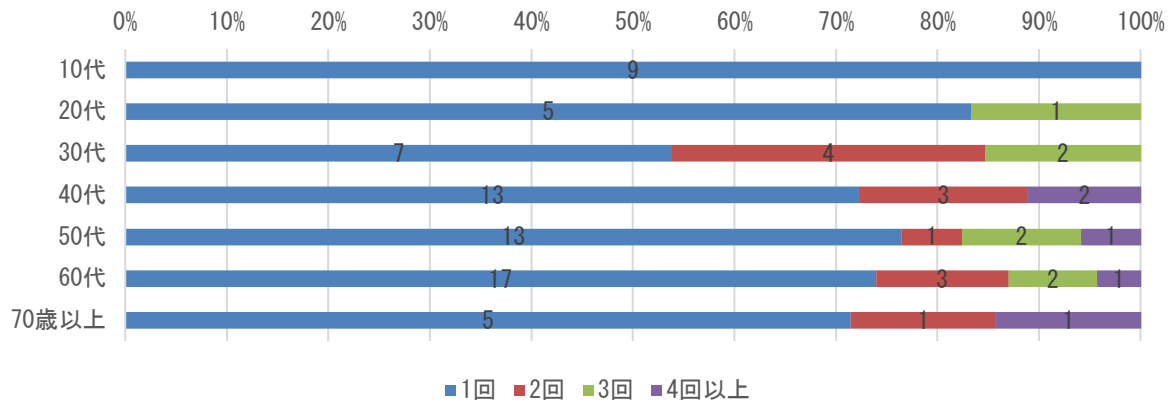


(単位：人)

・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

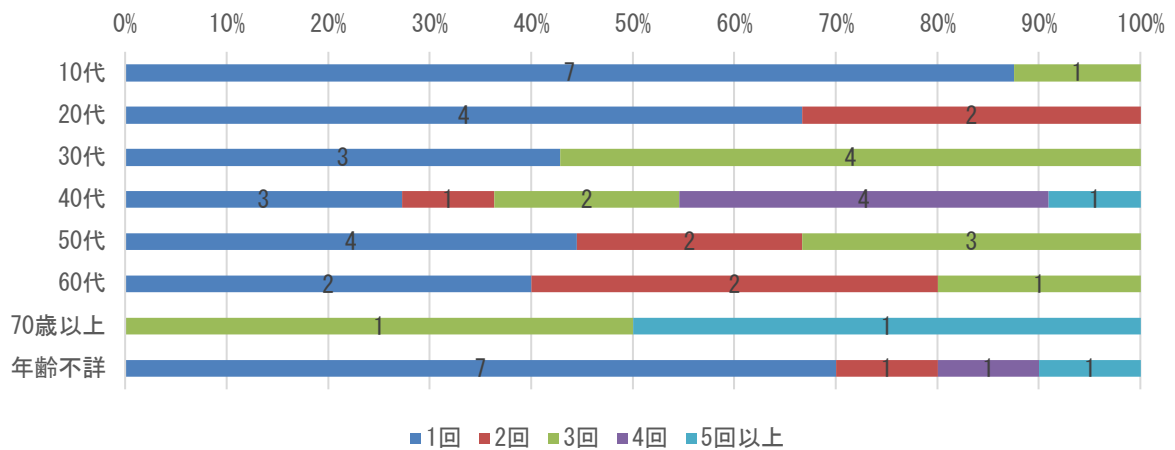
全体の割合としてはオンラインイベントが25%、オンサイトイベントが15%という結果でした。リピーター率はオンラインイベントの方が少しだけ高いようです。

(プレイベント：事前申込)



(単位：人)

(メインイベント)

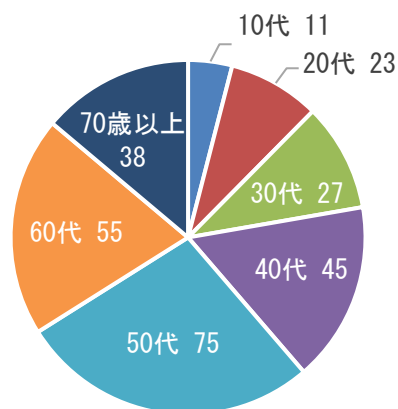


(単位：人)

※参加したことがあると回答したが、参加回数を0と回答した人数（8名）を除く。

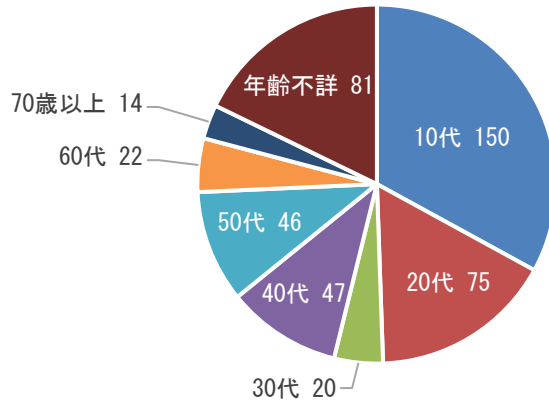
・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

(プレイベント：事前申込)



(単位：人)

(メインイベント)

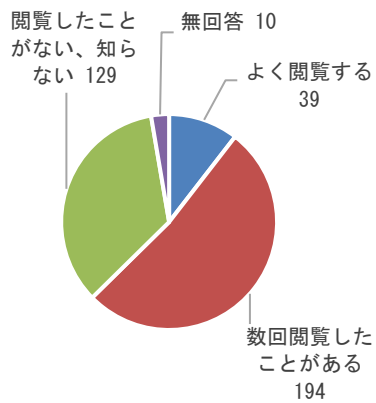


(単位：人)

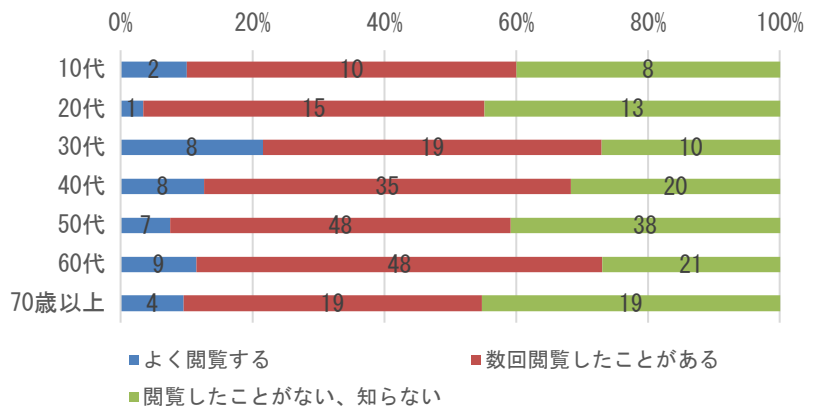
- 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？
オンラインイベントとオフラインイベントで、顕著な差はない結果となりました。

(プレイベント：事前申込)

・全体



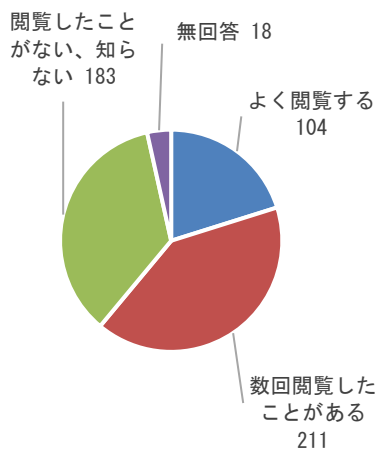
・年代別



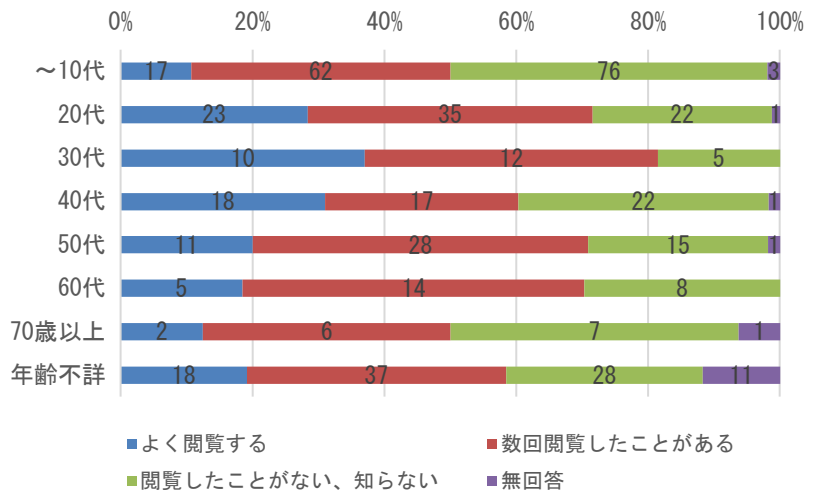
(単位：人)

(メインイベント)

・全体



・年代別



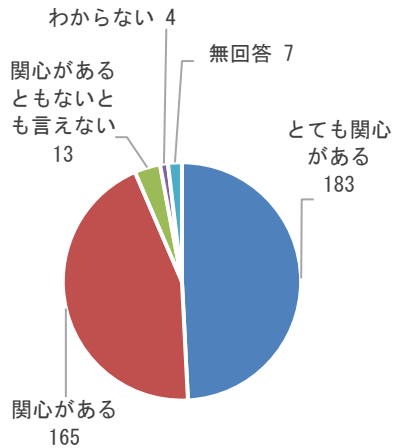
(単位：人)

● 科学・技術に関心がありますか？

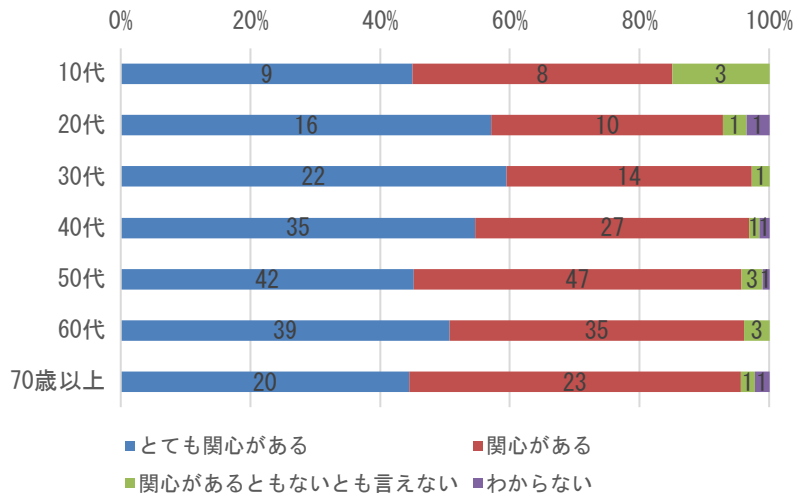
オンラインイベントの参加者は9割以上が科学・技術に関心のある層であったのに対し、オンサイトイベントで関心があると答えた人の割合は7割程度であり、差がある結果となりました。この後に記載される「科学・技術に関する情報を積極的に調べるか」、「探そうとした際にその情報を見つけられるか」、「見つけたら理解できるか」という3種類の質問でも同様の傾向が見られます。いずれもオンラインイベントへの参加者の方がオンサイトイベント参加者よりも、科学・技術に関する情報に馴染みがあり、理解もできると回答する傾向にあることが示されました。

(プレイベント：事前申込)

・全体



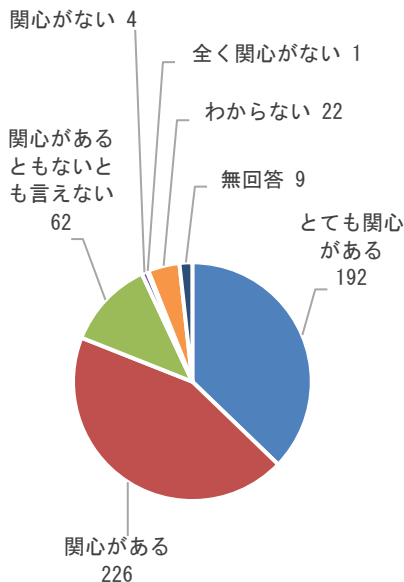
・年代別



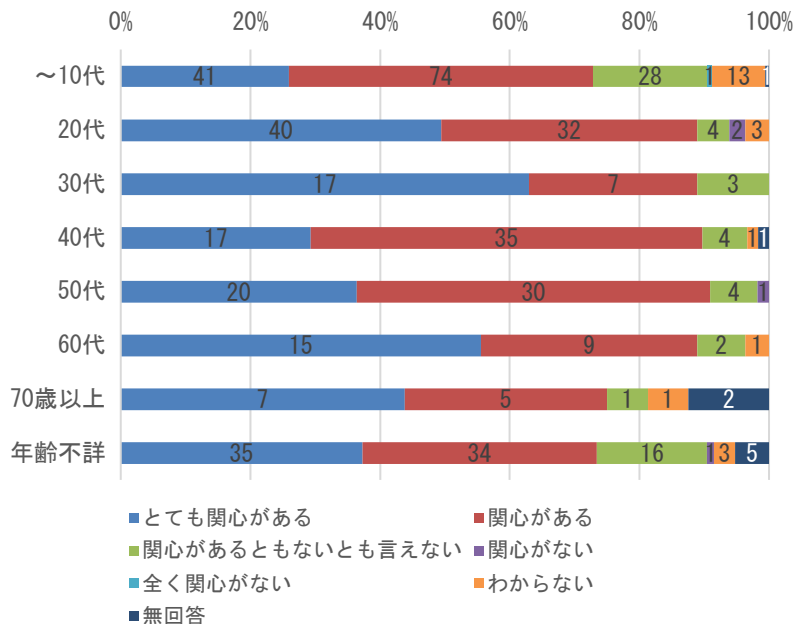
(単位：人)

(メインイベント)

・全体



・年代別

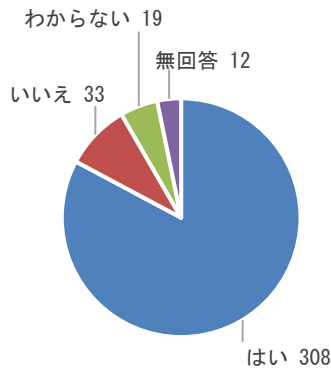


(単位：人)

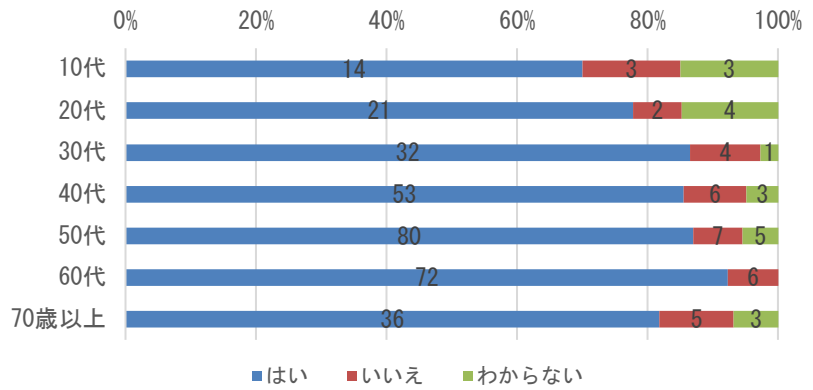
● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

(プレイベント：事前申込)

・全体



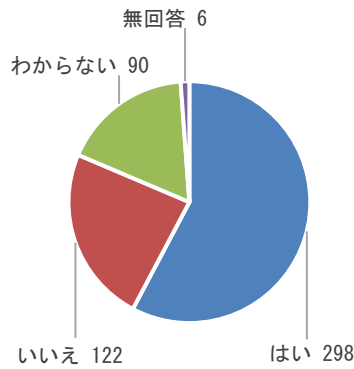
・年代別



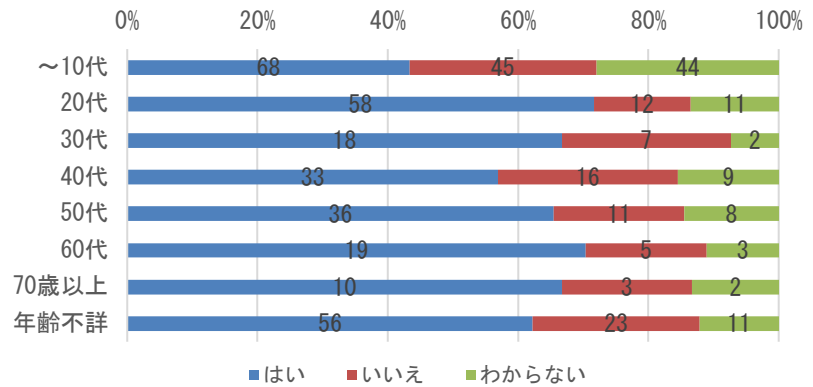
(単位：人)

(メインイベント)

・全体



・年代別

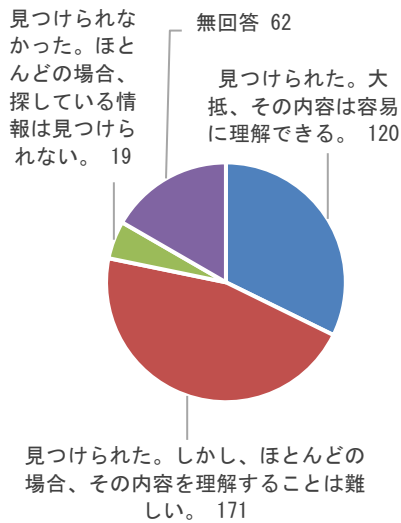


(単位：人)

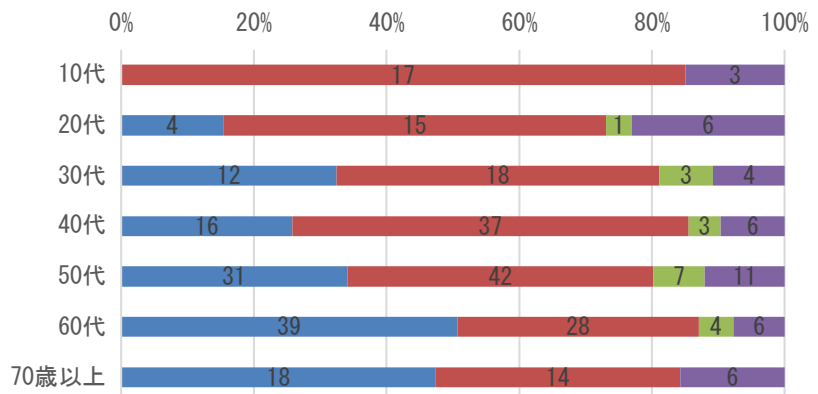
● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

(プレイベント：事前申込)

・全体



・年代別



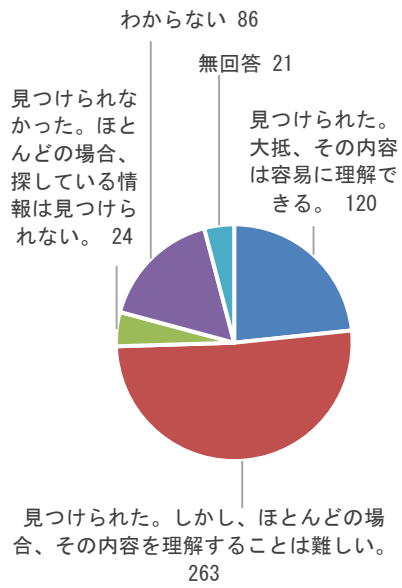
- 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
- 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
- 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
- わからない

(単位：人)

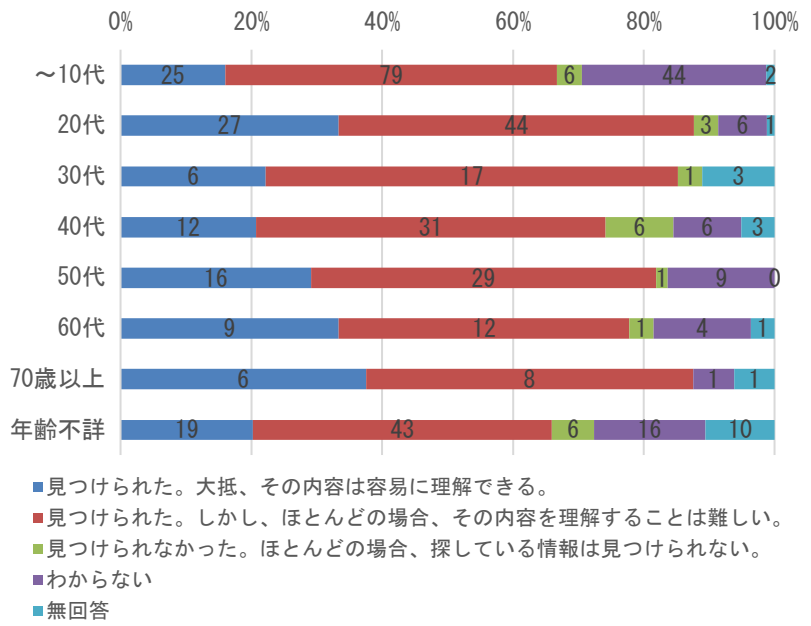


(メインイベント)

・全体



・年代別



(単位：人)

■ 3-1-3. イベント参加後のアンケート結果

プレイベント：参加者のべ 521 人 / 回答者数 180 人（回収率 34.5%）

メインイベント：来場者 670 人以上 / 回答者数 484 人（回収率 約 72%）

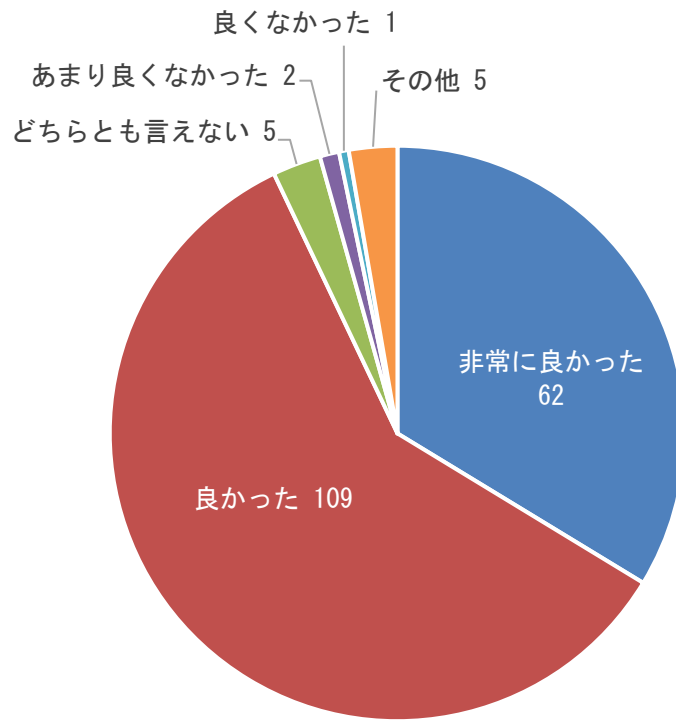
● オンラインイベントとオンサイトイベントにおける記述回答の違い

オンラインイベントとオンサイトイベントで、イベント参加後の感想に違いがあったかを検討するため、両イベントに共通の質問項目であった「研究者とファシリテーターとの対話を通じて / 研究者との対話を通じて気づいたこと、発見したこと、印象に残ったこと」と、「アカデミックデイの良かった点」に焦点を当てました。その結果、「気づいたこと、発見したこと、印象に残ったこと」については、際立って大きな違いはありませんでした。

しかし、「良かった点」にはいくつかの違いが示されました。1つ目は、「気軽さ・手軽さ」のカテゴリーで触れられた内容が異なる点です。オンラインイベントでは、「オンライン配信なのでどこにいても視聴できる点はよかった」など、オンラインというツールならではの気軽さ・手軽さに触れた回答が多く寄せられました。一方、オンサイトでは「自由に質問できる点」や「気軽に話しかけてもらえた」といった、直接対話ならではの気軽さに触れた回答が多く寄せられました。2つ目は、「研究者への気づき」カテゴリーに分類される回答が、オンラインイベントでは見られない点です。「どのブースもフレンドリーに熱心に語ってください「語りあうこと」に出会えました」というオンサイトイベントへの参加者の回答が象徴するように、研究者の熱意や研究に対する姿勢といった“生の人間性”への気づきは、オンサイトイベントならではののかもしれません。2つ目に関連して3つ目は、イベントに対する捉え方の違いです。オンラインイベントでは、「色々なテーマが聴講できる」というコメントにあるように、アカデミックデイを“講義”と捉える人が一定数いることが回答結果から示されました。一方オンサイトイベントでは、アンケート全体を通じて“講”という文字が書かれていたのはクロストークについての感想1件のみでした（回答内容：クロストーク③を聴講して、人間をマジョリティー・マイノリティー、LGBT等タイプ分類することが変ときいて、その通りと気づきました。）。アカデミックデイを研究者からの一方通行に近いイベントと捉えるか、それとも対話型のイベントと捉えるか、開催形式によって違いが生じることが示された結果でした。研究者と市民との距離感という観点では、「対話・距離」のカテゴリーに分類された回答割合は、オンラインイベントとオンサイトイベントに大きな違いはなく、ともに1割程度でした。しかし、オンラインイベントでは「ファシリテーターの質問が分かりやすく視聴者の視点に近かった存在」というように、あくまで第三者を通じた距離感であったのに対し、オンサイトイベントでは「対面で直にお話を伺えるのは、やっぱり嬉しいです。研究に「力」が入ってるのを感じられます。」「見識者とたくさんおはなしできたこと！難しい内容だったけど理解できた！！」という回答にあるように、直接対話できることの喜びが強く伝わってくる回答が多く寄せられました。研究者と市民が対等な立場で、共に研究へのワクワクや熱量を共有する場として、オンサイトの良さが強く伝わる結果と言えるかもしれません。

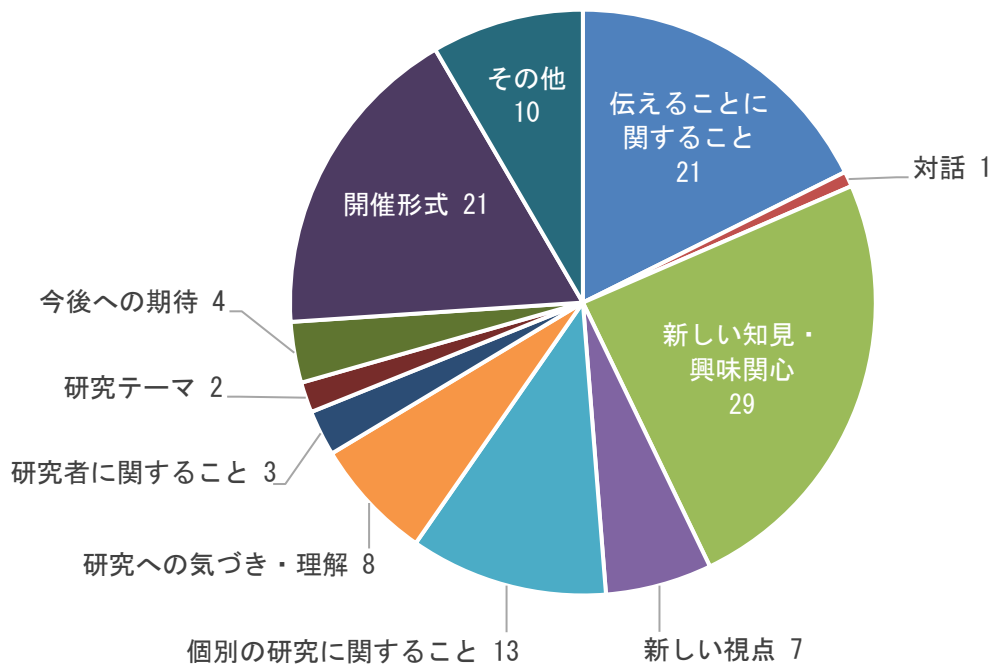
以下は、アンケート結果の詳細です。

● 本イベント全体の感想を教えてください（プライベート）



(単位：件)

・ 本イベント全体の感想を選んだ理由（プライベート：任意回答）



(単位：件)

・ 主な意見

〈「伝える」ことに関すること（21件）〉

丁寧・熱心・親切な対応（3件）

- 分かりやすいように、話そうとされていた。（6/1、60代）
- 難しい内容を素人にもわかるように伝えようとする姿勢、ありがたいなと思いました。（6/6、40代）

- 難しいテーマに対して丁寧な解説をして頂いて、非常に良かったです。特に認知症以前、軽度、中度等の進行や症状の型などの基本かもしれないですが専門的な部分の解説があったのが良かったです。(6/8、年代不明)

わかりやすい説明 (15件)

- お話の流れが理解をするのによく合っていて、興味を引く内容にもなっていました。(6/1、60代)
- 写真などを利用したり、対談形式や投票、質疑応答なども利用していて工夫していると思いました。(6/1、20代)
- 画像診断について、順を追って説明があり、お題が難しいながらも理解しやすいように説明されていると思いました。(6/6、20代)
- 画像診断に使われている技術の違い、特徴をわかりやすく説明していただき理解できました。(6/6、60代)
- かなり基礎的なお話から、最新の話まで幅広い視聴者に判りやすく解説されていた。(6/8、60代)
- 流れが良く大変分かりやすかった。画像診断のプロセスは大変勉強になりました。普遍化するための研究内容等盛りだくさんだったが、感じさせない内容に感嘆しました。(6/6、60代)
- 少し易し過ぎたのでは？ご講演されなかった終わりの方をもっと知りたかった。(6/6、60代)
- 専門家でなくても、平易に身近な問題を皆さんが興味持てるように説明された。勤務大学には医学部が無いが、医工連携や社会福祉、健康スポーツ関係で、高齢者問題される先生も多く、そういう意味でも参考となった。(6/8、60代)
- 少し専門的で話についていけるだろうかと心配していましたが、なんとかついていけてわかりやすい内容で良かったです。(6/10、40代)

プレゼンの仕方・伝え方の工夫など (3件)

- 素人にもわかりやすい講義(動画やスライド)がよく理解できました。(6/1、40代)
- 画像の利用が理解を助けた。(6/8、60代)
- 説明も実験やグラフ、写真など様々な視覚効果と解説によって分かりやすいように工夫されていました。(6/10、年代不明)

〈対話 (1件)〉

- 一般人にとっては、現役の研究者と、ネット越しでもあっても、直接話せる機会は、ほとんどありません。その点で、新鮮でした。(6/1、50代)

〈新しい知見、興味関心 (29件)〉

- 今まで考えてみなかった、人間の猿からの進化をあらためて考える機会となりました。(6/1、50代)
- サルについてあまり詳しくはありませんが、いろいろと面白い話を聴くことができました。(6/1、60代)
- なかなか知ることができないこと(どこで、どう、どんな研究をされているのか)がわかり興味深かったです。また、動画により、実際の研究器具や内容がより具体的にわかりました。(6/6、40代)
- 良性と悪性の写真の解説なども丁寧に頂き、興味深く、また勉強になりました。機械による違いや発展も面白いです。確かに最後時間が足りないところは残念でしたが、質問などのフォローもあるというアナウンスもあり、それもまた興味深く思います。(6/6、20代)
- 今まで、他人事であった病気が自分にも近づいていることが改めて分かった。医学研究の最先端が聴講出来て、今後の健康な生活に役立てたいと思った。(6/8、60代)
- 認知症が改善できる対策があることについては、関心があります。記憶力は生活習慣からということは、良く理解できました。音楽や漢字などについての説明は、面白かったです。(6/8、50代)
- テクノロジーの進歩を目の当たりみるようで大変興味深かったです(6/10、70歳以上)
- 現在、色々な課題に対して情報技術が応用されているが、人間に対して適用される分野について拝聴でき興味が更に持つことができました。(6/10、70歳以上)
- 最先端のものには、問題がつかまとうがそのようなことについて討論し合うことが好きで話題にしたいようなことがたくさん見つかった。(6/10、10代)
- ウェアラブル端末にあまり関心をもっていませんでしたが、今回のお話を聞いて考え直しました。また、呼吸の識別など初めて知る内容だったので、勉強になりました。(6/10、40代)

- 電波の反射で身体の小さな動きが検出できるという技術について、全く知らなかったのが非常に有意義でした。アプリケーションについてのアイデアも紹介されていたので、より理解しやすかったです。(6/10、60代)

〈新しい視点 (7件)〉

- マカカ属を初めて知ることができました。(6/1、50代)
- マンモが普通のレントゲンと同じだけれど解像度の違いがあんなにもあるとは知りませんでした。(6/6、60代)
- 生まれた時をスタートで考えた場合、認知症のリスクは既に始まっているという考えに、驚きました。(6/8、50代)
- 新たな世界を知ることができました。(6/10、70歳以上)

〈個別の研究に関すること (13件)〉

- いろいろな種類の猿がいると勉強になりました。(6/1、40代)
- 研究動向など一般論ではなく、ご自身の研究史に焦点化されていて、親しめた。(6/1、70歳以上)
- 専門分野ではなかったが、話としてはためになった。(6/6、50代)
- 今後の研究や展望について説明が欲しかった。(6/6、60代)
- 脳に認知症が認められていても、症状が出ない方もおいでさそうで、嬉しい情報でした。(6/8、60代)
- アルツハイマーになっても認知症の発症を抑えることができること 音楽療法はパーキンソン病に対し有効であり、認知機能維持に貢献する可能性があることが理解できたことがよかったです(6/8、50代)
- 認知症になる可能性があっても、予見して対処法が取れることが分かり、不安が減りました。(6/8、40代)
- 一人目を出産した頃、「この子の呼吸が知らない間に止まっていたらどうしよう・・・」と考えただけで涙がぼろぼろ出たのを思い出しました。でも研究が進んでワイヤレスセンシングが普及すればそのような不安も減る・・・と嬉しくなりました。(6/10、40代)

〈研究への気づき・理解 (8件)〉

- 研究のやり方などがわかってよかった。(6/1、10代)
- チンパンジーだけでなくマカカ類も学習能力の研究がされていると知ってびっくりしました。(6/1、10代)
- 乳がん検診の歴史的進化が理解できた。(6/6、70歳以上)
- 認知症にたいする、理解度が深まった。(6/8、60代)

〈研究者に関すること (3件)〉

- 先生のお人柄だと思いますが、きっと難しいお話なのに、ずっと入っている素敵な時間を頂きました。(6/1、60代)
- 埴輪好きの人が研究者になって、生き生きと人に伝えようと話していることに勇気をもらえました。(6/1、60代)
- 先生たちの生の生活を少し実感できて良かった。(6/6、50代)

〈研究テーマ (2件)〉

- テーマに興味を持ち参加したので、講座内容がそれとは違い(講座の初めに説明がありましたが)、ちょっと肩透かしというか、残念でした。(6/6、40代)
- 具体的にイメージしやすいテーマで理解が容易だった。(6/10、70歳以上)

〈今後への期待 (4件)〉

- 音楽療法士に期待できそう。(6/8、70歳以上)
- 幅広く社会実装が出来そうだと感じられたため。(6/10、60代)

〈開催形式 (21件)〉

- リアルタイムでクイズないしアンケートが提供されるのも、ライブ感がある。(6/1、70歳以上)

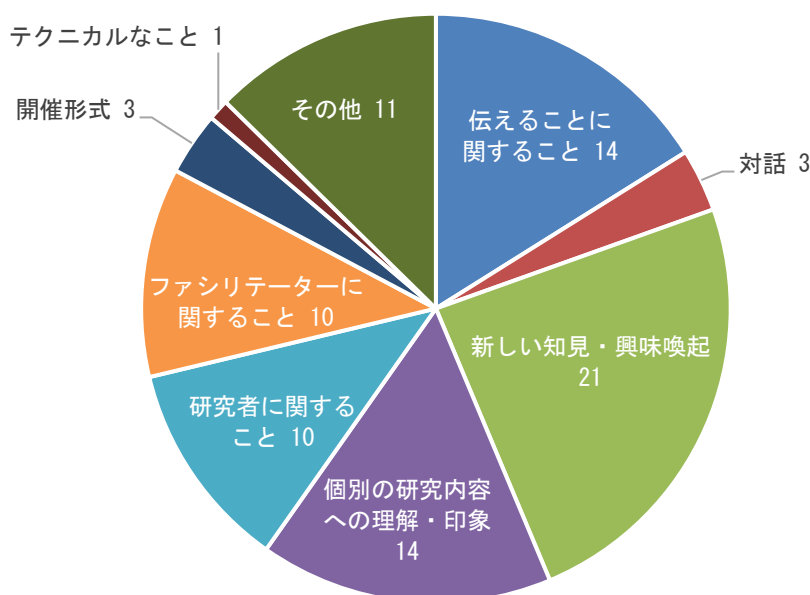
- もっと時間が欲しかった。(6/6、50代)
- 司会者が講演の途中に介入するスタイルも視聴者を飽きさせず、理解を深めるサポートになっていたと思います。(6/8、60代)
- 対話形式で進行されていること、視聴者との双方向性があることが良いと思いました。(6/10、年齢不詳)
- 投票の回数も多く参加型が楽しかったです。(6/10、40代)

〈その他(10件)〉

- オンラインでなければ参加できないので、このような機会がオープンになっていてアクセスが少しでも広がることは良いと思いました。(6/1、20代)
- PPTの資料を配布あるいは公開して欲しい。(6/6、60代)

● (プレイベント) 研究者とファシリテーターとの対話を視聴して発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

・全体



(単位：件)

・主な意見

〈「伝える」ことに関すること(14件)〉

- どうしても前提や概要などにとどまり、深い話にはしにくいのだろうか、と思った。最新の学会発表をタイトルや会場での写真などで紹介すると、内容までは理解できずとも、最先端感が伝わり、より関心を惹いたのでないか。(6/1、70歳以上)
- 研究者の人の話の内容も 説明の仕方も とてもよかったですと思います。(6/1、50代)
- 初めの方がゆっくり説明しすぎたような気がします。(6/6、60代)
- 視聴者の理解が深まるように、質問を入れるなど工夫がされ、効果があった。(6/6、60代)
- わかりやすいところから導入して、専門的な話に持っていく構成が良かった。(6/6、50代)
- 内容がやや難しかった。(6/8、60代)
- ファシリテーターの問いかけが、視聴者の疑問を代弁してくれていたりして、よかった。クイズもあって、能動的な参加できたと感じる。(6/8、60代)
- ファシリテーターの方の質問が、思っていなかったことに至ることでより理解を深くなる助けになったと思います。また、そういった質問に対して研究者の方がきちんと、更に話題の幅を広げて回答されたことで、いろいろな角度からその技術を知ることが出来て良かったです。(6/10、60代)
- 図や動画が多くてイメージしやすかったです。(6/10、40代)

〈対話（3件）〉

- ネット環境が悪いのかうまく意思疎通が図れていなかったのが残念でした。（6/1、60代）
- とても良い雰囲気でした。（6/1、40代）
- とても良い対応関係でした。（6/6、70歳以上）

〈新しい知見・興味喚起（21件）〉

- 今は、動物園でも、きちんと動物の研究ができるようになったのですね。飼育・展示・繁殖だけでも大変だと思いますが、そこからさらに進んで、研究もできるようになったのは、とても嬉しく思います。（6/1、50代）
- 動物園は単なるレジャー施設ではなく、動物たちの未知なる能力を知るための研究機関であり、来園者にとっては学習機関だと実感できました。（6/1、50代）
- 京大附属病院ならではの乳がんの画像診断の最新研究がわかり（深層学習を用いた血管の推定）、興味深かったです。（6/6、50代）
- 認知症の要因と考えられる事項や、漢字、音楽療法について全く知識が無かったので今後の生活を考えて行くきっかけになりました。（6/8、60代）
- 認知症に対する理解がより深まった。治療のみでなく、進行を遅くする薬剤の意義についても再認識できた。（6/8、60代）
- クリニシャンサイエンティストという言葉をはじめて知りました。患者や患者家族はドクターに対してなかなか的確な質問できないので、ファシリテーターの役割は重要だと思います。（6/8、50代）
- 電波で変位を計測。楽しかったです。（6/10、60代）

〈個別の研究内容への理解・印象（14件）〉

- サルたちは一見、似ているようで、先生には全然違うように見えているんだろうなと、思いました。（6/1、40代）
- 今 ますます研究されてることがわかりました。早期発見につながりそうです。（6/6、50代）
- AIが医療関係者を支援するようになりそう。（6/6、60代）
- 認知症の発症には多くの因子が関わっており、それだけに多様なアプローチが想定され、それゆえにエビデンスの蓄積が難しいということがよく分かった。（6/8、70歳以上）
- ワクチンの開発の研究に期待します。（6/8、60代）
- 実用化されるようになれば、より安心、安全な社会になるだろうなと、思いました。（6/10、40代）
- 個人情報もありますが、ワイヤレス技術の社会への実用化はどんどん進めて欲しいものと思いました。いろいろな分野での実用化を期待します。（6/10、50代）
- データが反応している動画が印象的でした。（6/10、50代）

〈研究者に関すること（10件）〉

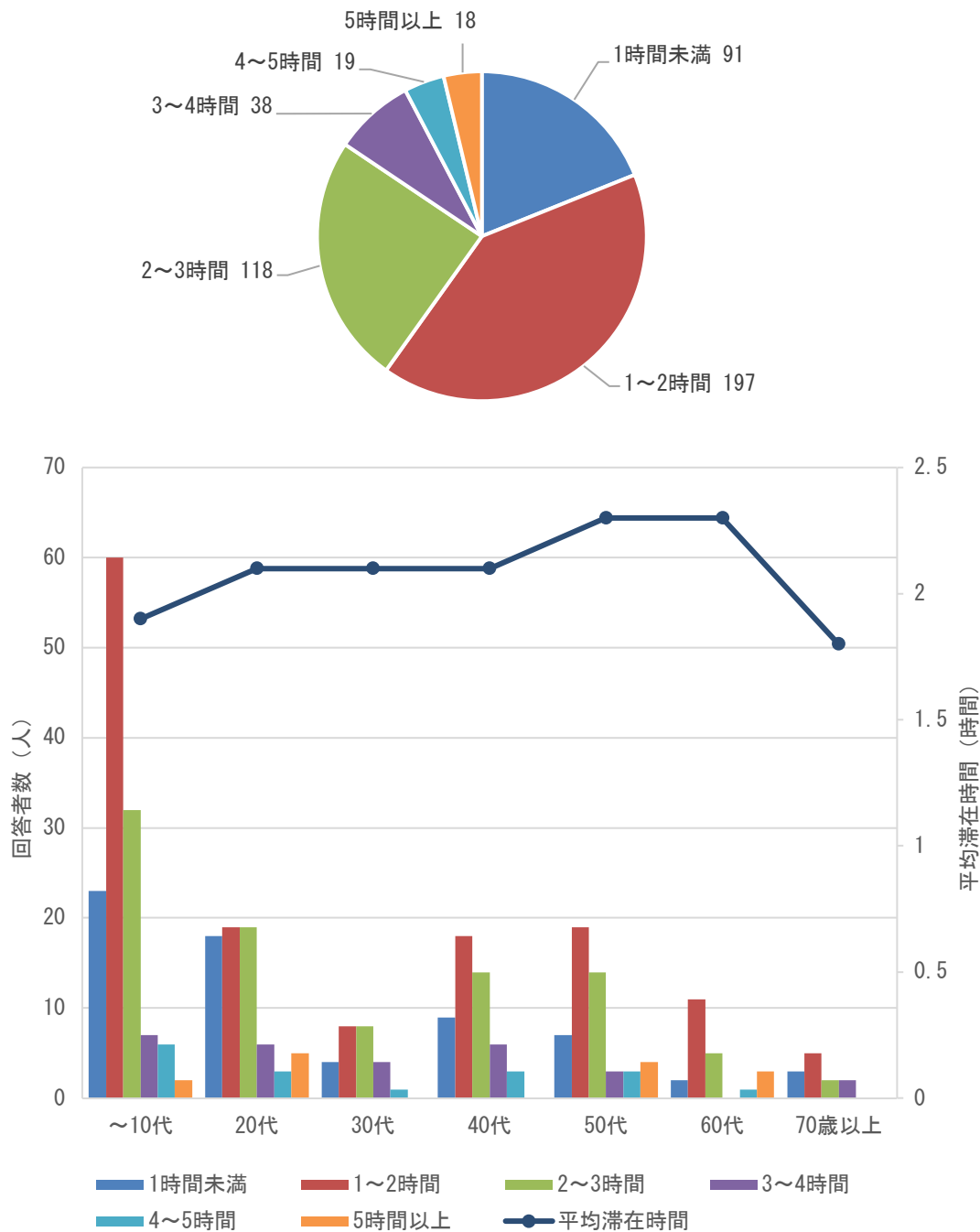
- 楽しそう、それが一番です。（6/1、50代）
- 視聴者へ少しでもわかりやすい言葉でお話ししようという工夫されているところは、昔の研究者像と大きく異なり、好感が持てました。（6/1、60代）
- お話がとても聞きやすくて、また、楽しそうにご研究をされているのが伝わってきました。（6/1、50代）
- 研究者としての探究心及び心構え（6/6、60代）
- 真摯に技術の発展に取り組まれていること、一生懸命説明されているお姿に共感が持てました。（6/6、60代）
- 病院でも分業が進み、間違えもあり、先生方も悩みながら取り組まれていること。（6/6、50代）
- 穏やかながら熱意のある先生方の姿勢が印象的でした。（6/8、40代）
- 認知症の研究をされているのに前向きでポジティブな方々だと思いました。（6/8、40代）
- 様々な角度で物事を眺めていることに研究者の魂を感じました。（6/10、70歳以上）

〈ファシリテーターに関すること（10件）〉

- ファシリテーターさんが代弁してくださったのでその場で疑問に思ったことが解けた印象。サルたちは一見、似ているようで、先生には全然違うように見えているんだろうなと、思いました。（6/1、40代）

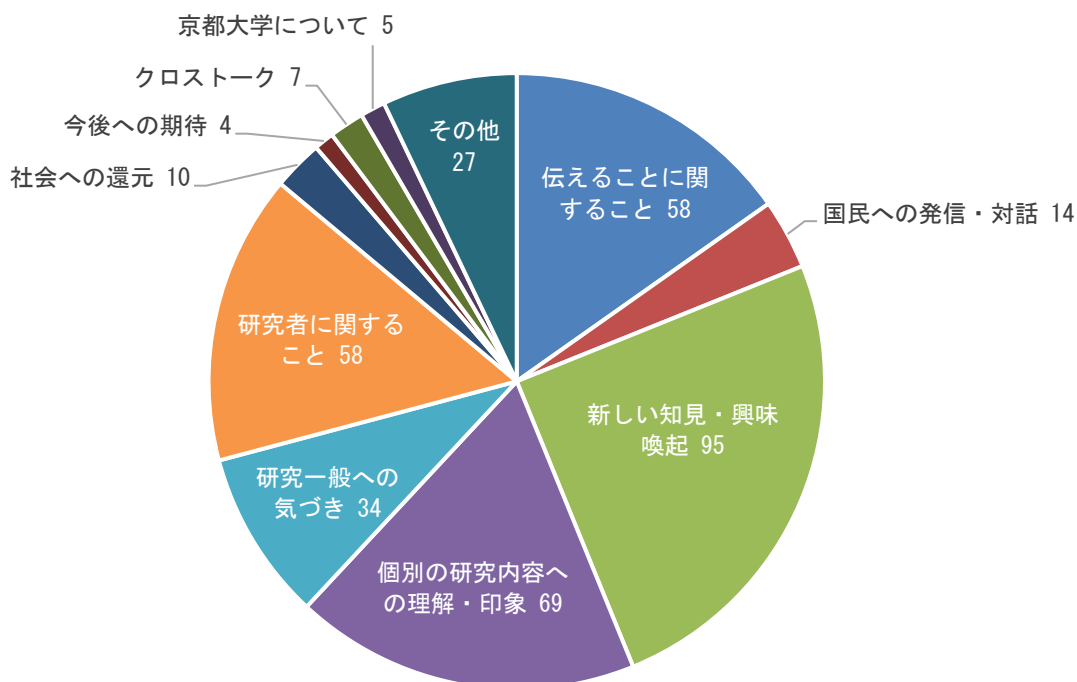
- 私も専門外の方に話をするとき、この形式を真似してみようと思いました！「伝える」という点で、大変参考になりました。（6/6、40代）
- ファシリテーターの方がかなり事前に勉強されているのか、打ち合わせをされているのか、上手にかみ合っていたと思います。（6/8、60代）
- そのテーマに対するファシリテーターの距離感が絶妙で良かった。（6/10、70歳以上）
- 制限時間内で、慌てることのない進行で、非常に安定感が持てました。（6/10、60代）

●（メインイベント）京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？



※平均滞在時間は、「1時間未満」を30分、「1時間～2時間」を1.5時間、「5時間以上」を5.5時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、2.1時間。無回答241件を除く。

- (メインイベント) 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？
・全体



(単位：件)

・主な意見

〈「伝える」ことに関すること (58 件)〉

丁寧・熱心・親切な対応 (19 件)

- 熱心に説明していて、熱意を感じた。(60代)
- 非常にわかりやすい言葉を選び、親身になって研究の魅力を伝えてくれる情熱が一番印象に残りました。(30代)
- 対話する相手に合わせて話の難度をかえてくれていた。本当に社会をよくしたいのだという思いが伝わってきた。(年代不明)
- つたない言葉で質問してしまったのですが、私の意図をできる限りくみとろうとしてくださったこと。それぞれの方が目的から研究の応用に至まで熱量を持って語っておられること(20代)
- 高校生に丁寧に説明していて、若い人に関心をもってもらおうとしてたところ。(30代)
- その分野に対する熱意や、愛が伝わってきた。(年代不明)
- 目をまっすぐみて、ご自分の専門の話をしてくれる。うれしい。(年代不明)
- とてもくわしく丁寧に説明くださり、なるほどと思うことが多々あった。(年代不明)
- 質問に対し即座に、かつ丁寧に答えてくださり、いつも色々なことをよく考えているのだろうと思った。(10代)

楽しそう (8 件)

- 皆さん楽しそうに説明されていて、本当に好きなんだなと思った。(40代)
- 研究者の方がとても楽しそうに話して下さるので こちらも楽しかったです。(10代)
- 皆さんとても、楽しく研究されており 情熱を感じました。とてもわかりやすかったです。(年代不明)

わかりやすい・詳しい説明 (23 件)

- 最先端の研究を分かりやすく説明して頂けて楽しかったです。(40代)
- できるだけ難しい言葉を使わずに、わかりやすく説明してくれて、とても楽しめました。(年代不明)
- 難しい内容であってもかんたんなことばで 人に伝えることができるということ(私には伝わった) (10代)

- 基礎的な知識がないと会話することが難しい、せめて高3まで学習するべき。(10代)

話しやすい・楽しい・親しみやすい (8件)

- 話しやすかったです。(50代)
- 研究者の方とのお話しが本当に楽しかったです。(10代)
- 研究の題はとても難しそうでも、実際、お話をうかがっていると、私達の生活に関連していて、身近なところに研究が生かされてて 親近感を感じました。(10代)
- 素人に分かりやすく話す方と、質問がしづらい方がいる。(30代)
- あまり話せませんでした、それでも声をかけてくださる方は こちらの興味にあわせて丁寧に控え目に専門的なことをお話くださり心地よかったです。(10代)
- 研究していく楽しさを伝えてくれました。「誰も知らないことを発見する喜び」という言葉が印象に残りました。(20代)
- どの研究者もよく話してくれました。(20代)
- 研究者の方々の考えることはとてもおもしろくて、難しい言葉も多かったけど楽しめました！(年代不明)

〈国民への発信・対話 (14件)〉

- 研究者が市民や社会に対して自らやっている研究を伝えることの大切さ。(40代)
- 知らないことが知れて良かった こうしたイベントをまたしてほしい。(年代不明)
- 研究者が一般市民に科学知識を広めてるのがとても重要で素晴らしいと思いました。(20代)
- 世に知られていない研究が山ほどあり、それを一般の人に伝えられる機会がもっと増えることを期待したい(10代)
- 現場意識の強い若い方が多くてすごい。アウトリーチ的な活動をして下さるのはありがたい。(50代)
- 外部の人に積極的にコミュニケーションをとり 研究を発展させようという姿勢に感銘を受けました。(50代)
- (息子が) 研究者の方とお話ししてとても有意義な時間を過ごしていたと思います。(50代)
- 最新の知見について、直接、研究者の方と お話できたのは、貴重な経験でした。(年代不明)
- まさにこれから世界をかえていこうとしている エネルギーのようなものを強く感じました。(年代不明)
- 大学生活においても対話する機会と時間が欲しいと思った。(20代)
- 次は京大開催で研究室を 見学したいです。(年代不明)
- 画面でよりも実際に顔を合わせた方が たのしい。(年代不明)

〈新しい知見・興味喚起 (95件)〉

全体的視点・気づき (17件)

- 発表概要のうらにある背景やそれにまつわる経緯、今後の広がりなどをうかがい知れて良かった。(10代)
- 研究が楽しそうだな！(40代)
- さすが京大の方だなと、色々よい刺激になりました。最先端の技術のウラには、素晴らしい研究に知見があるのだなと、改めて痛感しました。(30代)
- お金をかけなくとも大きな成果を 得られるすごさ。(40代)
- とても細かく、特化した研究が多く、関心することがあった。(10代)
- ずっと細かいところを調べるっておもしろいと思いました。(10代)
- 科学技術が非常に高度になっていることが 良くわかりました。(70歳以上)
- 難しい研究であったとしても、その解決策は意外にも シンプルな発想が多かったことに、グッと来ました。(20代)
- 理論を実用に応用している事。(年代不明)
- 世の中におもしろい技術がたくさんあって それらに支えられていると気付いた。(20代)
- 理系の先生方の研究と自分の生活の結びつきが わかっておもしろかったです。文系の先生方のお話もぜひききたいです！(年代不明)
- 自分では気付かない事 知らない事に出会えたこと(20代)

- 研究者向けの内容かと考えていたが、小さな子供から 高齢の方まで様々な人を相手に話をされていて興味深かった。(20代)
- 生物おもしろい、と気づきました。 いろんなジャンルのはなしをきけてたのしかったです。(10代)
- いろいろな人や本のこと宇ちゅうのことがいんしょうにのこった。(10代)
- 研究者と話したこと それぞれの研究者のいろいろなことを知れた。(10代)

個別の研究 (39 件)

- 小さいものを調べるには大きなものが要る。(年代不明)
- 今までナノを知らなかったけど興味を持ちました。(40代)
- 光子の量によって色が変わることが印象に残った。(10代)
- 量子力学とか詳しくきかないとわからないことがきけた！(40代)
- 量子力学が色々なところで重要だと気づいた。(20代)
- 素粒子と宇宙のつながりがとても興味深かった。(10代)
- 素粒子を宇宙誕生の関係がおもしろいと思った。(10代)
- 本で読んだことがある量子力学とその応用の話ができたのはとても嬉しかった。(40代)
- おもしろいことがたくさんあるなど、特に量子力学がおもしろそうだと感じました。(年代不明)
- 細胞など、身近なものにひそむ研究のもとについて知ることができた(20代)
- 動物の細胞を調べたいと思った。(40代)
- RNA はとても万能で今後の使い道に興味があわいてきた。(10代)
- アントプレネナーの話をきけて、興味があわきました。(50代)
- アントプレネナーについて LGBTQ とのつながりがおもしろかった。(年代不明)
- リモートセンシングのお話が、実用的で とても興味深かった。(20代)
- 自治体において AI を用いたシステムを導入する際、どこまでのメニューをカバーするかも検討する必要があると気づきました。(10代)
- 社会健康医学系専攻の方とお話して、介護にあたって留意する点に気付いた。介護する立場、介護される立場、両方からの思考と行動が重要ではないかと思料する。(20代)
- 木の端材を有効活用するという観点でとても興味深い内容でした。(20代)
- CLT のお話で、たくさんいいところがあるのだなと知ったし、実物を触ることができてよかったです。(年代不明)
- CLT 材料を使い建物を建築するのは興味深めました。SDGs の一環だと考えています。(20代)
- CLT について TV、本との情報・違い理解することができた。強度木造を広めたい。(30代)
- 建築の面白さをより実感できた。(10代)
- 物質そのもので性質を変えていく方向性に面白さ感じました。(年代不明)
- 物質の分析に赤外線などを利用してさまざまな応用がなされることはおもしろいと思った。(50代)
- こうもりの標本について、詳しくきいて、身近なものでも知らないことが多くておどろいた。(10代)
- 臨床統計学です。医療品の承認に利用されていることを知り興味深く思いました。(年代不明)
- 数学の統計や ASEAN など学校で習うのとは別の視点から お話を聞けてとても良かったです。(10代)
- 工学は機械 だけではないと感じた。(10代)
- これまでは理系の側面から都市やまちについて考えていませんでしたが、土地の歴史を考えることも面白いと知った。(10代)
- 白川道は初めて知りました。(年代不明)
- 白川道のなり立ち、どのような歴史があったのかよくわかった。縄文から平安・丙地期までのうつりかわりをするのができて興味をもった。(40代)
- 白川通のはなしから、自分がすんでいる近くにも、歴史が多くあることを知っておどろいた。(10代)
- ていねいに話してくださり興味深い白川辻。認知症についても興味深かった(20代)
- 血管性認知症に差しかかっているとされる父の、車の運転に対する受け止め方、対処法を勉強させていただきました。(40代)
- ちっちゃい時にしっぽがあったということがとてもびっくりしました。(10代)
- 人類自体が何か進化しているか そんな方向に向かっているのか知りたいと思いました。(50代)

- アパタイトとチタンがくっつきやすいことにも興味を持ちました。(10代)
- 途上国支援は先進国が学ぶ場でもあるということ。(20代)
- アフリカでのし尿分別型のトイレの説明をきいて、そういうふうな方法もあるのかと驚かされた。(10代)
- 自分の嗅覚障害が、パーキンソン病から来てる可能性が低いことを知れた。(10代)
- 社会性・多様性のそれぞれその言葉の意味を考え直す機会になった。(50代)

研究分野について (6件)

- 工学と理学で、目的の違いから研究テーマの着眼点に違いがでるのがおもしろかった。(10代)
- 色んな分野が絡まりあって面白い研究ができるなって思いました。(20代)
- 研究の中にも多様性があったとおもしろかったです。(10代)
- どの分野もおもしろそうで、理解したいなと思いました。また、異なる分野で実は共通の課題をかかえていることが分かりました。(20代)
- 連けいが行なえるといいなと感じた。(60代)
- 学問横断的な作業や考え方が印象に残りました。(10代)

自分への還元 (7件)

- 自分自身の興味のある分野の再認識・発見ができました。又、数多くの社会問題に対する研究を知ることができ、楽しかったです。(10代)
- 自分がよく知らなかったこと(ハイエントロピー合金など)を知った。自分の研究の今後を考えることができた。(10代)
- 自分の興味のあることを見つけられた。(10代)
- 自分の抱く疑問が、どの目線に立った疑問なのかということを意識すべきだと気づかされました。(20代)
- 医師として現場で働くことにしか興味がなかったけれど、RNAの話を実際に聞いて、研究にも興味をもちました。RNAの使い方がたくさんあったことに、印象が残っています。(10代)
- 自分が将来やりたいなと思えるような話を聞けました。(10代)

楽しい・勉強になった・面白い (26件)

- 考えたり・話したりすることは、心の底から楽しい!と思えました。(40代)
- 学びは視点を変えて楽しめる。(40代)
- 興味のある話にふれて学びを深められた。(20代)
- 幅広い分野を知ることの楽しさ(20代)
- とても興味をそそられる研究内容ばかりで面白かったです。(10代)
- いろいろ、知らないことをたくさん知れたり、実物を見れたり、質問できたりして、すごくおもしろかったです。(50代)
- 少し未来の技術の元が知れておもしろかったです。(50代)
- 焼き杉の活用や細胞の研究など いろんな分野を知れてたのしかった。(年代不明)
- 不得意な分野でも学ぶことは楽しかった。(10代)
- 普段、何げなく通る道ややっている事の研究が面白かった。(10代)
- どのように研究しているのか気になっていたのですが、それが分かって面白かったです。(10代)

〈個別の研究内容への理解・印象 (69件)〉

理解したこと (31件)

- マウスなどから実験する。臨床統計学をしているところは少ない。(10代)
- 統計学は医学にとって、重要です。(20代)
- iPS細胞についてくわしくきけた。(10代)
- iPS細胞の実用性や様態(10代)
- 素粒子の存在、環境対策(10代)
- 素粒子による宇宙創成の迷の解明(40代)

- 陽子がバラバラになるのに、とても長い時間がかかること。(10代)
- ニュートリノにいくつかのしゅるいがあることです。(10代)
- 光子について、参考になりました。(50代)
- 光子1個単位の制御が可能になっている。(年代不明)
- もつれについて知った。(10代)
- 京都の古道について(50代)
- プロム6の研究が印象に残った。非接触の測定に可能性を感じた。(20代)
- サルはすごいと思いました。(30代)
- サルとヒトの違いはあるも、サルの行動分析は人の行動分析に役立っている。(20代)
- マラウィのトイレ問題と農業問題をあわせて解決しようというとりくみ、実践に感銘を受けました。(40代)
- アフリカの研究はリアルがあって様々な情報のカンレン性に気づかされた。(40代)
- 途上国の人々は先進国に憧れているが受け身になってしまっている。(10代)
- 焼スギで虫よけが出来る(年代不明s)
- 木はずっと見てもあきない。人は2日でしっぽがなくなる。(40代)
- 赤ちゃん(胎児)のしっぽが数日で消失すること(30代)
- 木は一人あたり420本だと気づいた。(40代)
- 木にはしゅるいがある。(10代)
- ナノ半導体が細胞の発光に応用されていること。(50代)
- 想像もつかないほど小さいものがいっぱい集まって目に見える大きさになってる。(40代)
- 音楽療法の効果(10代)
- 認知症の最新研究を知ることができた。(50代)
- 認知症予防に有効な方法(年代不明)
- 水銀の処分(50代)
- 水銀処理の難しさ(10代)
- アントレプレナーということばを知った。(10代)

印象に残っていること(38件)

- 属・種の近さ(10代)
- 生体鉱物について(10代)
- 標本(10代)
- はくぶつかんのこうもり。(10代)
- こうもり、白川古道(70歳以上)
- 生きる基軸について(40代)
- プロム3 人生を穏やかなものにしたいです。(70歳以上)
- 生命倫理(心理に関する世界観の広がり)(10代)
- 「生きる基軸」「LGBTQとアントレプレナー」(50代)
- GLTすごい!(20代)
- CiRA(RNA)(50代)
- RNAの研究がすごいらしい!(20代)
- ナノってすごい!!(10代)
- nmがこれからは強い(ミクロの世界)(10代)
- 原子核のイメージが少し変わった。(10代)
- 光子について、応用の仕方など、特に、安全な通信手段として使うというのが印象的だった。(10代)
- 量子力学(10代)
- VRでみたこと(10代)
- 極析研究の重要性(70歳以上)
- しっぽの話、しっぽ切除の歴史と医療との連けい(10代)
- 歯の再生はできないのか。(年代不明)

- セラミック技術（年代不明）
- 昔の土器（20代）
- 認知症は参考になった。（年代不明）
- サルの研究が面白かった。（20代）
- 猿の話、勉強する様子（年代不明）
- 国際的な研究が面白かった。（20代）
- プロム8よかった。（60代）
- オープンラボ型が画期的（40代）

〈研究一般への気づき（34件）〉

研究のあり方（6件）

- 研究はチームでやるのが大事。（10代）
- 研究への向き合い方（20代）
- どんな研究もラクではない。（60代）
- 1つの課題に対して複数のアプローチがあり、それぞれに知識と人材と技術が求められることを知りました。（10代）
- 哲学的な面から考える研究も、科学的なエビデンスに基づいた研究も、どちらも大切だと思いました。（10代）
- 毎年来ていますが、基礎研究がホントに大切だと、いつも思います。（60代）

面白さ（3件）

- おもしろい研究が多い。（60代）
- 研究におけるおもしろさって、やっぱり大事だと思った。（20代）
- 研究が楽しそうだと思いました。（30代）

研究分野について（13件）

- 学部を超えた研究が多いと思った。（10代）
- 学部と研究内容がイコールではないということ。（年代不明）
- 文系、理系の枠をこえた融合的な研究があること（30代）
- クロス研究（文・理）がよくあることに気づきました。（50代）
- 領域横断的な学問も多いんだなと思った。（10代）
- あまり関係のない分野どうしにつながりがあったこと。（10代）
- 学校内で、研究科をこえたネットワークが広がっていたこと。（30代）
- さまざまな研究分野が相互に関連していること。工学・理学を中心に見ていたら、さっきいたなっていたことがありました。（年代不明）
- 分野がそれぞれ分かれていて、またそれぞれの研究に特異性がある事を知った。（10代）
- いろいろ光ってるなと思いました。分野が細分化されているなと思いました。（20代）
- 研究の多様性と勢い（熱）（30代）
- 各分野で様々な研究がされている事を発見しました。（40代）
- 1つのその研究がそこで終りでなく、他の分野、研究とつながり、そこで新しいことが発見されていく、こと（10代）

研究の出口（3件）

- 1つの研究がいろんなことにつながっている！研究者たのしそう！（10代）
- 研究は目先の利益、効果を追求する訳ではない。（年代不明）
- どの研究も人々がよりよい生活を送るためにおこなわれていると思った。（10代）

その他 (9 件)

- 研究には、様々な制約が存在することを改めて思い知りました。(10代)
- 古きをたずねて新しきを知る。(40代)
- 研究の奥行きを感じられました。(30代)
- 意外とまだ解明されていないことがたくさんあるんだな、ということ。(年代不明)
- 地道な研究が多い。物事の基礎がよく分かった。(年代不明)
- 理学系と工学系で実社会との距離感、特に政治との距離感の違いを感じました。研究が自由であるために学問軽視の政権にNOがいえるのは理学系なのかな…(50代)

〈研究者に関すること (58 件)〉

生き生き・楽しそう (10 件)

- 研究者がとても楽しそうに話をしてくれる キラキラ感が印象的でした。(30代)
- みなさんと楽しそうにお話されていたのが印象的です。研究の中で大変なこともあると思うのですが応援しています。(20代)
- 研究を楽しんでいる姿がステキ(30代)
- みんな生き生きしていた。(20代)
- 誰もが本気で楽しんでいる！(10代)
- 誰も知らないことを研究されている方々ばかりで みなさんととてもイキイキされていたのが印象的でした。(10代)

真剣・夢中・熱意 (21 件)

- 熱意のアフレテイルこと(60代)
- ご興味のある研究に対しての探究心はすごいです！(年代不明)
- 研究対象への熱量がすごかった。(40代)
- 皆様熱意が素晴らしい方々ばかりでした。(50代)
- 考えてもみなかったことを熱心に研究しておられる。(40代)
- 皆さん世の中のために懸命に頑張っておられる。(年代不明)
- 日本をよくしていきたいという熱意と、自分の研究への愛(50代)
- 研究者の方々が熱意と愛情をもって 研究分野に取り組んでいたのが印象的だった。(20代)
- 自分がやりたいことを突きつめている姿にあこがれました。(10代)
- 皆、自分の研究に自信や誇りをもっている。(50代)
- Researcher were very passionate about their research & loved to talk & inform(20代)
- アフリカのために尽力していてすごいなと思った。(10代)
- 皆さんとても、楽しく研究されており 情熱を感じました。(年代不明)
- みなさん熱心に研究されておられました これからも頑張ってください(60代)
- ずっとあきらめずにがんばっていたこと。(年代不明)
- 研究に対する熱意に感動しました。(50代)
- 研究に真摯に向きあっていることが分かった。(10代)

考え方・思い・モチベーション (11 件)

- どの様な意識で研究しているのか(30代)
- 研究内容の将来をよく考えている点が印象に残りました。(60代)
- 研究者さんの研究をはじめたきっかけが知れて良かったです。(10代)
- 研究者の視点を知ることができてよかったです。(30代)
- 研究者の皆さまがどのようなモチベーションで研究に取り組まれているのか、実際に生の声で伺うことができたのは大きな収穫でした。(年代不明)
- 研究者の興味あることがスケールが小さいものから大きいものまで様々であった。(10代)

- 研究者の方も、悩み、試行錯誤をつづけていて、その中でも伝えたいメッセージがあるのだと改めて気づきました。(10代)
- 楽しく研究しているなかでも、いろいろな苦悩もあったりして、いろんなことを思いながら研究されているのだなと思いました。(10代)
- 理論から応用まで見通しを持って研究されている方が多い印象を受けました。皆さん研究の話をする時とても楽しそうでした。(20代)
- どこに還元するためかを考えて働くことが基本的な考えとと思っていましたが、「興味」で深くけんきゆうする姿がりりしいと感じました(20代)

多様性 (3件)

- 各研究室には、多様なバックグラウンドの人がいて、それぞれ研究なさっていることが分かりました。(20代)
- 多様な研究者がいること。(30代)
- 色々な研究をされている人がいるとわかったし、どの話も面白かったです。(10代)

その他の研究者の印象 (14件)

- 若い研究者の方が多く、好感がもてる人が多かった。(30代)
- 現場意識の強い若い方が多くてすごい。(50代)
- 学生が楽しそうに研究しているところは内容も新しいことに取組む姿勢があること(年代不明)
- 研究者は説明するのが好きな事を再確認(50代)
- 好きなことを自由に学んでいる所。(年代不明)
- 知ってることと知らないことを意識している。(20代)
- 専門的な知識の深さだけでなく、分野がかけはなれているものにも造詣が深くて驚きました。(10代)
- 京大生が世界を変えるためや発見について がんばっていて、その内容も高度だった。(10代)
- 「研究者も一般人と変わらない」という言葉。知らず知らずのうちに、線を引いてしまっていたことに気づいた。(30代)

〈社会への還元 (10件)〉

- 世の中や未来に役立つように研究をしていた。(10代)
- 社会に直接貢献しそうな研究をしていた。(10代)
- 最近の研究がいかに社会に結びついていかに気がつきました。(年代不明)
- 社会課題に向き合ったテーマが多かった。(60代)
- 未来の為の研究(年代不明)
- 医療に結びつく研究が多かった。(年代不明)
- 研究が実際に社会の役に立っていることに感激した。(年代不明)
- その研究が、どのように社会にえいきょうしていくかなどまで みすえたけんきゆうをしているところ。(年代不明)

〈今後への期待 (4件)〉

- どの研究も時代を開く基礎研究。成果と実用化が楽しみ、期待しています。(70歳以上)
- 早く実用化へ！(70歳以上)
- アルツハイマーのワクチンが早く出来て欲しいと思いました。(50代)
- わからないことはまだまだいっぱい。これからまた楽しみです(50代)

〈クロストーク (7件)〉

- サウスホールにて、研究者の方々のお話を聞き、研究内容もおもしろかったですが、小さいころの夢や、研究者への道程なども興味深かったです！(50代)
- クロストークを聞きながら、仕事で思案していたことのヒントになりました。(10代)

- 多様性について、ヒトが主観で考えていることが多いことに気づいた。(20代)
- クロストーク③を聴講して、人間をマジョリティー・マイノリティー LGBT等タイプ分類することが変ときいて、その通りと気付きました。(20代)
- 多様性を生きるのクロストークが面白かった。(30代)
- 多様性についての試論が良かった。(年代不明)

〈京都大学について (5件)〉

- 京大はやっばりすごい!! (年代不明)
- 次に生まれ変われるなら、京都大学に入学します。(年代不明)
- 京大はおもしろそうだなと思いました。(10代)
- 京大のすごさを感じました。(40代)
- 京都大学はいろいろな部があること。(10代)

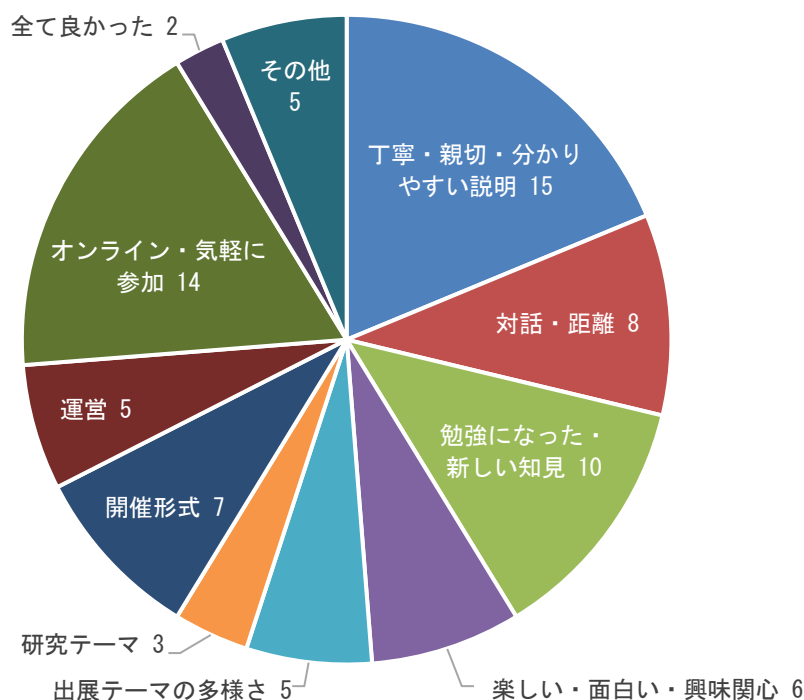
〈その他 (27件)〉

- 偏差値が高そう!! (60代)
- 身近なテーマがあった。(60代)
- なかなか話がきけるタイミングがなかった。(年代不明)
- 難しかったが最新の研究を見ることができた。(50代)
- メリットのみで語ることはたしてよのか。(年代不明)
- 専門が数学でも医学研究科に入れること。(20代)
- 以前きた時よりポスターがデカくて見やすい。(20代)
- 男性が多い… (50代)
- 大学の勉強は高校での授業や受験勉強とは全く違うということ。(10代)
- もう一度学生として学びなおしたい!(40代)
- 早く大学で研究がしたい!と思いました。(20代)

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

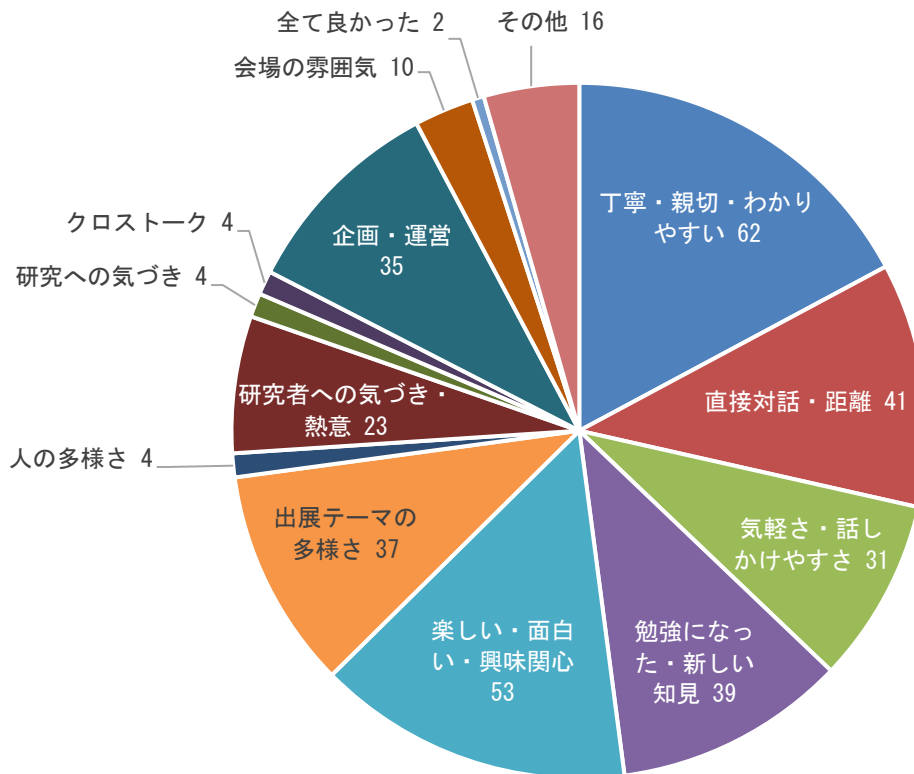
〈良かった点〉

- ・全体：プレイベント



(単位：件)

・全体：メインイベント



(単位：件)

・主な意見：プレイベント

〈丁寧・親切・分かりやすい説明（15件）〉

- 分かり(理解)やすかった。(6/1、70歳以上)
- 難しい技術や、きちんと伝えないといけないという所で言葉を選びながら話されていたところが好感が持てました。(6/6、60代)
- きっと難しいのだらうと思うことを、興味さえあれば理解できるようにお話しされて良かったです。(6/8、60代)
- 日本の研究の最前線の内容をわかりやすく伝えてくれること。(6/8、60代)
- 非常にわかりやすい説明でした。(6/10、60代)

〈対話・距離（8件）〉

- 意思表示ができて参加している感じがして飽きなかった。(6/1、70歳以上)
- インタラクティブなのがよかった(6/1、60代・6/8、50代)
- 研究者の先生が庶民にわかりやすく最先端の研究を伝えてくれる事(6/6、50代)
- 司会進行の方と研究者の方とのやり取り(6/6、50代)
- 対話形式でリモートでも気軽に質問できたところ(6/8、40代)
- 研究を、より身近に感じる事ができた。(6/8、60代)
- ファシリテーターの質問がわかりやすく視聴者の視点に近かった存在。(6/10、40代)

〈勉強になった・新しい知見（10件）〉

- 1時間で内容が深いところまで掘り下げられていて良かった。(6/8、40代)
- 身近な話題で、認知症が改善できる可能性を感じる事ができました。(6/8、50代)
- 通常知り得ない情報を得る事ができ楽しかったです。(6/8、50代)
- 認知症対策は社会課題として取り組むべきと改めて感じた点。(6/8、50代)
- 最先端の研究の一端を垣間見られたこと。(6/10、60代)

- 時代の未来が感じ取れた。(6/10、60代)

〈楽しい・面白い・興味関心 (6件)〉

- 自分の知らない世界を垣間見られ、その分野へ興味を持たれたことです。(6/1、60代)
- 時間帯、長さもちょうど良く、楽しかったです。(6/1、50代)
- 普段見られない放射線科医仕事を知ることができてとても興味深かったです。(6/6、10代)
- 興味深く拝聴していたら1時間があったという間に過ぎてしまいました。(6/8、30代)
- 興味深い話だった いろいろな問題が絡んでくる最先端という感じがしてとても面白かったです。(6/10、10代)

〈出展テーマの多様さ (5件)〉

- 内容が多岐の分野 (50代)
- 総合大学としての間口の広さがうかがわれた。(70歳以上)
- 広い分野に亘り普段、テーマになりにくい内容について取り上げて頂き良かったと思います。(70歳以上)

〈研究テーマ (3件)〉

- テーマが興味深い (70歳以上)
- 今年一回目ですが、テーマの選定、先生のプレゼン内容ともよかった。(60代)

〈開催形式 (7件)〉

- Q&A 投票 チャットで参加型で良かった (40代)
- 突出しやアペリティフの感じで、コース料理への期待感を高めることができそう。(70歳以上)
- さわりだけちょこっと紹介し、当日への期待を盛り上げるという点では成功だろう。(70歳以上)
- 時間帯、1時間が良い。(50代)
- 曜日をばらして開催している、固定だと予定が入っていると参加できなくなる。(60代)

〈運営 (5件)〉

- 講義内でのアンケート実施⇒視聴者をリアルに知ることができる (50代)
- 前回のアンケートで、終了時刻を知らせる音楽の音量について改善をお願いしたところ、今日のセミナーで良い感じになっていました。(60代)
- スムーズなアンケートシステム (40代)

〈オンライン・気軽に参加 (14件)〉

- オンラインによって、とても京都まで行かれない人に対しても、京都大学で研究されている内容を知る機会が与えられたことが良かったです。(60代)
- 対話形式でリモートでも気軽に質問できたところ。(40代)
- オンラインで手軽に参加できた。(50代)
- 京都に行くことができないので、ぜひ、これからもこういう企画をしていただきたいとおもいます。(50代)
- オンライン配信なのでどこにいても視聴できる点はよかった。(50代)

〈その他 (5件)〉

- 大学が現実に研究している。ニュースでないことが大切で日々の努力が良いですね。(70歳以上)
- 前知識を持って、参加できると思いました。(40代)

・主な意見：メインイベント

〈丁寧・親切・わかりやすい (62件)〉

- 丁寧な説明で気楽に初歩的質問もできて、満足でした！(70代以上)
- 実際の研究者の話を知ることができて、調べていることよりもわかりやすかったです。(10代)

- 一般向けにレベルあわせに注意されていたこと。(50代)
- 研究者のみなさんが優しく話が分かりやすかった。(10代)
- 難しい話を分かりやすく解説して下さった。(20代)
- 知識があまりなくても理解しやすかった。(20代)
- どんな質問でも親切に対応して分かりやすく説明してくれた。(10代)
- 相手にあわせて話をしてくれた点(楽しかったです。来年も行きます！)(40代)
- 子供にわかるように説明して下さった。(10代)
- クイズ形式にして説明して下さった点。(10代)
- 資料がわかりやすい。(40代)
- 様々な研究テーマをわかりやすく教えてもらえ、研究者の生の声を聞くことができた。(50代)
- 実際に研究されている方からのお話なのでとても分かりやすく、熱意が伝わってきた。(年代不明)
- 感染対策もなされ落ち着いた雰囲気の中丁寧に説明して頂けました。これからも楽しみにしています！(50代)

〈研究者との直接対話・距離(41件)〉

- 研究者との距離が近い。(50代)
- 研究をしている人の直接話しが聞け、質問でき楽しかったです。(年代不明)
- 普段の生活では会えないような、研究をされている方のお話がたくさん聞けた点。(20代)
- 普段関わりのない研究者と一対一で話ができる、かつそれが(オンラインではなく)対面でできた点。(10代)
- 見識者とたくさんおはなしできたこと！難しい内容だったけど理解できた！！(10代)
- オンラインはやっぱり良い！研究と一般の人の垣根がない。(40代)
- 同じ研究科の人(学生)と直接お話をできたこと。(20代)
- 研究者の人から直接お話を聞いて熱を感じられてよかった。研究を応援したくなった。(40代)
- 日頃ネット上で興味を持っていた研究について直接研究者にお話を聞くチャンスを受けてとてもうれしかったです。(50代)
- 対面で直にお話を伺えるのは、やっぱり嬉しいです。研究に「力」が入ってるを感じられます。(50代)
- 研究をしている人と対等に話せたこと。(年代不明)

〈気軽さ、話しかけやすさ(31件)〉

- ブースに近寄りやすかった。気軽に話かけてもらえた(40代)
- にぎやかで話しが聞きやすかったです。(10代)
- 悩んでたら、声をかけてくれて、わかりやすく、フレンドリーに教えてくれたこと。(10代)
- 自由に好きどころに話をききにいかたし、すいてるところにしてみると自分の好きではない話も聞いてたのしかったです。(10代)
- ○○したら良いという問いかけにも”参考にします。といわれて、うれしいです(70歳以上)
- 研究者の方が積極的にこちらに話かけて下さったので質問しやすかったです。(10代)
- 純粋にアカデミックな追究を発信されているため、聞きやすかったです。(年代不明)
- とてもフレンドリーに話ができる方が多く楽しかったです。(50代)
- いろいろな分野がありそれぞれの研究者がよく話を聞いてくれた。(10代)
- ざっくばらんにお話できてよかった。学生さんもいらっしやるのが良かった！(30代)
- 自分の話を聞いてくれたり、質問に答えて下さったこと。板書がみやすかったこと。(10代)
- 「研究者と立ち話」にてお話をお聞きできるだけでなく自分が気になっている研究や将来について相談させていただけたこと。(10代)
- 気軽に自由に出入りできる点(40代)
- 気軽に研究者と話ができる所(40代)

〈勉強になった・新しい知見(39件)〉

- いろいろな研究について知ることができ、京大への意欲が高まった。(10代)



- 様々な分野について深く知ることができた。(10代)
- 最先端の研究に触れることができた。(10代)
- 新たな視点に気づかされました。(10代)
- 大学での研究がどのようなものであるのか、具体的に知ることができたから。(10代)
- 普段知らない研究分野の研究が知れて良かったです。(20代)
- 最近の研究の流行や主流なども教えてもらえて良かったです。(20代)
- 専門的な人達にいろいろなことをおしえてもらって、知しきだけでなく、うたがう、ぎもんに思うキモチも学べた。(年代不明)
- 自然科学の進歩をかいま見ることができた(理解不能だったが・・・(70歳以上))
- 学問の入口に立てた。(30代)
- 多分野の研究を「利用可能性」に着目して見ることが出来た。(70歳以上)

〈楽しい・面白い・興味関心(53件)〉

- おもしろかった！科学がさらに好きになりました！(10代)
- 興味がある学部学科とは違う分野の話であっても、分かりやすい説明のおかげでとてもおもしろかったこと。(10代)
- 小学生の子供達が、最初は難しそう…と近付かなかったのが、お話を聞いて、どんどん興味をもって楽しそうでした。(10代)
- 親子で楽しめた点。(30代)
- 研究者の本棚がきょうみ深かったです。ポスター発表でいろんな分野のことについて知れたことが良かったです。(10代)
- いろんな人のいろんな研究がしれるたのしい。(40代)
- すべてが良かったです。忘れられない体験でした。(年代不明)
- たくさんの最新などが聞け、面白かったです。普段お話ができないのでまた参加したいです。(30代)
- 研究の中身を知る機会がないので、とてもたのしく思えた。毎年はできないのかしら、子供の未来のために。(年代不明)
- 大変楽しかったです。オスズメの本なども読み、資料を見返してみたいと思います。進路の相談などもきいてくださりとても 励みになりました。(年代不明)
- 研究者の熱が生で伝わってきて楽しかった。(20代)
- すべての研究が面白く、教訓に富むもので本当に良かった。(20代)
- 興味深い話がすごく聞けて充実した一日になりました。(20代)
- 興味を持つきっかけになった。(20代)
- とび込み参加でもたくさん楽しめました！！(20代)
- 興味本位で立ち寄ってみました。京大の将来が楽しみです。(60代)
- 説明がとてもよかった。テーマがとてもおもしろかった。(40代)
- いずれも興味深し、毎年つづけてほしい(50代)

〈出展テーマの多様さ(37件)〉

- 色々な分野の研究者の方がいて、普段きけない話をきけること。(10代)
- 出展が多く自分の興味のあるものを見れた。(10代)
- 文系・理系両方の様々な展示をやってること。(年代不明)
- さまざまな分野の研究があり、かつわかりやすいです。(20代)
- lots of interesting topics & various fields freed amenities & free entry (20代)
- 色々な分野の先生にお話を聞いたのが本当によかったです。(20代)
- アフリカテーマなど個性的なものが多い。(30代)
- 多彩で身近、タイムリーなテーマが多かった。(60代)

〈人の多様さ(4件)〉

- 年代など多様な人が集まって話をできた点。(10代)

- 若手の方の話も何うことができた。(20代)
- 学生さんもいらっしやるのが良かった!(30代)
- たくさんの方がいて面白かった。(10代)

〈研究者への気づき・熱意(23件)〉

- 研究者によって論点が大きく違うこと。(10代)
- 魅力的な先生ばかりでした。(10代)
- 研究者の研究にかける熱い想いを直に聞くことができよかったです。(20代)
- 研究者の方も見学の方もイキイキしていた。(50代)
- 研究者の人達の大変さ。ガンバッてほしい。(年代不明)
- 京都大学生の日々の研究に対する探究心の素晴らしい上に感動しました。(年代不明)
- 説明する人の知識がスゴイ。(40代)
- 研究者のみなさまは英語を話されること。(20代)
- どのブースもフレンドリーに熱心に語ってくださり「語りあうこと」に出会えました。(50代)
- 研究データをわかりやすく説明して下さる姿勢。(50代)

〈研究への気づき(4件)〉

- 研究が実に身近な生活に近い存在だと気付いた。(30代)
- 一つの研究もいろんな分野背景とリンクしてること知れてよかった(10代)
- テレンドのある研究内容がある。(30代)
- 個性的・深いテーマの分析(10代)

〈クロストーク(4件)〉

- クロストークで「多様性」という点で違う分野が交わったお話がきけた点。(10代)
- クロストークで研究者同士の話が面白く良かったです。(40代)

〈企画・運営(35件)〉

- オンラインのイベントで前情報を知れたのも良かった。(40代)
- 多様なプログラムがあつてとても楽しかった。(30代)
- 会場も程よい広さで良かった。(40代)
- みんなに開かれていた点。(10代)
- 広くアカデミックなイベントを共有してくれた点(50代)
- フラツと立ち寄れて面白い研究に出会える点。(20代)
- 科学に関心がある人には最高のコンテンツ(20代)
- 気になるところを選んでみれるところ。(年代不明)
- ポスターをすぐみれる・質問ができる(10代)
- 色々な分野のポスターが(宇宙、臨床研究、環境)遠目でもよく見えて分かった点。(20代)
- 難しいテーマもそのまま展示してる点(40代)
- スタッフの方が多く道に迷うこともなくスムーズで良かったです。(30代)
- 案内表示が丁寧で分かりやすかったです。(20代)
- 話に参加できるよう職員の方が誘導して下さった。(20代)
- クロストークのファシリテーション、出展数、会場のコロナウイルス対策(年代不明)
- 記念品と交換アンケートは、より熱心にこのイベントに参加できるので良いアイデア!(50代)
- 吉田よりポスタースペース広く対応の方も多く聞き易かった。(50代)
- 年2回やってほしいです!(30代)
- 会場を時計台に戻すべき(60代)

〈会場の雰囲気(10件)〉



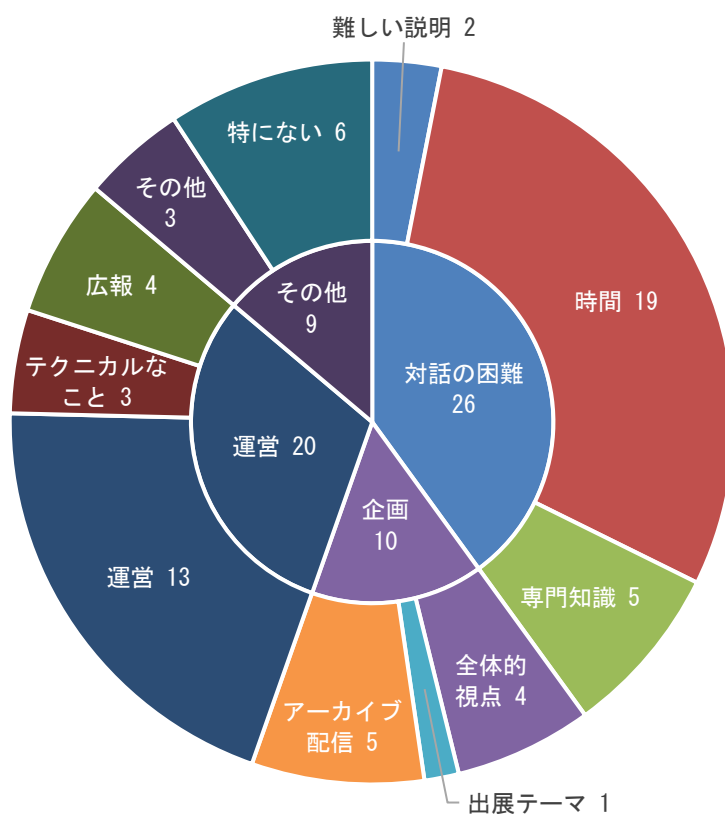
- 熱気があった。(60代)
- 規模感が大きくにぎやかだったこと(20代)
- 自由な雰囲気が随所に感じられまさに京都大学の底力を感じるものでした！大変有意義な時間を過ごすことができました。(年代不明)
- 雰囲気がとても良くエネルギーが満ちている感じでした。(50代)
- 京大のアカデミックな雰囲気を久しぶりに感じました。(30代)
- 学びに対する意識が高い人が多くきている。(40代)

〈その他(16件)〉

- アンケートの折がなくなったので開いたけど、こんない紙でなくていいのでなくなりそうなら追加で印刷したらいいのに。(年代不明)
- 人々の研究に対するモチベーションが感じられたこと。(20代)
- 頭の中がグルグル8周ぐらい回ってちがう方向向いた感じ(50代)
- QRコードとかで研究者のページにとべると良いかもです(20代)
- 孫がよろこんだ。(70歳以上)
- コロナのせいで、人と距離をとってしまう。以前のように、知らない人も一緒にギューギュー耳を傾ける世界に早く戻れますように(年代不明)

〈改善点〉

- ・全体：プレイベント



(単位：人)

- 講座によって、内容にバラつきが多い。(60代)
- もう少し時間をかけて豊富な情報をつけてほしかった。(70歳以上)
- 内容の高度化(60代)

〈企画に関するもの：出展テーマ(1件)〉

- 気候変動等による生活への影響もテーマとしてほしかった。(70歳以上)

〈企画に関するもの：アーカイブ配信(5件)〉

- 見れなかった)参加できなかった回がありました。期間限定でも良いのでオンデマンド(録画)?で見たいです。(40代)
- 資料配布があるとありがたい。(50代)

〈運営に関すること：運営(20件)〉

- 時間配分がどうなっているのかわからなかったので質問によって時間通りに終わらないのでは?とちょっとドキドキしてしまいました。(60代)
- 講演時間が短いので、ファシリテータさんの介入時間はもう少し短い方がよいと思う。(60代)
- プレ講演後の詳細については本講演で・・・といわれると遠方に住むものとしては残念になる。(50代)
- プレ・イベントとして、大学院生辺りに予習講座を担当させるか、別撮りしたYouTubeで基本知識付与があっても良い。(70歳以上)
- アンケートにスクロールが必要なことが分からず、回答できなかった。(50代)

〈運営に関すること：テクニカルなこと(3件)〉

- 動画も解像度を上げて欲しいです。(6/1、50代)
- 終了を知らせる音楽の音量が大きすぎて、最後のまとめの所のお話がよく聞こえず残念です。(6/8、60代)
- マイクが雑音を拾うのが気になった。(6/8、70歳以上)

〈運営に関すること：広報(4件)〉

- もう少し一般に向けた宣伝、お知らせがあってもいいと思います。(50代)
- 宣伝が学内職員でも届いて来ず、自ら125周年サイトに探しに行ったので、周知の工夫は必要かと思いました(難しいですが)。(30代)

・主な意見：メインイベント

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：内容が難しい(15件)〉

- 文系でも分かる研究が少なかった。(10代)
- 中学生には難しかった。(10代)
- 子供に対してのより分かり易い説明の不足(40代)
- 予備知識が必要(10代)
- くわしすぎて分からないところが複数あった。(10代)
- ちょっと難しい言葉ばかりでもう少し説明してほしかった!(年代不明)
- おもしろかったけど難しくて頭がおかしくなりそうだった。(10代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：聞こえづらい(5件)〉

- 会場に人が沢山いるのでマスクごしたと話が聞きづらいです。(50代)
- 各ブースが近く声がききづらい時があった(10代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：コンテンツ(6件)〉

- 字が若干小さかったこと(10代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑（27件）〉

- 特にありませんが、強いていえば混雑で見れない所があり、残念でした。（30代）
- 混んでいるブースで説明してくれる人が少なかったこと。（10代）
- 混雑時に、十分な対話ができなかった点（10代）
- 混んでるブースのお話をきくタイミングがむずかしかった。（40代）
- 研究者の方が少ない展示だと話かけづらいです。（他の方と話して）（10代）
- 人が多くて展示が見えにくかった点。（10代）
- 人が多く順番待ちが長かったところ。（20代）
- 混んでいるブースは混み合っており 並ぶ列を配置しても良かったと思いました。（40代）

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（8件）〉

- 研究者の方とお話したくてもタイミングが合わないことが多かったです・・・（20代）
- 間が足りません、全部見れません。（年代不明）

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：その他（1件）〉

- B2F ノースホールが、少し敷位が高そうで入れませんでした…（10代）

〈企画に関するもの：全体的視点（7件）〉

- 映像（動画）の展示が少ない（年代不明）
- 実際に触ることができるものが増えるといいなと思います。（年代不明）
- 体験できるところがもう少し増えると、とっつきやすそうです。（10代）
- もう少し研究者の展示が多いとよかった。（30代）
- 社会への貢献がどんなものになるか？の仮説があるととっても良いと思う。（30代）

〈企画に関するもの：出展テーマ（25件）〉

- 文系の研究者の人をもっと見たい！！（70歳以上）
- 社会科学・人文科学と昔は言ったが、それが極端に少ないのは仕方ない？（70歳以上）
- 医学の研究者が多く偏りがあった点。（10代）
- もっと色々な分野の研究を見たい。（20代）
- 領域を横断した研究がもう少しあるとよいと感じました。（30代）
- 数学 化学などあればよい（年代不明）
- 経済、経営についての研究をもう少したくさん知りたかったです。（50代）
- 桂の研究室が少ないことです。（年代不明）

〈企画に関するもの：立ち話（2件）〉

- 出展側の先生のご都合も考慮し、立ち話は2部制にしても良いと思いました。（年代不明）
- もう少し多くのプロムにしてほしい。（10代）

〈企画に関するもの：クロストーク（3件）〉

- クロストークの時間がこれから！というところで終わってしまったこと。（年代不明）
- もっと長い時間トークセッションを聞きたかった。（10代）
- 質問する時間が少し物足りなく感じた。（10代）

〈運営に関すること：会場（20件）〉

- 冷ぼうが寒かった。（10代）
- 時計台でまたやって欲しいです！（40代）

- 思いのほか密だったもう少し広いスペースで実施がよかったような。(50代)
- 記入台が小さかった点(20代)
- 展示スペースを広くしてほしい。(年代不明)
- ノースホールとサウスホールが遠い↑深すぎる(階段がどこまでも続いて…(50代)

〈運営に関すること：設備(12件)〉

- 飲める場所が欲しい。暑い日なので(40代)
- 立ち見いすがあるとよい。(30代)
- 座るところが少ない。(30代)
- 休けいスペースをもう少し多めに欲しかったです。時間帯によってはベンチが満員でした。(20代)
- 会場のライブ映画を各フロアごとではなく全て一度にみれる場所がほしかったです。(20代)

〈運営に関すること：案内(20件)〉

- 受付の動線がわかりにくかった(サウスホール前から入ってしまったので)。(40代)
- 「研究者の本棚」の場所への案内が少しわかりにくかった。(50代)
- B1Fの展示への誘導(30代)
- 会場のレイアウトが少しわかりにくい。(50代)
- 誰が研究者なのか判別がむずかしかった。(50代)

クロストークの時間を放送か何かで教えてもらえると助かった。(20代)

〈運営に関すること：広報(3件)〉

- 会場の近くに来るまで知らなかったこと。(20代)
- アカデミックデイの認知度が同級生の間でとてもひくかったです…。(20代)

〈運営に関すること：人員(2件)〉

- 人手不足(20代)

〈運営に関すること：開催日程(6件)〉

- 悪くはないですが、2日間で一日かぎりのイベントだったので2日間通しでやってもらえば、一日参加でも体験できたのかなど。(30代)
- 友人が日程が合わず来れませんでした。1日だけじゃなく数日開催希望です！(40代)
- こんなイベントが年に3回くらいあればいいなと思った。(40代)

〈運営に関すること：その他(1件)〉

- 毎年このようなイベントを大学祭に京大キャンパスで。それなら毎年来ます。(年代不明)

〈その他(7件)〉

- 京大は近いけれど何をしているのか地元は知らない。(年代不明)
- コロナでオープンキャンパスなどの接触機会がなかった分、もっと色々参加したかったです。(10代)
- 全部消化し切れなかった点(自身がちゃんと質問に合う単語を持っていなかった)(年代不明)
- おもしろすぎて時間が足りない(20代)

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答
- ・ 連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・ アンケート受付期間：9日間

〈設問〉

- ・ 問1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
 - (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
 - (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
 - (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
 - (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
 - (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
 - (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
 - (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
 - (h) 機会があったらまた参加したい
 - (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
 - (j) 他の研究者との交流の機会になった
- ・ 問2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）
- ・ 問3. 来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
- ・ 問4. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
 - 4-1【良かった点】
 - 4-2【改善点/課題】
 - 4-3【今後に向けた提案】

- ・問5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・問6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・問7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・役職(回答必須)
[選択肢: 教授、特定(特任)教授、准教授、特定(特任)准教授、講師、特定(特任)講師、助教/助手、特定(特任)助教/助手、研究員、博士課程(博士課程後期)大学院生、修士課程(博士課程前期)大学院生、その他]
- ・研究分野(回答必須)
[選択肢: 社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系]
- ・お名前(回答必須)
- ・ご所属(回答必須)
- ・ご連絡先(E-mail)(回答必須)
- ・出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名(または学年)については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。
※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載されたい方がいらっしゃる場合、氏名/ご所属/職名または学年をご記入ください。

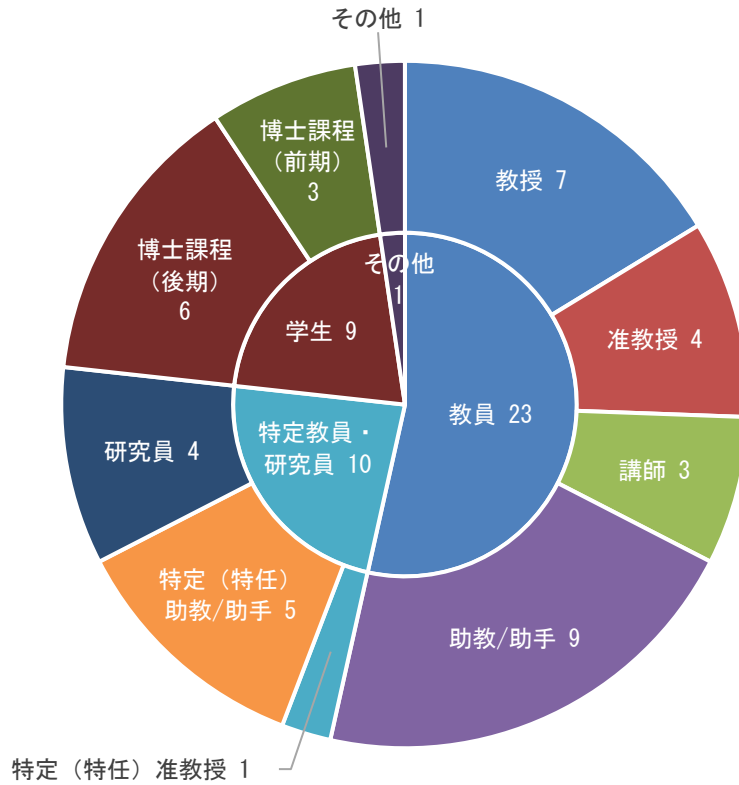
■ 3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 121 人

回答者数 43 名（回収率 26.4%）

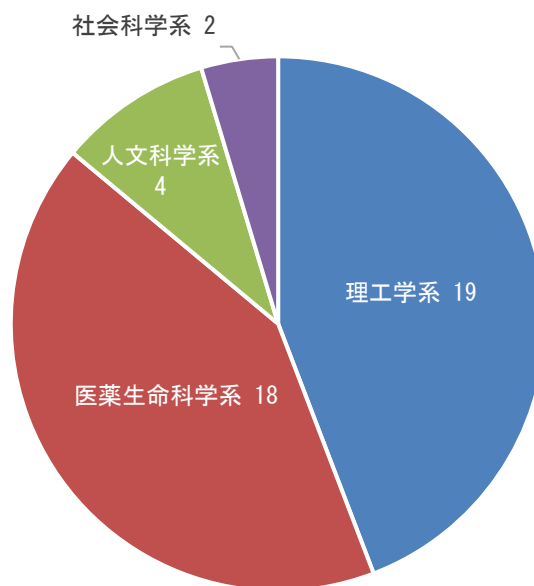
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



（単位：人）

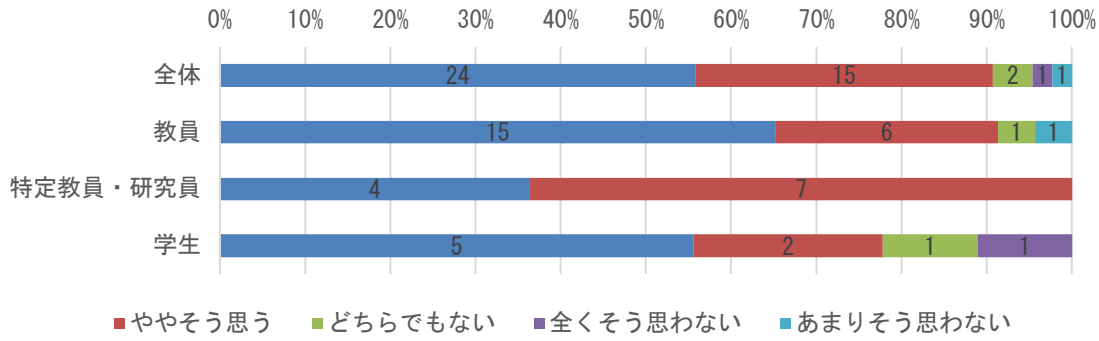
・専門分野による回答者属性



（単位：人）

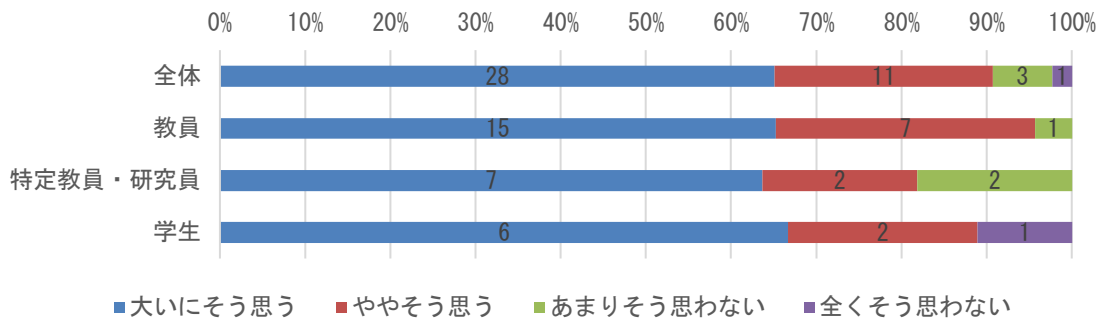
● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた



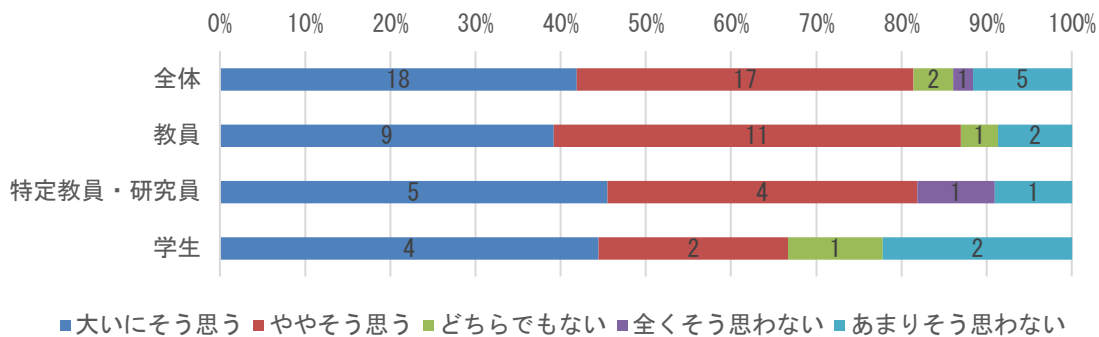
(単位：人)

(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



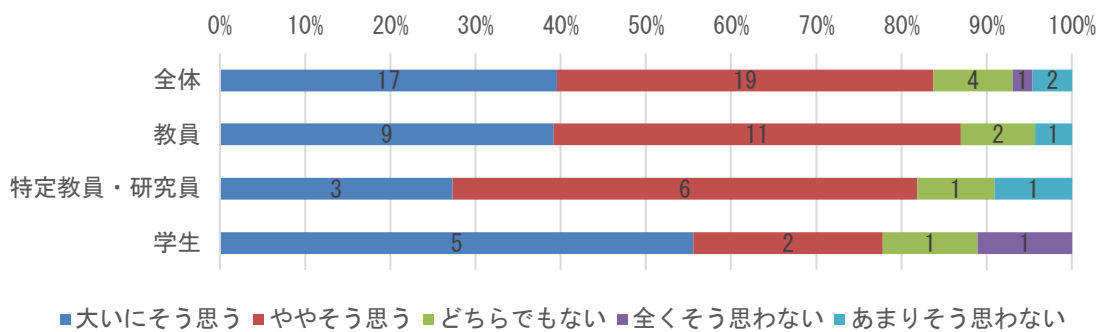
(単位：人)

(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



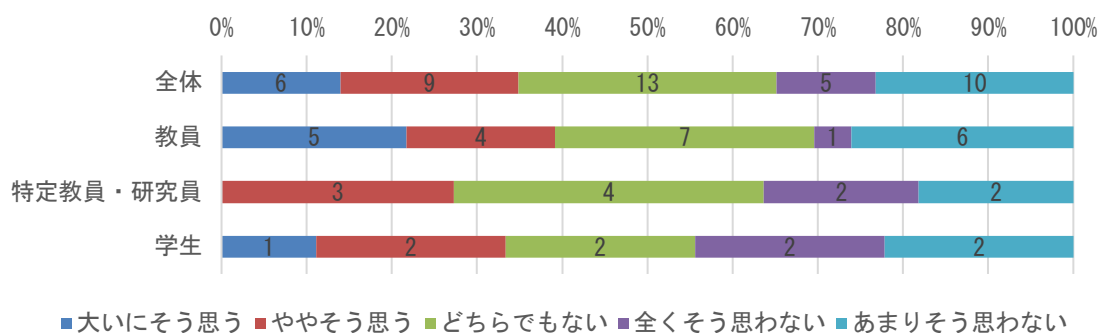
(単位：人)

(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



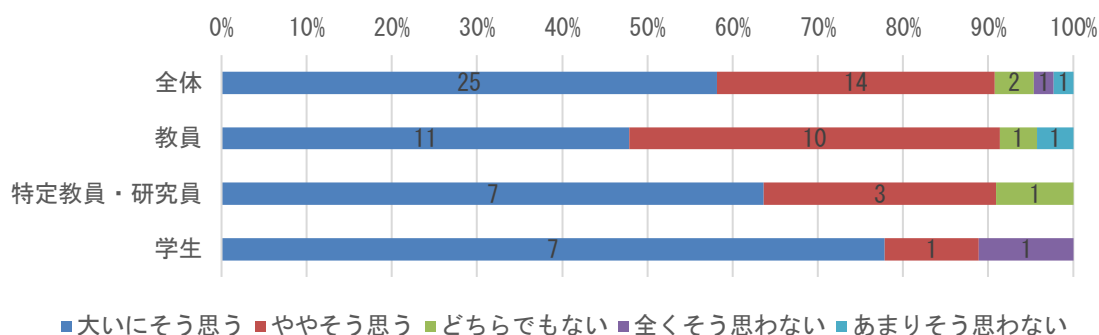
(単位：人)

(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



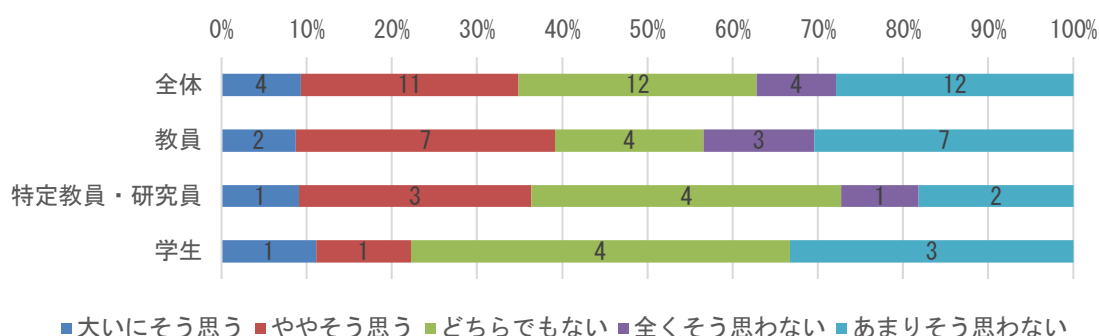
(単位：人)

(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



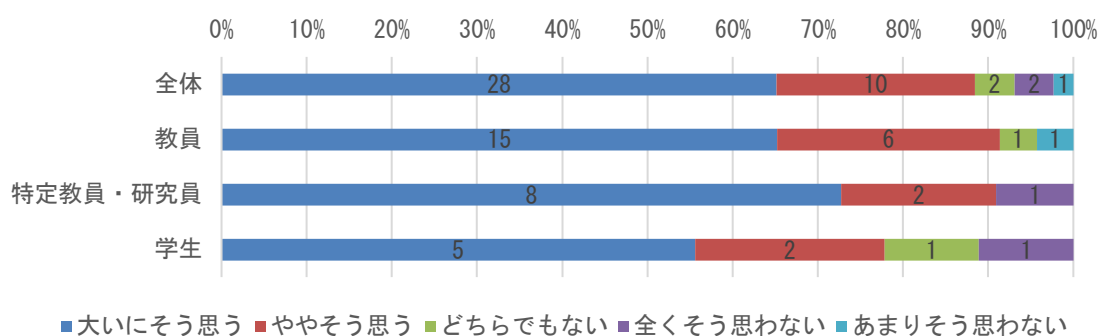
(単位：人)

(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



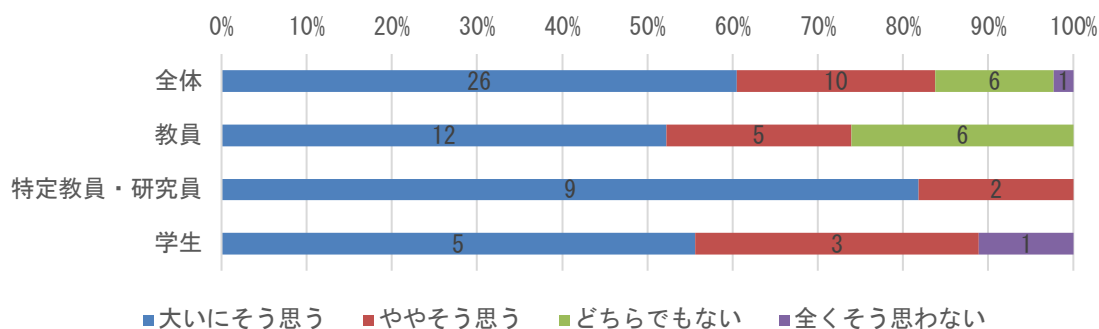
(単位：人)

(h) 機会があったらまた参加したい



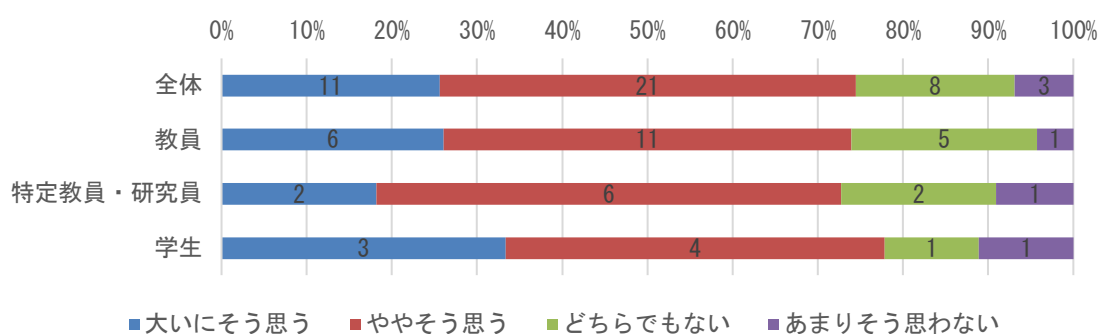
(単位：人)

(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



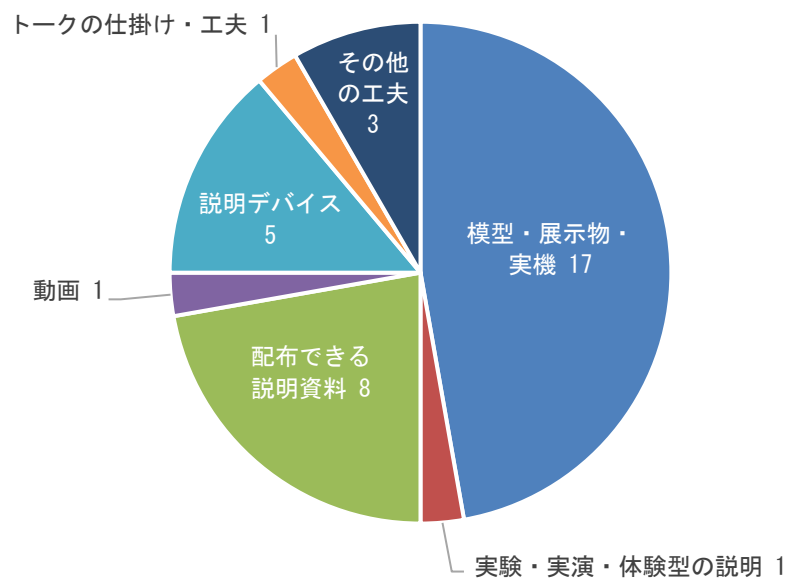
(単位：人)

(j) 他の研究者との交流の機会になった



(単位：人)

- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った (or 必要だと感じた) 工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



(単位：件)

〈模型・展示物・実機 (17件)〉

- 実際の臨床で使用されている医療機器の展示物 おすすめの書籍や製品カタログの持参 iPadの活用 (理工学系)
- 来場者の理解を促す視覚的なコンテンツ (医薬生命科学系)

- 直感的に分かりやすいもの、できれば触れるもの、日常生活にあるものはとても役に立つ（理工学系）
- 紙やスライドで説明するより、簡単なものでも実物や模型などの物体がある方が、説明しやすく、理解してもらいやすいように感じた。（理工学系）
- 一般の方から見て目を引く展示物（医薬生命科学系）
- 実際に触れるものを準備しておいたので、子供たちは興味を持ちやすかったのではないかと思います。また、A4サイズの抜き刷りも好評でした。物理的に持ち帰ることのできるお土産的なもの（高価なものでもなく、チラシや豆知識の書かれた紙など）があるブースは、全体的に好評だったように見えました。（理工学系）
- 手に取って見てもらえるもの。一度に複数のひとに見てもらえる大き目の資料（印刷体、模型）。アイパッドも持っていったが、人数が多くなると見せるには小さすぎた。見せたいと思っていた図や写真をB4に拡大コピーしたもののほうが示しやすかった。持って帰ってもらえるもの。（理工学系）
- 実際に研究で使用している機材や装置、チラシ(クイズ)（理工学系）
- 実際に手に取ったり触れたりできるものがあると、興味を引きやすいと感じた。（医薬生命科学系）
- 細胞サンプル。印刷配布物。（医薬生命科学系）
- 小学生、高校生、大学生（他大学含む）、企業の方、一般の方、熟年層の皆様など本当に多様な方がいらっしゃいました。私達の場合、一般の方に興味をひくようなもの（光のおもちゃ、偏光板）も喜んでいただいたように思います。（理工学系）
- 標本 学生との共同説明（医薬生命科学系）

〈実験・実演・体験型の説明（1件）〉

- 一般の方（特に若い年代）にとって、体験型の装置やグッズなどがよいと改めて感じた。今回、デジタル顕微鏡や自作のカードゲームを用意したが、こういったグッズは、口や文字で語るよりも体験型の知識として受け入れやすいと感じた。（理工学系）

〈配布できる説明資料（8件）〉

- ポスターのハンドアウトを準備していて役に立った。一方、もう少し詳しい内容を記載した配布物の準備も必要だと感じた。（理工学系）
- ポスターをA4サイズに印刷したものは、ポスターの前が混雑しているときに役に立った。（理工学系）
- うっかり配布物の準備を忘れた。動画を見せるための端末を持参すると良かったかもしれない。（理工学系）
- ポスターの内容を要約した「ちらし（A3二つ折り、4頁もの）」が役に立ちました。ポスターを写真に撮りたいという方が多かったので、ポスター内容をそのままA4サイズで印刷したものを用意しておくのも便利だと思います。（人文科学系）
- 配布物（説明チラシ・リーフレット）。立ち止まった方に話しかける契機として、なにかを手渡すことで距離を縮めることができると感じる。（人文科学系）
- ポスターの縮小印刷を20部ほど、用意していたが、好評で、途中で足りなくなりました。（人文科学系）

〈動画（1件）〉

- 比較認知研究で動物が実際に解いているコンピュータ課題を持ち込み、来場者の方も解けるようにしたところ、特に、幼児から小学生の子どもたちに好評だった。また、装置の紹介動画、装置導入時の動画、実験場面の動画、関連研究の動画など、たくさんの動画を用意することで、ポスターの内容や来場者からの質問に沿ってより深く対話することが出来た。（人文科学系）

〈説明デバイス（4件）〉

- ポスターに入りきらない画像をPCに入れて質問があった場合にお見せしたり、他者と話をしている間に来られた方が少しでも楽しめるようにクイズを作成し、QRコードで正解が載っているHPへアクセスできるようにしました。（医薬生命科学系）
- iPadでの動画（医薬生命科学系）
- わたしたちは動画が多いので、大型のDisplayがあれば話がしやすかったと思います。場所が必要ではありませんが。（医薬生命科学系）
- モニターでのプレゼンテーションです。（理工学系）

- 今回、見てもらうものが多かったので、タブレットにくわえ、印刷したもの（スライドをそのまま）が結構役に立ちました。何か、実際に手を動かしてもらうようなもの（ソフトウェアのデモ）があればもっと良かったかなあとと思います。（医薬生命科学系）

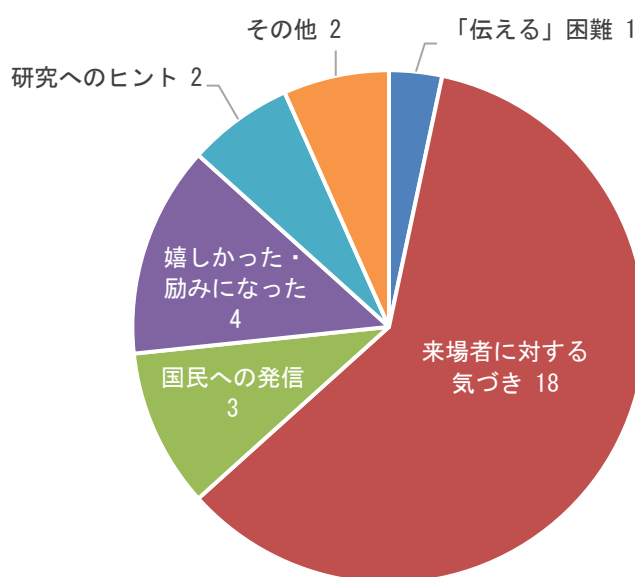
〈トークの仕掛け・工夫（1件）〉

- シールを貼ってもらったり、付箋に書いてもらったりして、それをポスターの上に貼りました。（社会科学系）

〈その他の工夫（3件）〉

- 推薦する書籍については、持参した方が、対話が弾むと感じました。（社会科学系）
- 学生も市民も、一人当たりにかかる時間を考えておらず、一人に40分とか占領するのは少し考えて欲しい。タイマーとかあるといいかもしれないですが。（医薬生命科学系）
- 特にありませんが、コミュニケーションの大事さは常に心がけています。（医薬生命科学系）

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



（単位：件）

〈「伝える」ことに関して、困難を感じたこと（1件）〉

- 様々な質問が飛んできたが、質問者のバックグラウンドがわからないので、どれくらい専門的な回答をすればいいのか、手探りにならざるを得ないところが、難しく感じた。（理工学系）

〈来場者に関して、気づいたこと（18件）〉

- あまり関心がない人とコミュニケーションする場合、人によって、こちらの話す時間の長短を付けないといけないこと。（人文科学系）
- 高校生の進路相談（文理選択など）が例年になく多かったように思いました。ご年配の方々や高校生、小さなお子さんが楽しんでくれました。（理工学系）
- 来場者が持っている知識を元に、色々質問して下さったこと。来場者が受け身な姿勢で情報を得るという訳ではなく、来場者と発表者の双方向的なディスカッションができたと感じたから。（医薬生命科学系）
- 中学生や高校生が多く驚きました。（社会科学系）
- 高校生が目きらきらさせて熱心に聞いてくれたこと。自身が高校生のときには、興味を持ったとは思えない研究内容なのに。（医薬生命科学系）
- 小学校低学年の子供が、真剣に質問したこと（理工学系）
- 実際のデモに興味をもっていただけの方が多数おられたこと、ご自身に関連することで興味をもっていただけがあったこと、が印象に残った。（理工学系）

- 何を求めてアカデイにお越しになっているのが、人によって全然違うのだなあ実感しました。そのため、他愛無いお話をしつつ何を目的なのかを聞き出し、それに応じた説明をするように心がけました。(理工学系)
- 素粒子や宇宙について予習してくてくれる人がいて、11次元や量子もつれなど言葉としてそれらが広まっていることに驚いた。(理工学系)
- 自分がかかなり有名だと思っているものが、一般の人からすると正確にイメージしづらいことだと改めて認識したのが印象的でした。よく聞くけど結局なんなの?というご質問が多かったです。(医薬生命科学系)
- 自ら対話をされる方はいずれも熱心で、話や興味が尽きない印象。目的を持って来場されている方が多いのだろうと感じた。(人文科学系)
- 好奇心まんまん、という方が多く聞いてくださって楽しかったです。また、学生諸君が研究を紹介するのは、リクルート活動にも役立つと思ってみておりました。(医薬生命科学系)
- サルの社会性を扱った研究であることや、クロストークでの話題もあってか、ヒト以外の動物についての知見をヒトの社会にどう還元するのか、ヒト以外の動物の研究結果をヒトに当てはめることはできるのか、といった視点からの質問を、想像以上にいただいた。(人文科学系)
- 来場者の背景知識や関心によって、研究の背景から始める場合と、最先端の研究のみをお話する場合の切り替えが必要だと思いました。最初のうちは手探りですので、余分なお話をしてしまったかもしれません。(医薬生命科学系)
- 高校生、大学生、親子連れ、民間企業のシニアの方等、多様な方々が来場してくださった。(理工学系)

〈国民への発信などに関して、気づいたこと (3件)〉

- 熱心に説明を聞いていただき、突っ込んだ質問をいただくことも多かったです。少しでも理解しようとする熱意がある方もあって、このような機会は非常に意義があると感じることができました。(理工学系)
- 本当にさまざまな視点に触れることができたと思いました。関心をもってくれている子供さんや、高校生・大学生については、その関心をより深めて頂けたのではと思います。また、学生や若手スタッフにも、コミュニケーションを取ることの重要性や、説明する中での各自での気づきもあり、よい機会を頂けたと思います。感謝しております。(理工学系)
- 小学生、中学生、高校生が多いこと。双方向の対話ができ、SDGsなど社会との関わりに関する議論(医薬生命科学系)

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと (4件)〉

- いらっしゃったどの方も、研究についてすごく興味を持って聞いてくださったのが印象的でした。そして、今後の研究について期待して下さる方々が多く、今後の研究の励みになりました。(理工学系)
- 数学に関係のある方もそうでない方も最後には感心、感動してくれたこと。(理工学系)
- 自分たちの研究に対して、予想以上に共感して下さることが多く、大変励まされました。(科学技術の発展も大事だけれど、人文系の人間の心や思想の問題も並行して取り組む必要があるとの意見を多く聞いたため) 逆に、否定的なコメントをなさる方も少数ではあるが、そのような考え方もあることが知れたこともよかった。(人文科学系)
- 研究予算の少なさを懸念されている方がいらっしゃったこと。一般市民の方でそのような考えを持っていただけることは、将来的な予算拡大に重要なため、ありがたいと感じた。(医薬生命科学系)
- 話しているうちにどんどん興味持ってもらえて、表情がほころび始めるのを見ると、とても嬉しかったです。(医薬生命科学系)

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと (2件)〉

- どのようにして発想が生まれたかを聞かれることが多く、改めて考えるきっかけとなりました。(理工学系)

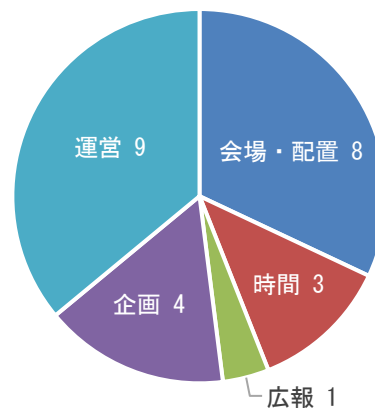
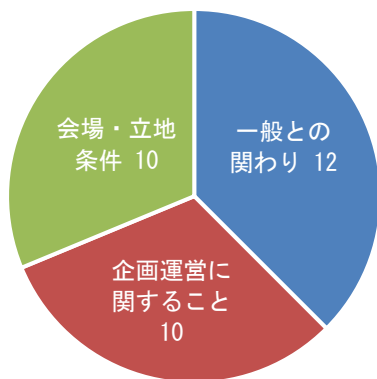
〈その他の気づき、印象に残ったこと (2件)〉

- 研究への興味。知的好奇心。(医薬生命科学系)
- 応用研究なのか基礎研究なのか、企業での研究との違いは何か?という質問が印象に残りました。(理工学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

〈良かった点〉

〈改善点、今後に向けた提案〉



(単位：件)

〈①良かった点〉

一般の方との関わり・全体の雰囲気 (18 件)

- 一般の方々が、研究のどのような側面を面白いと感じられるのかが分かり良かった。(理工学系)
- 中高生がたくさん来ていて、科学の面白さを伝えられた気がした。(医薬生命科学系)
- 幅広い年齢層の方々と研究活動の話ができたこと。(理工学系)
- とても多くの方々とお話ができました。期待してくださる方々が多く、今後の研究の励みになりました。(理工学系)
- 会場や天候に恵まれ、大変多くの来場者に来ていただけたこと。(理工学系)
- さまざまな年齢層の来場者と接することができた。どのようなことに関心をもっているのか、知っているのかを知ることができた。(理工学系)
- 来場者数がちょうどよかった。(医薬生命科学系)
- 様々な年齢層・立場の方と対話できる(人文科学系)

企画運営に関する事 (10 件)

- ポスターや備品などの宅配便サービス(人文科学系)
- スタッフが多く配置されていて、不明な点の確認や、出展のサポートをしてもらえて助かった。(理工学系)
- よりよい発表のための Tips を事前に教えてもらったので、発表材料作成のよい指針となった。(理工学系)
- スタッフの方のサポートがしっかりしてたこと。展示用備品の準備など(医薬生命科学系)
- 設置場所や電源が用意されていて、設営が済んだこと(理工学系)
- 運営も非常にオーガナイズされていて、大変助かりました。また、公報も力をいれていただいていたので、多くの、多様な、来場者とお話できました。(理工学系)
- クロストークに出させていただきましたが、スタッフの方々がサポートしていただき、何の心配もなく進められました。(いつもの学会の方が、よほど放任です・・・)。準備の段階からいろいろとサポートいただきありがとうございました。特に、一般の人向け、ということで今回新規に作成した紹介スライド・資料ありましたが、丁寧な助言があったこともあり、おおむね好評だったかと思います。(医薬生命科学系)
- 対面で実施できたこと。(医薬生命科学系)

会場・立地条件 (9 件)

- 会場がすばらしい(理工学系)
- 学外の人が入りやすい雰囲気だったこと。(医薬生命科学系)
- 京大で実施した時より、ポスター前の対話スペースが広めだったこともあり、周りを気にせず余裕をもってお話することができた点は非常に良かったです。(人文科学系)
- 従来よりも展示ブース間の間隔に余裕があった(ように感じる)点。余裕があればあるほど良いと思う。見学者も座れるところがあるのも良い。(人文科学系)

- 会場が広く、交通の便が良く、一般の方の訪問がしやすかった点。（理工学系）
- ちょうど良いスペースだった、来場者が座れる場所もあった。（医薬生命科学系）
- 毎回は大変かもしれないが、ロームシアター京都は立地としては素晴らしいと思います。来場者目線では、本学はアクセスが必ずしも良くはないので。（理工学系）

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場・配置について（6件）

- 今回たくさん来場者がいらっしやっただので、もう少し各ブース、スペースが必要かもしれません。（理工学系）
- 今回の会場は、B2と1Fが少し物理的に離れていたかな…という気が。ご高齢の方には少し来場が難しかったかも？と感じました。（理工学系）
- 地下がわかりにくかった（医薬生命科学系）
- 通路のポスター展示は、学内研究者との交流は図りにくいように思いました。（理工学系）
- 小学生や中学生なども多く参加していましたが、子どもの目線からすると少しポスターの位置が高いのかもしれないというのは、気になりました。（社会科学系）
- インターネットがなかったため、それを利用した展示（オンラインで接続するアプリなど）は今回使用をあきらめました。（医薬生命科学系）

時間について（3件）

- 「立ち話」に出展したが出展時間が長く、休憩しづらい雰囲気、すこししんどかった。（理工学系）
- お昼ご飯を食べるため、交代要員が必要だということがわかった。（理工学系）

広報について（1件）

- ポスターの漫画が言いたいこと（125年で京大はこんな風に対話の相手を広げてきた）はわかるが、全体的にステレオタイプなイメージで出来上がっていて違和感を覚えた。例えば、125年経っても教員はずっと年配男性として描かれていたり、最後のコマでもすべて子供の相手をしているのは女性。「そんな細かいところまで気にしない来場者が多数とは思いますが、発信する側の大学があんな漫画に疑問を持たなかったことが残念。（戦後に初めて入学した女子学生のセリフも幼稚な感じがした）（理工学系）

企画について（4件）

- 私自身の課題として、複数の説明者を用意して、より大人数の来場者に説明できるようにすべきであった。（理工学系）
- 賞はあったほうが良かった。ポスター会場は統一したほうが良かった（多分地下の集客はかなり少ない）（医薬生命科学系）
- 留学生も多かったが資料準備を日本語のみで行っていたこと（医薬生命科学系）
- 1人で出展したので、聞きに来てくれる方が多くなると対応しきれないと思うことがあった。15分ごとくらいで最前列にいる人は入れ替えたいと思ったが、そのように誘導するのは気が引けた。とくに小さなお子さんの場合、親御さんは離れたところにいる場合が多く、子供に直接移動して欲しいとは言えなかった。こちらから質問をして考えてもらって、といった流れも考えていたが、予想以上にたくさんの方がいらしてしまい、時間の半分以上は聞かれることに答えていくだけで精一杯となってしまった。その状況が対話と言えるのかやや疑問に感じた。（理工学系）

運営について（9件）

- 名札の形式が、出展者（関係者）なのか来場者なのか見分けがつきにくかった。（理工学系）
- 来場者が多く、他の展示を見て回ることが出来なかった。（理工学系）
- コロナ対策により水分補給がペットボトルの水のみ提供でしたが、代わりに、飴、タブレットなど、のどの痛みを癒せるようなものも提供していただけると嬉しかったです（自分で持参していたのでしのげましたが）。（人文科学系）
- どうしても人が滞留してしまう。（人文科学系）

- コロナ対策のため、もう少し換気を良くしてほしいと思いました。（理工学系）
- 密でした。（医薬生命科学系）
- 実質9時頃から16時すぎまで立ちっぱなしになりますので、もし可能であれば、関係者控え室（休憩室）を準備いただけると有難いと思いました。（3Fの本の所のスペースも結構埋まっていたので）。（理工学系）

③このような来場者ともっと話したい

小中高、大学生、若者（9件）

- 半コロナ明けの時節柄、大学受験を控えた高校生の来場者が多く、文理選択や夏休みに読むおすすめの書籍など、進路相談が多かったです。もっと多くの生徒さんに本会の存在を知ってもらいたいように思いました。（理工学系）
- 高校生に研究の内容を紹介したいと思いました。（医薬生命科学系）
- 今回もたくさんの幼児・小中高生・学部生の方とお話しすることができたが、こうした若い世代の皆さんがたくさん参加してくださると嬉しい。（人文科学系）
- 中高生とか、他大学の学生等。修学旅行のついでに来ていただいてもいいかもしれません。（医薬生命科学系）
- 京大の学生。（医薬生命科学系）

社会人（4件）

- 学生さん、その親御さんという方は多かったのですが、もっと大人の方々。たとえばサイエンスコミュニケーターだったり出版業の方々、イラストレーターの方々など研究成果の伝達・発信に関わるの方々にももっとご参加頂けたら研究者側にももっとメリットがあるのかなと思いました。（理工学系）
- 自治体の様々な部署の方々。（人文科学系）
- 市民だけでなく、学内のさまざまな職掌にあたっておられる職員の方々。そうした方々の支えや協力もあっての研究活動なので。設定に余裕があるのなら、学内向けの内覧時間を設けていただいて、勤務の一環でも見学できるようにならないものか。（人文科学系）
- 社会実装に向けてビジネスの視点から意見がもらえたら良いと思うのでVCの方などとも話したいです。（医薬生命科学系）

研究分野関連（1件）

- 少し分野の異なる他施設のアカデミアの方々とお話してみたいです。（医薬生命科学系）

その他（3件）

- いろいろな方にきていただくのがよいと思いました。（理工学系）
- 一般の方でも、研究につながるような来場者もおられたり、来場者の何らかの問題解決に役立てそうな来場者もおられる。そのような方ともしっかりとコンタクトができるような機会であればありがたい。出展前の情報提供の時点で、“このような方に話を聞いてほしい”、“このような問題解決（情報提供）”ができます”、などの情報を提供すれば、問題意識をもって、来場してもらい、もっと突っ込んだ内容のコンタクトができるのではないと思う。（理工学系）
- 今回話をさせていただいて、一般の方にとっても、このような形で「研究者」と話せる機会はそうない、ことに気づかされました。（理工学系）

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

「国民との科学・技術対話」への取り組み（6件）

- 京大の研究を発信する大事な場だと思いますので、これからも期待しています。（医薬生命科学系）
- 出展が理系に偏っていた点は、参加者としては残念だったのかなと思いました。「科学・技術」対話とのお題目がよくないのでしょうか。京大の学問領域の裾野の広さを知ってもらうためにも、文系の先生方との交わりがもっとあってもいいのかなと思いました。（理工学系）

- 「国民との科学・技術対話」ときいて、もっと堅苦しい、むしろ対立に近いものをイメージしていたのですが、今回のイベントのような形で行っていただけると、むしろ研究者自身も楽しむことができ良かったと思います。また、来場者の立場としては、一部の研究ではなくいろいろな研究を一回に見ることができる点は良かったです。URAの方々には、助成金応募の支援のみならず、いろいろと専門家の見地からご指導いただき、私としても大変勉強になりました。（医薬生命科学系）
- 大型研究費をもらっている人は多くいると思いますが、その割には少ないなと思いました。場所の制約だったのであれば、別の方法を考える必要があるとは思いますが。（医薬生命科学系）
- より多くの研究者が参画できるとよい。（医薬生命科学系）

URAによる支援（4件）

- 準備・当日・事後、いずれもしっかりと対応していて頭の下がる思いです。（人文科学系）
- ホスピタリティーにあふれていて、大変助けていただきました。（人文科学系）
- 何事も迅速に柔軟にご対応いただき、ありがとうございました。（理工学系）
- URAの支援なしには成り立たない企画だと思います。（理工学系）
- 参加に向けた準備は確かに手間でしたが、いわゆるロジをすべてお願いできたのは、大変助かりました。（理工学系）
- ご準備等大変だと思いますが、今後も引き続き実施していただけますと大変うれしく思います。（理工学系）
- 事前の説明や当日のサポート、大変助かりました。当日、どの方がURAでカメラマンで（アルバイトさんかも？）というのがワッペンだけですと分かりにくく、どの方に声をかけ助けを求めてよい、もう少し分かりやすい工夫をしていただけたらと思いました。誰に声をかけてもよかったのかとも思いますが。（人文科学系）
- URAのみなさんは、準備、当日のマネジメント、終了後も含めて、多大なサポートをしていただいております、たいへんありがたく思っています。（医薬生命科学系）

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、よりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするならば、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2022 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：あなたの知らない RNA の世界

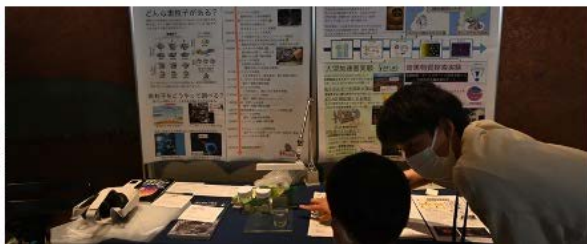
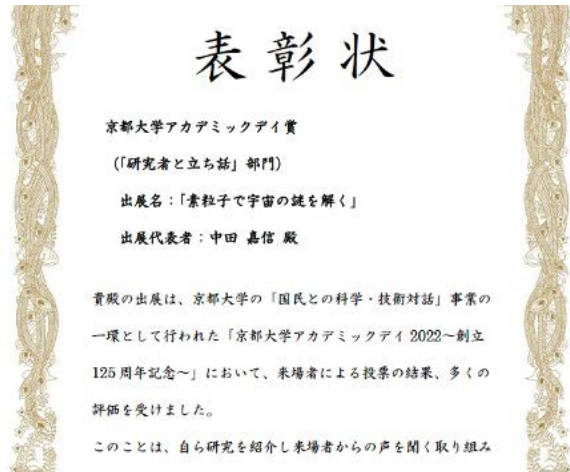
出展代表者：齊藤 博英（iPS 細胞研究所）



● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門

出展名：素粒子で宇宙の謎を解く

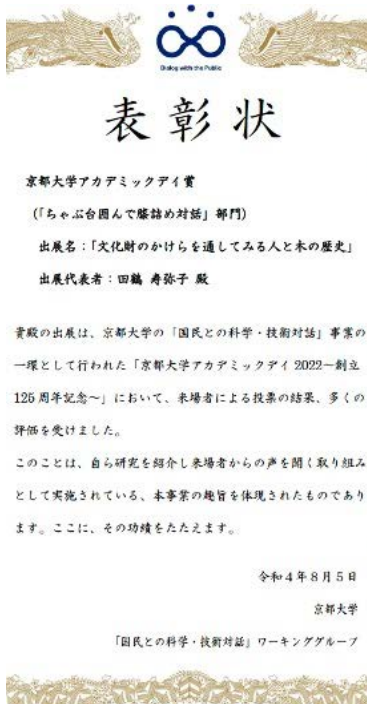
出展代表者：中田 嘉信（理学研究科）



● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：文化財のかけらを通してみる人と木の歴史

出展代表者：田鶴 寿弥子（生存圏研究所）



■ 3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位10件（コメント数9位が2件あった）、ちゃぶ台上位3件（コメント数3位が2件あったため合計4件）は、以下の出展でした。

● 研究者と立ち話

「光子のふしぎな性質と量子技術への応用」出展代表者 竹内繁樹（工学研究科）	
・ 難しいけどおもしろかったで賞	・ ワクワクしたで賞
・ 光子がふしぎですごいで賞	・ 光子と量子でくわしく見えるで賞
・ 文系にも優しい説明賞	・ もっと話を聞きたかったで賞
「埋もれた古道から探る地域の歴史」出展代表者 伊藤淳史（文学研究科）	
・ 歴史研究のおもしろさを伝えてくれました賞	・ 身近な研究の奥深さを見せてで賞
「人生を穏やかに過ごすために必要なこと」出展代表者 鈴木美香（iPS細胞研究所）	
・ あなたが主演、ゆったり行きま賞	・ 人の幸せって何だろうを考えさせてくれたで賞
「“みる”から始まる研究の世界」出展代表者 松田道行（生命科学研究科）	
・ 当たり前が不思議にかわった賞	・ めにみえないものがみえた賞
「認知症の病態研究から治療まで」出展代表者 葛谷聡（医学研究科）	
・ 認知症予防と治療の最先端を学べて有益でした賞	・ 今後の期待大賞
「大学博物館の標本と生物多様性科学」出展代表者 本川雅治（総合博物館）	
・ 骨から動物について考えるのがおもしろかったで賞	・ 標本はゼツタイ大事で賞
「LGBTQや多様なアントレプレナー」出展代表者 柳淳也（経営管理大学院）	
・ アントレプレナーはじめて知ったで賞	・ あなたが世界を変えるアントレプレナーで賞
「動物園でサルをのぞく・くらべる」出展代表者 村松明穂（高等研究院）	
・ おさるの勉強が子供と一緒にびっくりしたで賞	・ これからの動物園も楽しみで賞
「ナノって何なの？光と量子で探る科学」出展代表者 田原弘量（白眉センター）	
・ 想像が追いつかない程小さな世界で賞	・ ナノって何なのダジャレが効いてるで賞
「生体鉱物で身体を治す素材をつくる」出展代表者 薮塚武史（エネルギー科学研究科）	
・ 工学の認識を変えてくれた賞	・ アパタイトすごいで賞

● ちゃぶ台囲んで膝詰め対話


「ナメクジ、お嫌いですか？」出展代表者 宇高寛子（理学研究科）	
・ 子供にまで科学の面白さを伝えている賞	・ みんなでナメクジ好きになったで賞
「失くしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!」出展代表者 東島沙弥佳（白眉センター）	
・ こどものギモンにいてねいに答えてくれたで賞	・ しっぽの不思議いっぱい賞
「いろんな目で乳がんをみる」出展代表者 片岡正子（医学研究科）	
・ 研究の未来に期待賞	・ 女性の味方で賞

4. 出展者情報

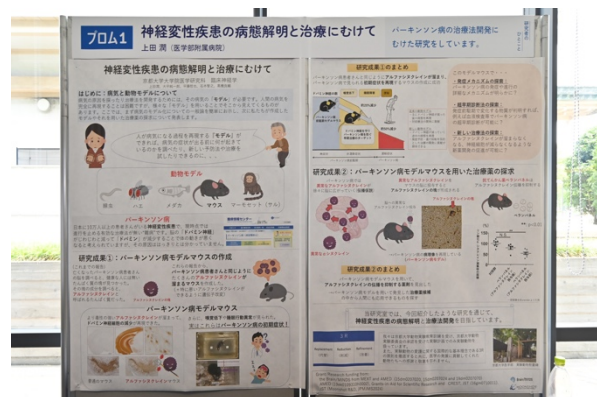
以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするならば、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ2019のWEBサイトでもご覧になれます (<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2019/>)。

4-1. 研究者と立ち話


ブロム 1 神経変性疾患の病態解明と治療にむけて 上田潤（医学部附属病院）

 がんばって実用化してほしい賞

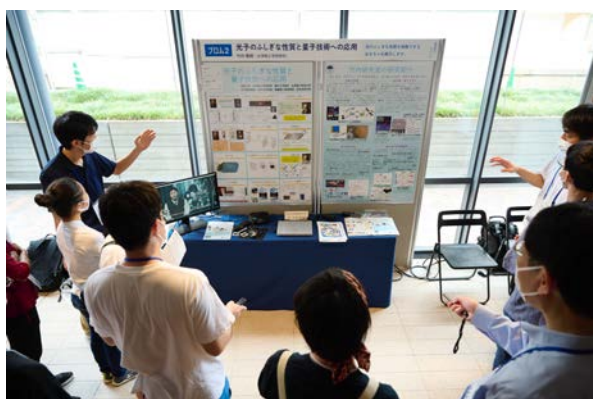
パーキンソン病は代表的な神経変性疾患の一つであり、症状を改善する対症療法は存在しますが、病状の進行自体を抑制する治療法は現時点では存在しません。我々の研究室ではパーキンソン病の病態解明と治療法の開発を目標として日夜研究に取り組んでおり、今回は我々の最近の研究成果についてお話ししたいと思います。



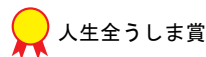
ブロム 2 光子のふしぎな性質と量子技術への応用 竹内繁樹（大学院工学研究科）

 光の将来はもっと明るいで賞

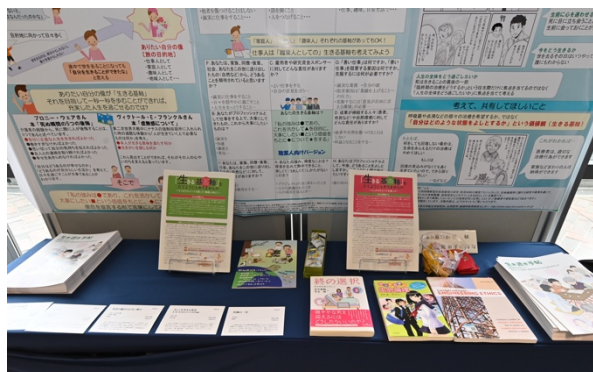
光は、「光子」と呼ばれるエネルギーの粒からできています。私たちは、その光子を、自在に操ることで、光子の持つ不思議な性質の解明を目指すと共に、量子コンピューターや新しい計測技術などの応用について研究しています。今回の立ち話では、この「光子」の不思議な性質、面白さについてお話できればと思います。



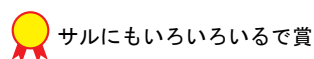
プロム 3 人生を穏やかに過ごすために必要なこと
鈴木美香 (iPS細胞研究所)



人生の最終章を考えるなんて縁起でもない？私たちが制作した「生き逝き手帖」では、人生の最終章を考えることはむしろ、日々の暮らしの中で自分が何を大事にしているかを見つめ直すきっかけになることを期待しています。「自分はどうあるのがよいか、何をよしとするか、しないか。それはなぜか」一緒に考えてみませんか？



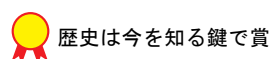
プロム 4 動物園でサルの社会をのぞく・くらべる
村松明穂 (高等研究院)



日本で暮らす私たちにとって一番身近なサルはニホンザルですが、ニホンザルをふくむ「マカク」と呼ばれているサルたちは、複雑な社会のなかで生きています。動物園のマカクたちのケージに装置を取り付け、課題に取り組むとおやつがもらえるという場面で、サルたちがそれぞれどのような行動をみせるのかを観察しています。



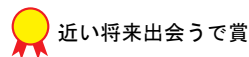
プロム 5 埋もれた古道から探る地域の歴史
伊藤淳史 (大学院文学研究科)



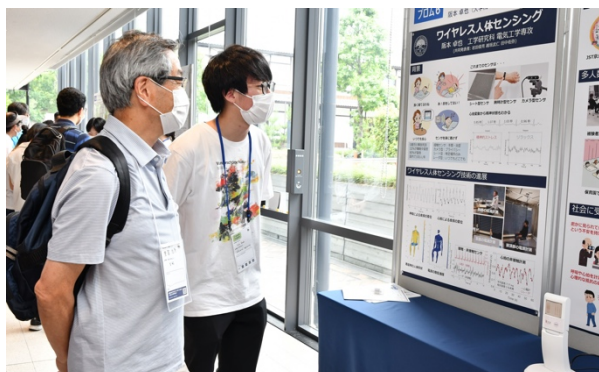
京大は遺跡の上にある大学です。時計台のある本部構内は、幕末まで京と近江を結ぶ重要な街道（白川道）がはしり、多くの人や物が往還していました。古道やその周辺の千年近くに及ぶ変遷を明らかにしてきた発掘調査の成果を通じて、大学のある地域が重ねてきた歴史とこれからについて、思いを馳せていただければと思います。



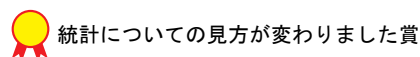
プロム 6 ワイヤレス人体センシング
阪本卓也（大学院工学研究科）



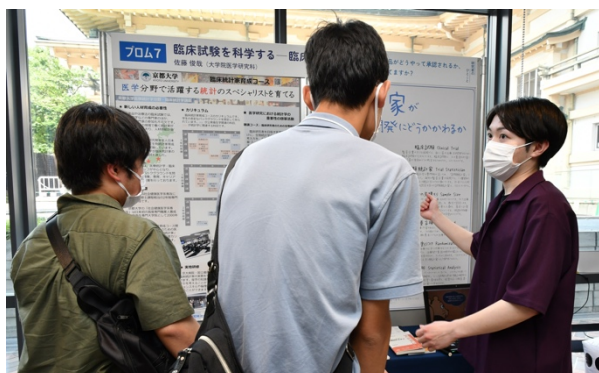
人体の情報を離れたところから計測できるワイヤレス人体センシングは、非接触で呼吸や心拍などのバイタルサインを計測できるため、スマート社会構築に向けたキーテクノロジーとして期待されている。呼吸・心拍・血圧・ジェスチャーなど、さまざまな対象について、センシング技術の発展可能性についてお話しします。



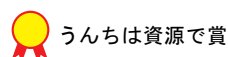
プロム 7 臨床試験を科学するー臨床統計学
佐藤俊哉（大学院医学研究科）



新しい医薬品や治療法の開発では、最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性と倫理性が求められ、専門的な知識を持つ統計家の参加が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学です。臨床試験を科学する臨床統計学、みなさんも体験してみてください。



プロム 8 アフリカで衛生環境と暮らしの向上を
真常仁志（地球環境学学）



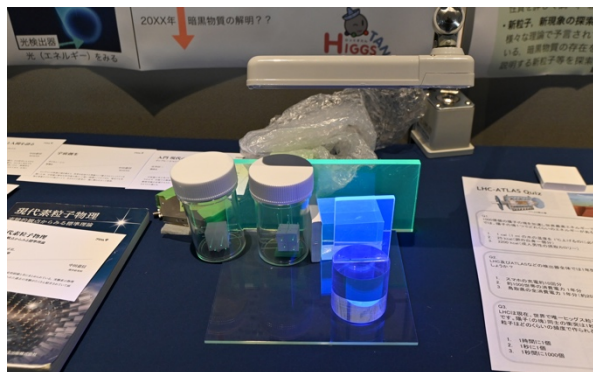
世界有数の貧困国であるアフリカ・マラウイの農村において、し尿分離型トイレなどを活用して住民の暮らし向上、環境保全、衛生状態の改善を目指す研究を実施しています。最終ゴールは、人と自然のエコな関係構築です。



ブロム 9 素粒子で宇宙の謎を解く
中田嘉信（大学院理学研究科）

量子力学のロマンが詰まっているで賞

私たちを作る最小の要素を素粒子と呼びます。高エネルギー物理学研究室では、この素粒子を用いて宇宙の誕生を解き明かす研究をおこなっています。「なぜ小さな素粒子から宇宙の始まりがわかるのか？」と思ったあなた、ぜひ発表を見にきてください。



ブロム 10 健康データと自治体の政策づくり
祐野恵（学際融合教育研究推進センター）

子どもの教育がかわるかも賞

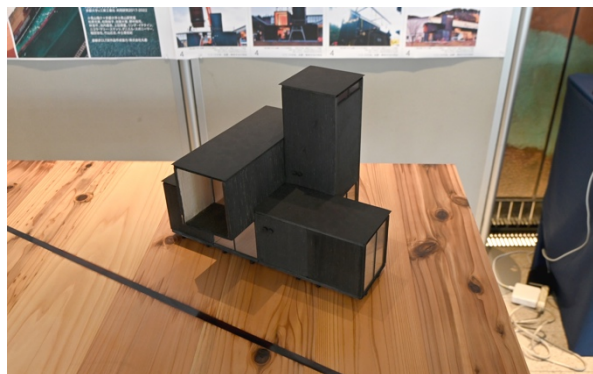
全ての小中学生を対象とした健康診断の実施は、世界中を見渡しても日本に限られる。これら学校健康診断の結果は、所定の期間保管された後、全て廃棄されてきた。しかし、一生涯に罹患する病気が学童期に規定されるとわかり、学力と健康の関係にも注目が集まるなかで、自治体におけるデータ利活用の課題について取り上げる。



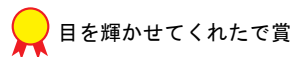
ブロム 11 アップサイクルによる CLT 端材の再製品化
小見山陽介（大学院工学研究科）

いつかこんな家に住みたいで賞

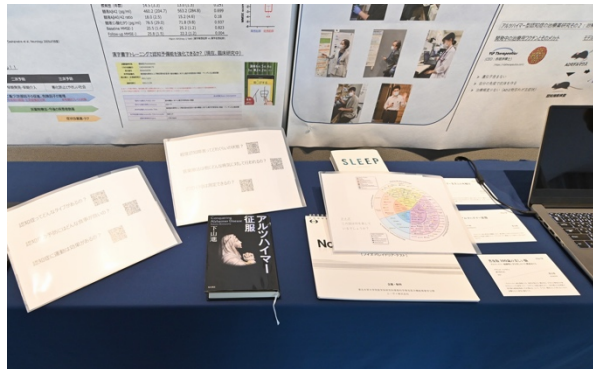
建設分野における地球環境負荷低減のため近年注目されている新しい木質部材 CLT。一度建築で利用された CLT パネルを解体し、その履歴を残したまま別の魅力的な製品へとアップサイクルすることで、廃棄物を極力出さない真に循環的な建設への貢献を図る研究に取り組んでいる。本展示ではその試作品を展示する。



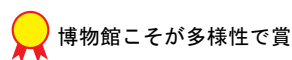
ブロム 12 認知症の病態研究から治療まで
葛谷聡 (大学院医学研究科)



私たちの研究室では認知症に対する新たな薬の探索、認知症予防の研究、漢字学習や音楽療法による認知機能改善の研究など様々なことを行っています。これまでの成果とこれからの取り組みをお伝えしますので、興味を持たれた方は是非お越しください。



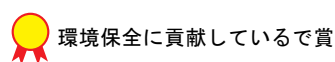
ブロム 13 大学博物館の標本と生物多様性科学
本川雅治 (総合博物館)



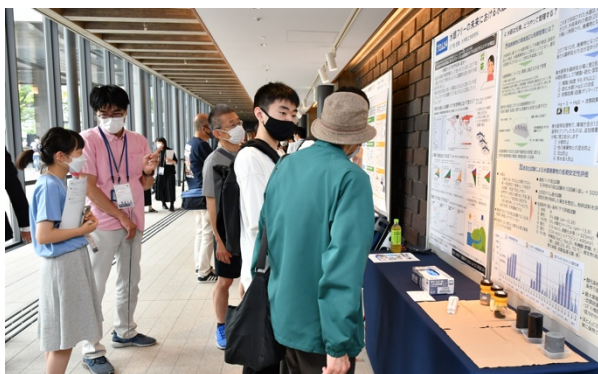
博物館の標本といえば、展示・収蔵・研究が思い浮かびます。大学博物館と博物館は違うと考えます。標本と展示・収蔵・研究に注目して、大学博物館と博物館を比べます。私たちが大学博物館で行っている生物多様性科学の取り組みや展示リニューアルを紹介します。大学博物館や標本が果たす役割を一緒に考えましょう。



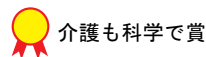
ブロム 14 水銀フリーの未来における水銀リスク？
日下部武敏 (大学院工学研究科)



水銀は水俣病の原因物質として知られています。2017年に人類はできるだけ使わないように国際的な取り決め「水俣条約」を作りました。今後の社会の変化に伴い、水銀はどのように扱っていけばよいのでしょうか？また健康リスクはどのように変化していくのでしょうか？



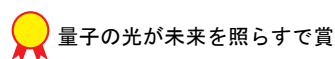
ブロム 15 介護施設における健康管理と ICT
 富山まゆみ (大学院医学研究科)



あなた自身が高齢になり、介護が必要になった場合、どこで住んでいると思いますか？最近介護施設で暮らす方が増えています。同時に介護施設で働いている人手不足が問題になっています。高齢少子化が進む日本はどうしたらよいのか？私達は、介護施設での ICT や介護ロボットを上手に使っていただけたいなと考えています。



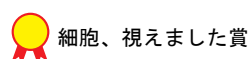
ブロム 16 ナノって何なの？ 光と量子で探る科学
 田原弘量 (白眉センター)



半導体や金属を小さくしていった先には、ナノの世界が待っている！ものをナノメートルのサイズまで小さくすることで生まれる不思議な性質（光・電子・量子の性質）について分かりやすくお話しします。



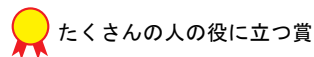
ブロム 17 “みる”から始まる研究の世界
 松田道行 (大学院生命科学研究所)



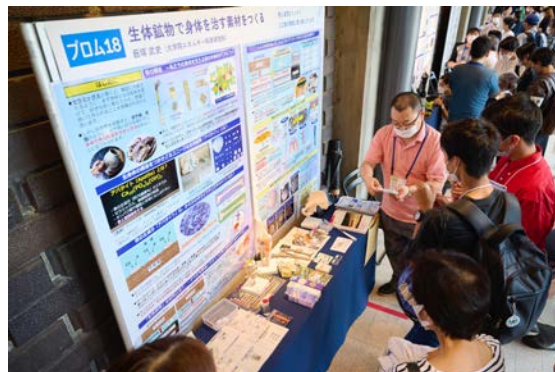
私たちは、様々な顕微鏡や蛍光バイオセンサーを使って、細胞内の分子の活性を観察し、病態との関連を明らかにしてきました。当日は簡単に観察できるものも準備してお待ちしています。最新の研究成果も交えながら、楽しくお話ししましょう。



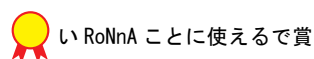
プロム 18 生体鉱物で身体を治す素材をつくる
 藪塚武史（大学院エネルギー科学研究科）



超高齢社会の到来により、病気や事故で失われた骨を治す人工骨など、さまざまな治療を支援する医療用素材の需要が高まっています。私たちは、生命体のからだを支える鉱物「アパタイト」の性質に着目し、身体の中で自然に骨と一体化する人工骨や、薬の効果を高めるカプセルなど、人の身体を治す新素材の開発を進めています。



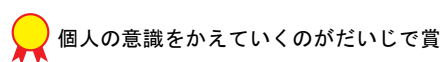
ノース 1 あなたの知らないRNAの世界
 齊藤博英（iPS細胞研究所）



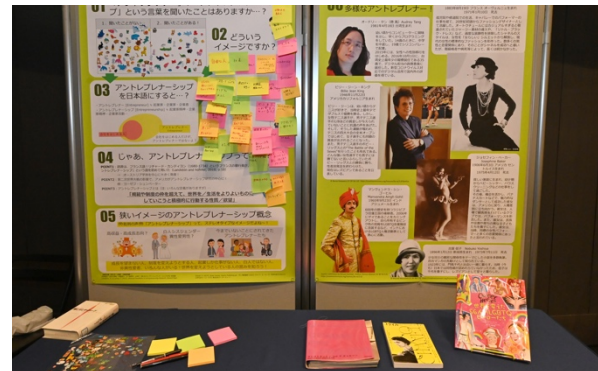
RNA は私たち生物を形作る細胞において様々な働きを担う重要な分子です。最近ではワクチンとして大活躍していますが、応用の可能性はそれだけではありません。RNA を駆使した病気の診断や治療、安全な再生医療の実現といった、私たちの研究室の取り組みについて紹介します。




ノース 2 LGBTQ や多様なアントレプレナー
 柳淳也（経営管理大学院）



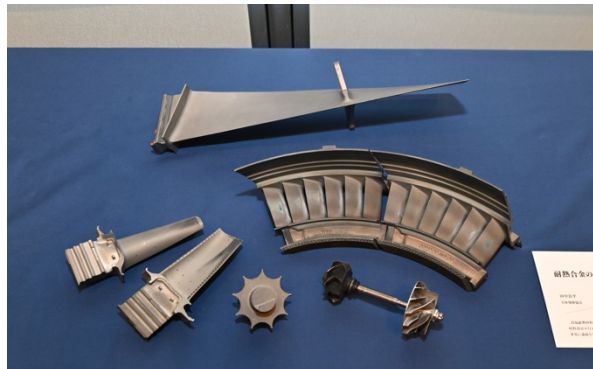
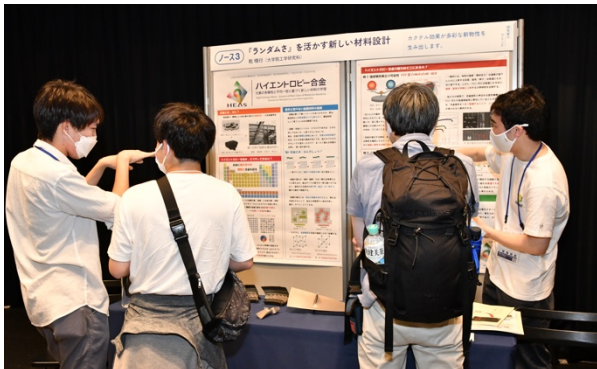
「アントレプレナー」という言葉を知っていますか？日本語では、「起業家」と訳されることが多いですが、どういった人をイメージしますか？そのイメージが、研究者内でも、男性・同性愛者・健常者・IT や科学技術分野に偏っていることが、近年、指摘されてきました。今回は、多様な「アントレプレナー」を紹介します。




ノース 3 『ランダムさ』を活かす新しい材料設計
乾晴行（大学院工学研究科）

 ランダムを制御しているのは人間の体です！賞

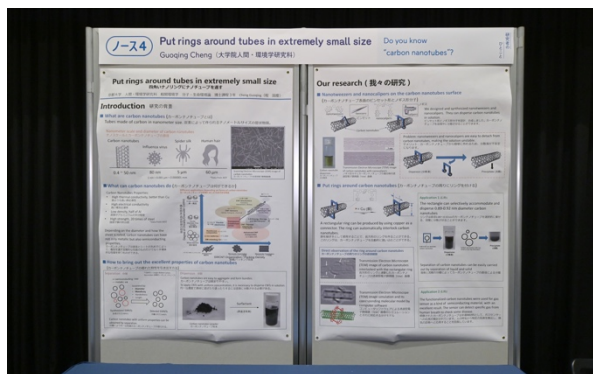
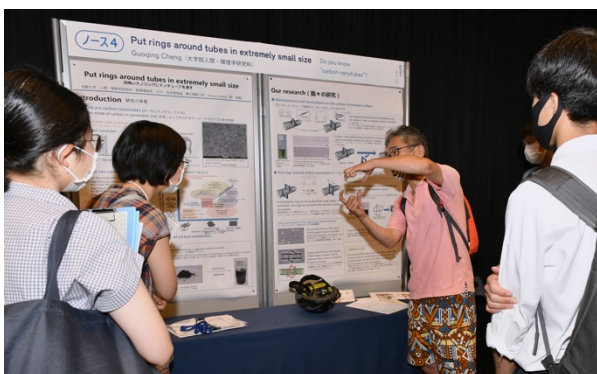
多種類の元素を混ぜ合わせたハイエントロピー合金では、構成元素がランダムに配置することで様々な優れた材料特性を発現します。今、この合金の持つ様々な可能性が注目を集めており、全く新しい材料設計の指針となりつつあります。ここではこのような材料設計の最先端を紹介します。




ノース 4 Put rings around tubes in extremely small size
Guoqing Cheng（大学院人間・環境学研究科）

 最先端で賞

Carbon nanotubes are extremely small tubes made from carbon atoms. They are one of the most attracting nanomaterials, with surprising properties to build many amazing things. We have made nano-size organic rings and put them around carbon nanotubes, to let the tubes better to use.




ノース 5 研究の魅力を見出す“鏡”プロジェクト
鏡プロジェクト | 東島沙弥佳・田原弘量（白眉センター）

 ワクワクもらいましたで賞

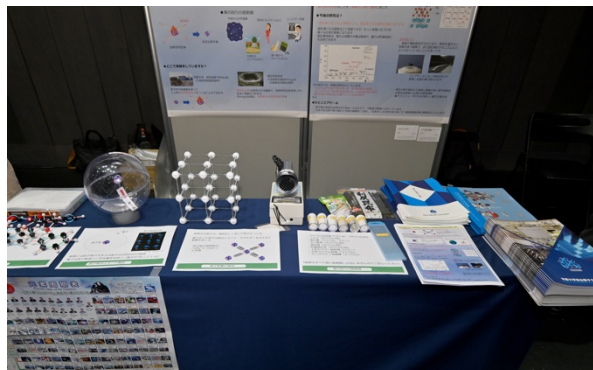
白眉センター所属の研究者が、自身の研究をぎゅっと1枚のポンチ絵に詰め込みました。曼荼羅、イヌワシ、作曲AIや、細胞、光、犯罪、レジオネラ菌まで、さまざまな分野の最先端を伝えます。みなさんの目（かがみ）には、彼らの研究の魅力が一体どんな風に映るでしょうか？




ノース 6 原子核を活用した超精密な分析と応用
北尾真司（複合原子力科学研究所）

 ねばり強く解説してくれたで賞

原子核の実験という危ないイメージがあるかもしれませんが、物質は原子できていて、原子の中には原子核があります。原子核の性質をうまく利用することで、物凄い精度の実験ができて、新しい研究分野が広がっています。私たちの生活に役立つ物質の精密分析に活用したり、将来の新しい実験技術としても期待されています。



ノース 7 日本とASEANの共創メカニズム
河野泰之（東南アジア地域研究研究所）

 自己再認識・社会問題に興味をもたせてくれた賞


日本とASEANは、2023年に友好協力50周年の節目を迎えます。本学は半世紀以上に亘る人的交流を通じて信頼関係を築き、双方の科学技術協力を牽引してきました。50周年を節目に、その関係は「協力」から「共創」関係へと進化を遂げようとしています。次の50年先を見据えて、あるべき姿について対話しましょう。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ
1

文化財のかげらを通してみる人と木の歴史
田鶴寿弥子（生存圏研究所）


 沼に入らせてくれたで賞

日本人の文化には木材が欠かせません。近年、木製文化財の科学的調査により、人と木が共にたどってきた歴史を紐解く研究が進んでいます。本出展では、樹種を見分ける方法の現状や課題を紹介するとともに、文化財調査からわかってきたおもしろいことを紹介します。



ちゃぶ
2

高強度レーザーが切り拓く極限科学
松井隆太郎（大学院エネルギー科学研究科）


 応用が色々期待できるので賞

近年実現している、1000兆ワットという超高強度レーザーを物質に照射することで、太陽の中心部に迫る超高エネルギー状態が実現します。これを利用することで、小型粒子線がん治療装置の開発や、高エネルギー宇宙線生成のメカニズムの解明、核融合炉の開発などの医療・学術・産業等への幅広い応用が期待されています。



ちゃぶ
3

失くしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!
東島沙弥佳（白眉センター）


 しっぽの化石がみつかってほしい!!で賞

我々を指す「ひと」というのはシンプルな言葉ですが、生物学的な種としての「ヒト」と人間性を備えた存在としての「人」という2つの意味を包含しています。これら2つの成り立ちを知る鍵こそが、しっぽだと私は考えています。たかがしっぽ、されどしっぽ。



ちゃぶ
4

いろいろな目で乳がんをみる 片岡正子（大学院医学研究科）


 高速 MRI の未来が楽しみで賞

乳がんは今や女性の 9 人に 1 人がかかる病気。私たちは新しい撮影法や新しい装置・薬剤を活用しながら、体に傷をつけずに多角的に乳がんの性質をとらえ（見る・診る）、治療に役立てる方法を探っています。京大病院で取り組んでいる最先端の研究も交えつつ MRI、核医学などの各種検査の仕組みをわかりやすく説明します。



ちゃぶ
5

薄く平らな材料と光、中性子でがん治療 Kang Heon Gyu（大学院人間・環境学研究科）


 役に立つのはこれ賞

光や中性子は、体に害を及ぼすことはありません。しかし、我々が開発した「増感剤」は、光と中性子から熱と放射線（ α 線）を生成し、がんの増殖を抑えることがわかってきました。その増感剤は、非常に薄く平らな材料で、それをマウスの血液中に注射すると、がんにも集積し、そこに光と中性子を当てると、がんが治りました。



ちゃぶ
6

ナメクジ、お嫌いですか？ 宇高寛子（大学院理学研究科）

 みな一生懸命生きていて賞

よく見かける生き物ほど、気に掛けなかったり、いることを迷惑だと思ったりして、どんな生き物なのかを知る機会が意外とありません。そういった身近な生き物の 1 つ、ナメクジが野外でどうやって生きているかを研究しています。



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
プロム1	○	医学部附属病院 上田 潤 特定研究員 石本 智之 特定助教 大平 純一郎 大学院3年 平藤 哲也 大学院2年
プロム2	○	大学院工学研究科 竹内 繁樹 教授 岡本 亮 准教授 衛藤 雄二郎 准教授 高島 秀聡 助教
プロム3	○	iPS細胞研究所 鈴木 美香 特定研究員 大学院文学研究科 児玉 聡 教授 大学院医学研究科 佐藤 恵子 特任准教授 竹之内 沙弥香 准教授
プロム4	○	高等研究院 村松 明穂 研究員
プロム5	○	大学院文学研究科 伊藤 淳史 助教 千葉 豊 准教授 富井 眞 助教 笹川 尚紀 助教 内記 理 助教
プロム6	○	大学院工学研究科 阪本 卓也 教授 岩田 俊亮 修士課程2年 越坂 武仁 修士課程2年 岩田 慈樹 修士課程1年 田中 佑弥 修士課程1年
プロム7	○	大学院医学研究科 佐藤 俊哉 教授 田中 司朗 特定教授 大森 崇 特定教授 高木 佑実 特定研究員 大宮 将義 特定助教
プロム8	○	地球環境学学 真常 仁志 准教授 学術研究支援室 若松 文貴 URA
プロム9	○	大学院理学研究科 中田 嘉信 博士課程1年 末野 慶徳 博士課程2年 川上 将輝 博士課程1年 Hu Zhuojun 博士課程1年 浅野 有香 修士課程2年 有元 隼太 修士課程2年 河本 地弘 修士課程2年

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		武市 宗一郎 修士課程2年 藤中 峻 修士課程2年
プロム10	○	学際融合教育研究推進センター 祐野 恵 特定助教
プロム11	○	大学院工学研究科 小見山 陽介 講師 中土居 宏紀 研究員 竹山 広志 研究員 松岡 桜子 修士課程2年 Nicola Marie Smuts 研究生 Lynda Itatahine 研究生 Daniel Sponheimer 特別研究学生 林 浩平 学部生
プロム12	○	大学院医学研究科 葛谷 聡 准教授 後藤 和也 特定助教 上田 紗希帆 特定助教 松本 瑞樹 博士課程4年 和田 隆史 博士課程2年
プロム13	○	総合博物館 本川 雅治 教授 大学院理学研究科 岡部 晋也 博士課程4年 谷戸 崇 博士課程3年 池田 悠吾 博士課程3年 カン ヘジ 修士課程2年
プロム14	○	大学院工学研究科 日下部 武敏 助教 高岡 昌輝 教授 松木 敢大 修士課程1年
プロム15	○	大学院医学研究科 當山 まゆみ 助教 石川 理華 修士課程2年
プロム16	○	白眉センター 田原 弘量 特定准教授
プロム17	○	大学院生命科学研究科 松田 道行 教授 幸長 弘子 助教 寺井 健太 准教授 小鉢 健樹 博士課程3年 Houssam AL Koussa 博士課程1年 石井 衛 博士課程1年 塚本 祥子 博士課程1年 出口 英梨子 博士課程1年 松田 樹生也 修士課程2年 Ceylin Zeybek 修士課程1年 西坂 有紗 修士課程1年 石井 香蘭 技術補佐員
プロム18	○	大学院エネルギー科学研究科 藪塚 武史 講師 呉 宇唯 修士課程2年 船守 萌海 修士課程1年

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		神戸 佑也 修士課程1年 木田 俊太郎 修士課程1年
ノース1	○	iPS細胞研究所 齊藤 博英 教授 大野 博久 特定拠点助教 吉井 達之 特定助教 川崎 俊輔 特定研究員 大学院医学研究科 亀田 重賢 博士課程2年 正木 魁人 博士課程2年 井藤 郁弥 修士課程1年 澤登 千聖 修士課程1年 山地 紀香 修士課程1年
ノース2	○	経営管理大学院 柳 淳也 研究員 山田 仁一郎 教授
ノース3	○	大学院工学研究科 乾 晴行 教授 陳 正昊 助教 HAN Shu 修士課程2年 黒岩 省吾 修士課程2年 松尾 優介 修士課程2年 恩田 翔平 修士課程1年 鄭 晟皓 修士課程1年
ノース4	○	大学院人間・環境学研究科 Guoqing Cheng 博士課程
ノース5	○ ○ ○	白眉センター（鏡プロジェクト） 東島 沙弥佳 特定助教 田原 弘量 特定准教授 中村 栄太 特定助教 中村 秀樹 特定准教授 包含 特定助教 安達 俊介 特定助教
ノース6	○	複合原子力科学研究所 北尾 真司 准教授 黒葛 真行 研究員 大学院理学研究科 太田 英寿 修士課程1年
ノース7	○	東南アジア地域研究研究所 河野 泰之 教授 園部 太郎 URA
ちゃぶ1	○	生存圏研究所 田鶴 寿弥子 助教 反町 始 技術専門職員
ちゃぶ2	○	大学院エネルギー科学研究科 松井 隆太郎 助教
ちゃぶ3	○	白眉センター 東島 沙弥佳 特定助教
ちゃぶ4	○	大学院医学研究科 片岡 正子 講師 三宅 可奈江 助教

ブース 番号	代表者 ○	所属	
		氏名	職名又は学年等
		本田 茉也 客員研究員 岡澤 藍夏 大学院1年 橋本 陽菜 修士課程 医学部附属病院 飯間 麻美 助教 松本 純明 助教	
ちゃぶ5	○	大学院人間・環境学研究科 Kang Heon Gyu	博士課程3年
ちゃぶ6	○	大学院理学研究科 宇高 寛子	助教

5. その他

5-1. 各種説明会

■ 5-1-1. 出展募集説明会

2022年3月23日、オンライン（Zoom ウェビナー）上で、出展を検討している参加者向けにアカデミックデ이의概要や出展のメリット、出展に向けての作業やサポート等について説明しました。

京都大学アカデミックデイ 2022～創立125周年記念～

日時: 2022年6月19日 (日) 10:00～16:00
場所: ロームシアター京都
企画:
・研究者と立ち話 (30件程度)
- ポスター展示を使って様々な分野の研究者と対話できる
・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 (6件程度)
- ちゃぶ台囲んで研究者とじっくり対話できる
・研究者の本棚
- 研究者のおすすめの本をきっかけに対話がはじまる
・クロストーク (3セッション程度)
- 異分野研究者のテーマに沿った議論を楽しむ
※事前のトークイベント (オンライン) も開催

会場 (ロームシアター京都)

■ 5-1-2. 出展者向け説明会

2022年5月16日、学術研究支援棟地下会議室とオンライン（Zoom ウェビナー）のハイブリッド形式で、京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

学術研究支援室の大西将徳 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。会の後半では、白井哲哉 URA より学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。

今日のコンテンツ

第一部 (15:30-16:30)
京都大学アカデミックデイとは
伝わりやすい研究紹介とは

第二部 (16:30-)
研究紹介に向けたコンテンツ相談

5-2. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、京都市バス・地下鉄で広告を掲載しました。

5-2-1. ポスター (A2 サイズ)



125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?



京都大学アカデミックデイ2022

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto

※但し、一部プログラムについては6月上旬から開催予定(要申込のプログラム有り)
 ※イベント当日は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた対策を行っています。
 * Some programs will be held from early June. (There is a program that requires application).
 * On the day of the event, countermeasures will be taken based on the infection status of the novel coronavirus.

主催: 京都大学(学術研究推進室、研究推進部研究推進課、
 学術・技術対話、ワーキンググループ)
 Organizer: Research Administration Office, Research Promotion Department, and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University

お問い合わせ先: Contact Information:
 京都大学アカデミックデイ事務局 Kyoto University Academic Day Secretariat Office E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

参加費: 無料(申込み不要)
 No charge/
 No registration required




創立125周年記念
 Kyoto U's 125th Anniversary

5-2-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面



125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?



1897年 京都大学創立。教授と学生が対等に学問を対話する関係へ

1925年 時計台竣工。京都大学のシンボルが誕生

1943年 学徒出陣。対話との別離

1946年 敗戦後、新しい大学の体制へ

1946年 女学生入学

1953年 全国共同利用研究所が設立

1979年 市民講座

2012年 アカデミックデイの始まり

京都大学アカデミックデイ2022

創立125周年記念
Kyoto U's 125th Anniversary

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
 10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto

参加費: 無料 (申込み不要)
 No charge / No registration required

主催: 京都大学 (学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
 「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)
 Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



※但し、一部プログラムについては6月上旬から開催予定 (要申込のプログラム有り)
 ※イベント当日は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた対策を行っています。
 * Some programs will be held from early June. (There is a program that requires application).
 * On the day of the event, countermeasures will be taken based on the infection status of the novel coronavirus.

京都大学アカデミックデイ2022 —創立125周年記念—

Kyoto University Academic Day 2022 —Kyoto U's 125th Anniversary—



PROGRAM



研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

10:00-16:00

約100名の多様な京都大学の研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.



ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

Round-table Conversations with Researchers

10:30-12:00 | 14:00-16:00

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話、お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversation to know what is going on behind their research.



お茶を片手にクロストーク

Tea-time Crosstalk with researchers

10:00-12:00

立ち話やちゃぶ台に出展する研究者有志が繰り広げる異分野トークセッションです。研究現場における様々なトピックについて熱い議論を交わします。

This is a talk session of different fields of study conducted by researchers exhibiting at the "Casual Chat" and "Round-table conversation". They will engage in heated discussions on a variety of topics in the research field.



研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

6月上旬より順次公開予定

Scheduled to be rolled out sequentially from early June.

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？

What inspired our researchers?

Explore their recommend books displayed with their personal reviews.



オンラインでも膝詰め対話

Dialogs with Researchers, EVEN ONLINE

6月上旬に複数回開催予定

Multiple events scheduled for early June.

6月19日に出席する研究者有志による、オンライン上での研究紹介です。

今年もオンラインでもお会いしましょう！

Some researchers who will be exhibiting on June 19 will present their research online.

See you online again this year!

→ 詳細はWEBページをご覧ください。
Please see the web page for details.



(写真は2019年より前に撮影されたものです)

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

ロームシアター京都

アクセス：地下鉄東西線「東山駅」から徒歩約10分
京阪線「三条駅」から徒歩約20分

- 市バス「岡崎公園ロームシアター・みやこめっせ前」
- 市バス「岡崎公園美術館・平安神宮前」
- 市バス「東山二条・岡崎公園口」



お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学アカデミックデイ事務局
Kyoto University Academic Day Secretariat Office
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



5-2-3. 中吊り広告 (B3 サイズ)

対話を重ねて125年。これからも研究者と語り合いませんか?
125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto
参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required

※他シ、一部プログラムについては6月上旬から開催予定 (要申込みのプログラム有り) | * Some programs will be held from early June. (There is a program that requires application).
※イベント当日は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた対策を行っています。 | * On the day of the event, countermeasures will be taken based on the infection status of the novel coronavirus.

詳細はWEBページをご覧ください。Please see the web page for details.
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

PROGRAM

- 研究者と立ち話
Casual Chat with Researchers
- チャイルド会んで膝詰め対話
Round-table conversation with Researchers
- お茶を片手にクロストーク
Tea-time Cross-talk with researchers
- 研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
- オンラインでも膝詰め対話
Dialog with Researchers, EVEN ONLINE

お問い合わせ先 | Contact Information
京都大学アカデミックデイ事務局
Kyoto University Academic Day Secretariat Office
E-mail: kharby-kyou@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

主催 | 京都大学 学術研究推進部、研究推進研究推進課、
「国と科研」推進部、(フェローグループ)
Organizer: Research Administration Office,
Research Promotion Department, and Working Group for
"Scientific and Technological Dialogues with the Public"
at Kyoto University

— 創立125周年記念 —
— Kyoto U's 125th Anniversary —



5-2-4. 電子サイネージ

● 京都大学生協電子サイネージ

対話を重ねて125年。これからも研究者と語り合いませんか？
125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto

参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required

※申し込み・参加プログラムについては各会場から随時発表・展示のプログラムを案内いたします。* Some programs will be held from each site. (There is a program that requires application.)
※イベント参加は、新型コロナウイルスの感染状況を確認し入場制限を行います。* On the day of the event, countermeasures will be taken based on the infection status of the local community.

詳細はWEBページをご覧ください。Please see the web page for details.
<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

PROGRAM

- 研究者と立ち話
Meet Researchers & Researchers
- ライブ配信で観望地対話
Present Talks on-site with Researchers
- お茶を片手にクロストーク
Tea Time with Researchers
- 研究者の書棚
Researchers' Bookshelves
- オンラインでも観望地対話
Present Talks with Researchers ONLINE

新立125周年記念
Kyoto U's 125th Anniversary

● 京都岡崎 蔦屋書店電子サイネージ

対話を重ねて125年。これからも研究者と語り合いませんか？
125 years of dialogue. Do you continue to talk with our researchers and know what they are studying about?

京都大学アカデミックデイ2022

2022年6月19日(日) 10:00-16:00 | ロームシアター京都
10am - 16pm, 19 June, Sunday, 2022 | ROHM Theatre Kyoto

参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required

※申し込み・参加プログラムについては各会場から随時発表・展示のプログラムを案内いたします。* Some programs will be held from each site. (There is a program that requires application.)
※イベント参加は、新型コロナウイルスの感染状況を確認し入場制限を行います。* On the day of the event, countermeasures will be taken based on the infection status of the local community.

詳細はWEBページをご覧ください。Please see the web page for details.
<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

新立125周年記念
Kyoto U's 125th Anniversary



対話を重ねて125年。これからも研究者と語り合いませんか？

京都大学アカデミックデイ 2022

Kyoto University Academic Day 2022

この研究、
とっても面白いですよ！
どう思いますか？

先ほどの話、
もっと詳しく
聞きたいです！

お話を聞いても
いいですか？

2022年6月開催

対話を重ねて125年。
これからも研究者と語り合いませんか？

京都大学
— 創立125周年記念 —
125th
ANNIVERSARY
KYOTO UNIVERSITY

■ 5-2-5. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用して「京都大学アカデミックデイ 2022～創立 125 周年記念～」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

学術研究支援室 Web サイト

研究者出展募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 出展研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/hasshin/academic-day>

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」 (K. U. RESEARCH) ウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

K. U. RESEARCH に設置された京都大学アカデミックデイ専用ページに 2022 年度の層を作成し、出展研究について個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2022/>

● SNS (Twitter、Facebook)

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウント、学術研究支援室の公式アカウントを用いました。開催日前日まで開催情報や出展情報などを告知しました。

京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2022」を活用し、プレイベントをはじめメインイベントの「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手に座談会」の開催情報を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。それぞれのイベント終了後には、当日の様子を写真を添えて紹介しました。

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」 (K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2022」を活用しました。

京都大学 学術研究支援室 (KURA Office) Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、開催案内を行いました。

■ 5-2-6. その他の広報媒体

本年度も様々なチャネルを利用して「京都大学アカデミックデイ 2022～創立 125 周年記念～」の集客を行いました。

● 京都大学教職員ポータル

教職員が利用するポータルサイトの掲示板に、アカデミックデイ開催通知を掲載しました。

● Peatix

昨年度に引き続き、イベントページを開設しました (<https://academic-day.peatix.com/>)。今年度はプレイベントとメインイベントの2種類のイベントページを作成しました。また、プレイベントの集客を目的として、Peatix登録者のうちアカデミックなイベントに興味がある2万5千人に対して、5月25日(水)12:00にメール配信を行いました。昨年度に引き続き、今年度も最も申込者数が多い経路となりました。さらに、アカウントのフォロワーも少しずつ増えて、2022年10月時点で30名のフォロワー数となっています。

● メール配信

アカデミックデイ2020並びに2021申込時に「今後のメール配信を希望する」を選択された方を対象に、プレイベント・メインイベントの開催案内のメール配信を行いました。一定数の申込があり、リピーター層の取り込み効果が示されました。

● サイエンスポータル

JSTが運営する科学技術の情報サイト「サイエンスポータル」に、プレイベント4回分とメインイベントの合計5つのイベントを分けて、5ページ分の情報を掲載しました。

(メインイベント <https://scienceportal.jst.go.jp/events/16696/>)

● 京都大学創立125周年記念イベント関連の広報

アカデミックデイ2022は、京都大学創立125周年記念イベントの一環として、他のイベントと合同での開催という位置づけだったため、125周年記念広報の中でも取り上げられました。

・ ポスター

京都大学 KYOTO UNIVERSITY

京大125th ANNIVERSARY KYOTO UNIVERSITY

これからの百二十五年に新たな力と輝きを。

2022年6月18日(土)、19日(日) 京都大学創立125周年記念行事

会場 ロームシアター京都

詳細はWEBサイトへ <https://2206academicday.kyoto-u.ac.jp/>

6月18日(土)		6月19日(日)	
<p>OB・OG講演会</p> <p>10:00-11:00</p> <p>京都大学特別会員のOB・OGによる講演会と質疑。出席申請要。山西利和、田中義典、藤本好方、藤澤幸平</p>	<p>アカデミックマルシェ</p> <p>12:00-19:30</p> <p>最先端研究を身近に感じてもらい、体験コーナーと、卒業生が中心の企業による125周年記念商品の販売販売。</p>	<p>自由参加</p> <p>10:00-19:00</p> <p>京都大学アカデミックデイ2022</p> <p>さまざまな分野の研究者と学生が一堂に会して対話をし、京都大学ならではのイベント、新しい研究の世界へご案内。</p>	<p>自由参加</p> <p>13:30-18:30</p> <p>体育会学生会主催イベント</p> <p>全5団体の団体のムビーショー上映、オンラインで観覧できます。応援団の活躍やOBとの縁話も盛り、まるごとご堪能いただけます。</p>
<p>記念式典・記念フォーラム</p> <p>13:00-19:15</p> <p>記念式典(司会:利和)後、野田浩二、小林誠、山中伸弥、本庶佑、高野聖</p>	<p>記念音楽会</p> <p>18:00-19:00</p> <p>京都大学音楽部の音楽家と京都府立音楽団の吹奏による記念コンサート。125周年記念オリジナルプログラムをお楽しみ下さい。</p>		

■ 5-2-7. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

● 附属図書館

京都大学アカデミックデイ 2022 プレイベント開始日の6月1日からメインイベント開催後の6月30日まで、附属図書館2階で、京都大学アカデミックデイ参加研究者が「研究者の本棚」企画のためにセレクトした「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」から一部をレビューとともに展示しました。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1394400>



● 京大生協ショップルネ（書籍コーナー）

京大生協のショップルネ1階イベントスペースでも、6月24日まで「研究者の本棚」特設コーナーが設けられ、書籍が展示されました。



■ 5-2-8. イベント終了後の報告関連

アカデミックデイ 2022 は、京都大学創立 125 周年記念イベントの一環として実施されたことから、イベント終了後は本報告書の他に、様々な媒体で報告が行われました。

● 紅萌 42 号

写真とイラストをふんだんに使って、当日の盛況な様子が報告されました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/kurenai-42-875d163f34d239d3d7b0967c6ea89431.pdf>

● 京都大学ニュース（2022 年 6 月 20 日付）

京都大学創立 125 周年記念行事挙の報告の中で、アカデミックデイも取り上げられました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-06-20>

● 京大広報 764 号

「大学の動き」のセクションで、アカデミックデイの当日の様子が取り上げられました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/kyodai-koho-764-6cf8348b258bdfd975c0e760d4b34823.pdf>

● Kyoto University Now

京都大学同窓生向けの冊子である Kyoto University Now でも、巻頭特集として京都大学創立 125 周年記念行事が取り上げられる中で、アカデミックデイの当日の様子が写真も交えて取り上げられました。

（冊子媒体のみ）

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。複数年度にまたがる事業となった京都大学アカデミックデイ 2022～創立 125 周年記念～の支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター 教授
喜多一	国際高等教育院 教授
藤田恭之	医学研究科 教授
榎木哲夫	工学研究科 教授
児玉聡	文学研究科 教授
藤原辰史	人文科学研究所 准教授
塩瀬隆之	総合博物館 准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター 助教（～2022年3月）
高橋裕幸	総務部渉外課 課長（～2022年3月）
永野武彦	総務部渉外課 課長（2022年4月～）
上根勝	総務部広報課 課長（～2022年3月）
明石敦一	総務部広報課 課長（2022年4月～）
林紀英	研究推進部研究推進課 課長（～2022年3月）
高橋裕幸	研究推進部研究推進課 課長（2022年4月～）
佐治英郎	学術研究支援室 室長（～2022年3月）
石川冬木	学術研究支援室 室長（2022年4月～）

学術研究支援室（KURA：2022年10月より学術研究展開センターに改称）

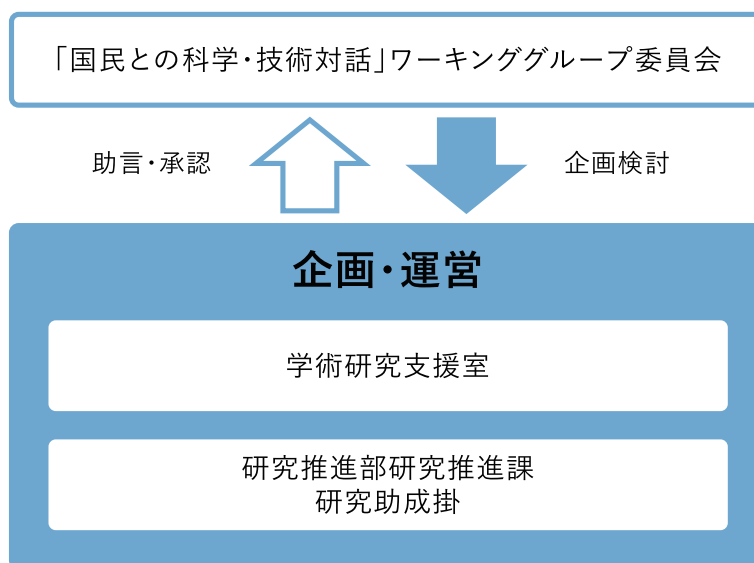
大西将徳	学術研究支援室 URA
白井哲哉	学術研究支援室 URA
藤田弥世	学術研究支援室 URA
太田一陽	学術研究支援室 URA（～2021年3月）
中島奈保子	学術研究支援室 事務担当職員

研究推進部研究推進課

福元隆	課長補佐（2021年11月～2022年10月）
松本寛史	研究助成掛（～2021年10月）
大田瞳	研究助成掛（～2022年3月）
奥田将基	研究助成掛（2022年4月～）

6-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室 研究推進部研究推進課
デザイン（広報・サイン）	Studio Kentaro Nakamura 世良田波波（イラスト）
演出・運営・設営サポーター	株式会社 TOW
メインイベント当日サポーター	松山祐輔（研究推進部研究推進課研究戦略掛） 鈴木雄太（研究推進部研究推進課研究助成掛） 藤井佳子（研究推進部研究推進課研究助成掛） 谷本沙織（研究推進部研究推進課総務掛） 酒井直美（研究推進部研究推進課研究支援掛） 若松文貴（学術研究支援室）
イベント音楽（オープニング）	MATSU GT-K
イベント音楽（エンディング）	もっぴーさうんど
写真撮影・提供	大森貴生 総務部渉外課
写真撮影補佐	永田奈緒美（情報環境機構）
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



6-3. 準備～事後スケジュール

2020年	10月		京都大学創立125周年記念事業とのコラボ開催を打診され承認（メール審議）
	11月～12月		現地（ロームシアター京都）下見、担当者打ち合わせ
2021年	11月～12月		125周年記念準備室打ち合わせ、TOW打ち合わせ、チームメンバー打ち合わせ
2022年	1月～3月		定例会：125周年記念事業関係者全体定例会（準備室・TOW・他イベント関係者） 打合わせ：CCC（蔦屋）、デザイナー（チラシ・ポスター等）、チームメンバー 現地ロケハン、企画内容検討、出展募集案内の調整、出展者募集チラシ作成
	3月16日	～4月21日	出展者募集（3/23 出展募集説明会）、チラシ・ポスター・電子サイネージ作成 125周年記念関連書籍の選定 定例会：125周年記念事業関係者全体定例会 打合わせ：附属図書館、生協、デザイナー、チームメンバー
	4月	下旬	出展研究者取りまとめ、「研究者の本棚」情報整理 →CCC・附属図書館・ルネへ送付 K.U. RESEARCH 更新、チラシ・ポスター・電子サイネージ作成、 プレイベント申込用アンケート作成、ブース番号確定 定例会：125周年記念事業関係者全体定例会 打合わせ：附属図書館、生協、デザイナー、チームメンバー、
	5月	上旬～中旬	Twitter 投稿開始、Facebook 投稿、Peatix イベントページ作成 チラシ・ポスター印刷、電子サイネージ完成、サイエンスポータル ページ作成依頼 プレイベント申込開始（5/9）、ブックリスト完成 託児室連携、blastmail 連携、プレイベント用動画・画像作成 出展者向け説明会（5/16：ハイブリッド開催） 定例会：125周年記念事業関係者全体定例会 打合わせ：TOW、コンテンツ支援サービス、デザイナー、チームメンバー、 クロストーク・プレイベント登壇研究者
		下旬	地下鉄・市バス中吊り広告（5/27（金）～30（月）） 生協電子サイネージ広告（5/30（月）～6/18日（土）） 会場サイン・当日プログラム作成、クロストーク資料調整、プレイベント企画調整 定例会：125周年記念事業関係者全体定例会 打合わせ：TOW、デザイナー、チームメンバー、 クロストーク・プレイベント登壇研究者
	6月	上旬	プレイベント開催（1日・6日・8日・10日）、メインイベント用アンケート作成 会場サイン・当日プログラム作成、クロストーク資料調整、カラスマ大学連携 定例会：125周年記念事業関係者全体定例会 打合わせ：TOW、チームメンバー、当日サポートメンバー
		10日～16日	蔦屋電子サイネージ広告（6月13日～6月19日） 会場サイン・当日プログラム完成
		17日	前々日設営準備
		18日	前日設営準備、クロストークリハーサル
		19日	京都大学アカデミックデイ2022～創立125周年記念～
		6月	下旬
	7月		反省会、当日資料整理
8月		プレイベントQ&A掲載	

7. 資料

7-1. マニュアル：来場者コメント書き込み方法（お茶を片手にクロストーク）

お茶を片手にクロストーク ご来場の皆様 —コメントの書き込み方法—

新型コロナウイルス感染予防対策のため、イベント中のコメントは「Slido」というアプリを通じてお寄せください。

1. 右のQRコードを読み取っていただくと…



2. 早速「Slido」の質問画面へ！

「質問を入力」をタッチしていただくか、右下の丸いマークを押していただくか、どちらからでもご質問や感想をご記入いただけます。

3. 書き込む方法



「質問を入力」のところに書き込んでいただき、「送信」ボタンを押してください。

※ 文字数は160字まで入力できます。

※ 「お名前（オプション）」を記入されない場合、匿名で投稿いただけます。

※ お名前は一度入力されると変更できませんので、ご注意ください。

送信されたら…



投稿されたご質問や感想は、リアルタイムにお手元の画面で確認が可能です。

素敵だな、共感できるな、など思われたコメントには、「いいね」を押すこともできます。

※ いただいたコメントは後日、アカデミックデイ事務局から先生方へお伝えいたします。

「…」を押していただくと、
・ 投稿した文章を修正する「編集」
・ 投稿した文章を削除する「撤回」
という、2つの操作が可能です。

京都大学アカデミックデイ2022 ～創立125周年記念～

『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。
※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展者等 出展区分
「研究者と立ち話（ポスター／展示）」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
 出展代表者の所属・職名・氏名
 出展研究者の出展タイトル

ジャンル 今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本
 今ハマっている本
 若者にお勧めしたい本
 自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名/著者名/出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメントなど オススメする理由、コメントなど



ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名/著者名/出版社名	推薦理由、コメントなど
フロム1	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学部附属病院・特定研究員 上田潤 『神経変性疾患の病態解明と治療にむけて』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『老化はなぜ進むのか：遺伝子レベルで解明された巧妙なメカニズム』 近藤祥司 講談社	大学生の時に基礎研究のラボに実習に行くきっかけになった本です。老化のメカニズムや老化に関する研究について、わかりやすく解説されています。
		若者にお勧めしたい本	『逆境を笑え：野球小僧の壁に立ち向かう方法』 川崎宗則 文藝春秋	元メジャーリーガー・川崎宗則選手の半生と、その経験から学んだことが書かれています。研究とスポーツという分野の違いはあれど、環境を変えることを恐れずに、新たな事に挑戦し続ける姿勢など学ぶべき点が多いと感じました。
フロム2	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・教授 竹内繁樹 『光子のふしぎな性質と量子技術への応用』	自分の研究に関連して紹介したい本	『量子コンピュータ：超並列計算のからくり』 竹内繁樹 講談社	光の不思議と、量子コンピュータについて書いた本です。今回の話に興味を持って頂いた方には、ご覧頂けたらと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『光と物質のふしぎな理論：私の量子電磁力学』 リチャード・P. ファインマン、釜江常好（訳）、大貫昌子（訳） 岩波書店	ファインマン先生がノーベル賞を、朝永先生と共同受賞された量子電磁気学を、なんと数式をつかわずに説明した本です。私は学生の頃によく、目からうろこが落ちる気がしたのを覚えています。
フロム3	研究者と立ち話（ポスター/展示） iPS細胞研究所・特定研究員 鈴木美香 『人生を穏やかに過ごすために必要なこと』	若者にお勧めしたい本	『マンガで学ぶ生命倫理：わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』 児玉聡、なつたか（漫画） 化学同人	再生医療やら脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバラ色なの？そもそも、脳死ってなんだっけ？生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しいし辛くさいし、ハードルが高いですね。この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。是非手にとってみてください。
		若者にお勧めしたい本	『夜と霧』 V.E.フランクル、霜山徳爾（訳） みすず書房	ナチスの強制収容所という極限の状態におかれた精神分析の学者フランクルが人間を洞察した記録。人間とは、人生とは、愛とは、尊厳とは…を静かに問いかけています。読むたびに新しい発見がありますので、まずは若い時に是非一度読んでみてください。
		今ハマっている本	『存在の耐えられない軽さ』 ミラン・クンデラ、千野栄一（訳） 集英社	人生は一度きりしかなく、どのような選択も偶然でしかなく、いずれも軽い。しかしその軽さが虚しさになるのに人は耐えられず…。1968年、ソ連の侵攻により人間の存在が蹂躪されつつあるチェコで、出会いも偶然で何の重みもないというドンファンの子、それを愛する女、すべてを否定する愛人の三角関係が織りなす人間模様を通じて、人の存在とは何か、幸せとは何かを問いかけてきます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『今ここを生きる勇気：老・病・死と向き合うための哲学講義』 岸見一郎 NHK出版	老、病、死は誰もが避けられないこと。それらを回避できないという真実は誰にも変えられません。では変えられるものは何かと問えば、それは自らの「意識」以外にはないことに思い至った筆者の「絶望するのではなく、希望をもつこと。」「今ここに目を向け、一瞬一瞬を真剣に、丁寧に生きること。」等のメッセージに、みなさんにも触れていただけたらと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『医師の一分』 里見清一 新潮社	人工呼吸器や胃ろうなど生命維持装置が開発されたことはよいことではありますが、多臓器不全の高齢者につけられて、ただ死が先延ばしにされている状況も生むようになりました。この状況は、誰かが望んでいるのでしょうか。著者は、治らなければ生きていけなくてはいけないがんの患者とともに歩きながら、医師は何をどうすべきかを問いかけます。こういう先生ばかりだったら「がん難民」などなくなるのに。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム4	研究者と立ち話（ポスター/展示） 高等研究院・研究員 村松明穂 『動物園でサルの社会をのぞくくらべる』	自分の研究に関連して紹介したい本	『大人のための動物園ガイド』 成島悦男 養賢堂	動物園を訪れる「大人」も、近年では、子ども連れの方だけではなく、ご自身の趣味としてという方が増えてきました。動物園を楽しむコツが紹介されている1章を読んで、ぜひ動物園に足を運んでいただければと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『霊長類図鑑：サルを知るとはヒトを知ること』 日本モンキーセンター（編） 京都通信社	霊長類専門の博物館・動物園である「日本モンキーセンター」による、霊長類全181種を紹介する図鑑。カラーでそれぞれの種の生息環境・食性・生態を知ることができ、動物園や動物番組の「予習・復習」にも役立ちます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『たちまわるサル：チベットモンキーの社会的知能』 小川秀司 京都大学学術出版会	野生チベットモンキーの研究者による著書。チベットモンキーの生態や生息環境の様子が分かるだけでなく、フィールドワークを行う研究者としてのエピソードもたくさん載っています。チベットモンキーのことを、ますます好きになれる1冊です。
ブーム5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 文学研究科・助教 伊藤淳史 『埋もれた古道から探る地域の歴史』	自分の研究に関連して紹介したい本	『通論考古学』 濱田耕作 岩波書店	日本における体系的な考古学の概説書として、最初に刊行されたもの。1922年の出版から94年を経て2016年に文庫化。日本で考古学を学ぶ者は、必ず1度は目を通すことを求められる、ある意味「懐かしい」書籍。しかし、発掘調査や、遺跡・遺物の研究と活用を進めるうえでの知識と理念の基本が漏れなく説かれる本書は、時代を経て、科学技術がいかに進歩しようとも、繰り返し紐解かれるべき書籍であることがわかります。
ブーム7	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学研究科・教授 伊藤俊哉 『臨床試験を科学するー臨床統計学』	若者にお勧めしたい本	『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ』 佐藤俊哉 岩波書店	YouTubeでアニメも公開されています。 みんなで観てね。
		今ハマっている本	『建築を気持ちで考える』 堀部安嗣 TOTO出版	居心地のよい空間ってありますよね。そこはなぜ気持ちがいいのか、意識したことがありますか？私は家を建てるまで考えたことがありませんでした。京都には、はっとさせるような、あるいはしつとりとしたような、素晴らしい空間がたくさんあります。しかし京都は人工都市ですから、その感動は誰かがつくったものなのです。興味を持った方は、この本を片手に大徳寺高桐院に行ってみてください。気持ちいいという感覚は、作り手の想いからもたらされていたことがわかるはずです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『物理と対称性：クォークから進化まで』 坂東昌子 丸善	物理学者の坂東先生の著書です。震災後に縁があって一緒に仕事をすることになりました。そこで気づいたのは、我々の専門は生物統計学と素粒子物理学で異なるにもかかわらず、数学的なもの見方には共通項があるということです。本書は、対称性に注目してさまざまな自然現象を抽象的・数学的に表現する方法を語ってくれます。本書を読むと、ユークリッド幾何学、アフィン幾何学、射影幾何学、トポロジー、群論といった数学が実に豊かであることに気づきます。
ブーム8	研究者と立ち話（ポスター/展示） 地球環境学堂・准教授 真常 仁志 『アフリカで衛生環境と暮らしの向上を』	今ハマっている本	『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』 和田信明、中田豊一 みずのわ出版	途上国での援助を考えている人だけではなく、教育に携わっている方、必読です。目から鱗です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『深夜特急』 沢木耕太郎 新潮社	海外へ旅して、生活する憧れの始まりは、この本だった気がします。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土 地球最後のナゾ：100億人を養う土壌を求めて』 藤井一至 光文社	土の重要性がよくわかる読みやすい本です。
		若者にお勧めしたい本	『猛き箱舟』 船戸与一 集英社	自分の知らない世界がこれほどにも広がっていることに気づかされ、衝撃を受けた冒険小説です。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム9	研究者と立ち話（ポスター/展示） 理学研究科・博士課程 中田 嘉信 『素粒子で宇宙の謎を解く』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『宇宙創生』 サイモン・シン 新潮社	ビッグバンが仮説の域を超えて、世界を記述する理論として確立されていくドラマを描いた本。宇宙論の歴史を科学読み物として楽しく紐解くことができる。現代でも未知な事象がコロコロ転がって、自分もその研究の一端に携われるって最高。
		今ハマっている本	『入門 現代の宇宙論：インフレーションから暗黒エネルギーまで』 辻川信二 講談社	宇宙論の本の多くは一般相対論の知識を仮定して居るが、この本はそうはせず、付録での解説にとどめている。もちろんしっかり宇宙論を理解するには一般相対論が必要だろうが、ざっくりと「宇宙論とはどんな分野か」をつかむのには良さそうだと感じる。
		若者にお勧めしたい本	『宇宙への秘密の鍵』 スティーヴン・ホーキング、ルーシー・ホーキング、さくまゆみこ（訳） 岩崎書店	宇宙物理学者のスティーヴン・ホーキング博士とその娘により「地球が直面している問題は、もはや地球だけでは解決できない。未来のため、子どもたちに広大な宇宙への興味・関心を持って欲しい」という願いから書かれた物語。老若男女誰でも楽しめるスペース・アドベンチャーを通して、宇宙にワクワクする世界が広がっていることを教えてくれる。このシリーズを小学生高学年で読み、宇宙や素粒子に興味を持つきっかけとなった。
		若者にお勧めしたい本	『ホーキング、宇宙と人間を語る』 スティーヴン・ホーキング、レナード・ムロディノウ、佐藤勝彦（訳） エクスナレッジ	筋萎縮という病に侵されながらも物理学の最先端を走り続け、その哲学にも大きな影響を与えたきたホーキング博士。原子や分子はただの幻想か、はたまた実在する何かなのか、目に見えないものを私たちはどう捉え解釈すれば良いのか...根源的な科学哲学から最先端物理の紹介まで非常に幅広い考えがまとめられており、お気に入りの一冊です！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『現代素粒子物理：実験的観点からみる標準理論』 末包文彦、久世正弘、白井淳平、湯田春雄 森北出版	素粒子物理の基礎的なことが歴史的経緯と共にまとめられている。実験系の物理学者が書いており、歴史的発見が行われた過去の実験がたくさん紹介されていて面白い。
ブーム10	研究者と立ち話（ポスター/展示） 学際融合教育研究推進センター・特定助教 祐野 恵 『健康データと自治体の政策づくり』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『職業としての政治』 マックス・ウェーバー、脇圭平（訳） 岩波書店	政治に身を置く者が、備えるべき資格と覚悟について説く。1919年のウェーバーの講演をまとめた内容でありながら、現代にも通じる問題を提起しており、あるべき政治家の姿を考えるうえでお勧めです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『代議制民主主義：「民意」と「政治家」を問い直す』 待鳥聡史 中央公論新社	現代民主主義国家で採用されている代議制民主主義について、歴史や制度の観点から読み解く1冊。政治について、選挙制度、執政制度の観点から理論的に理解し、政党の役割を検討するうえでお勧めです。
		若者にお勧めしたい本	『公共政策規範』 佐野 巨 ミネルヴァ書房	政策を評価する際に必要となる価値基準について、自由主義、功利主義、本質主義の観点から、それぞれの長所と短所を説明する。政策の良し悪しを判断する難しさや奥深さを感じられる1冊としてお勧めです。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名/著者名/出版社名	推薦理由、コメントなど
プロム11	研究者と立ち話 (ポスター/展示) 工学研究科・講師 小見山 陽介 『アップサイクルによるCLT端材の再製品化』	今の仕事 (研究、進路) を選ぶきっかけになった本	『Shuffled : 古谷誠章の建築ノート』 古谷誠章 TOTO社	プロフェッサー・アーキテクト (大学に教員として所属しながら、建築家としても設計活動を続ける人) ってこういうものの考え方をするんだ、と初めて知った本。研究から創作までが連続した思考のもとで語られ、建築の設計をしながら大学でも学生たちと最先端の建築学を研究する、という現在の僕自身が目指す仕事の仕方を決定づけました。
		今ハマっている本	『白い壁、デザイナードレス : 近代建築のファッション化』 マーク・ウィグリー、坂牛卓 (訳)、遠見浩久 (訳)、 若下暢男 (訳)、天内大樹 (訳)、岸佑 (訳)、呉 鴻逸 (訳) 鹿島出版会	建築の歴史において当たり前のように受け入れられてきた「白い近代建築」の理由を、建築とファッションなど分野横断的な視点で読み解いた本です。研究室の学生が修士論文の参考図書としたことがきっかけで原書を読んでいたのですが、待望の邦訳版が出たので改めて読んでいます。建築を見るとき視野が広がります。
		若者にお勧めしたい本	『図面でひもく名建築』 五十嵐太郎 (著・編)、菊地尊也 (著・編)、東北 大学五十嵐太郎研究室 (著・編)、野口理沙子 (イ ラスト)、一瀬健人 (イラスト) 丸善出版	小見山も執筆者のひとりとして参加しています。ル・コルビュジェ、フランク・ロイド・ライトら近代建築の巨匠をはじめ、フランク・ゲーリー、SANA Aの現代建築、薬師寺東塔、シャルトル大聖堂等の歴史建築まで、66の事例について具体的な図面の読み解き方をQ&A形式で解説しています。広い建築の世界を知る入門書の一つとしてお勧めです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『建築情報学へ』 建築情報学会 (監修)、大野友資ら著者25名 millegraph	第2章を小見山が執筆しています。「情報によって建築は、より領域横断的、より動的、より拡張的なものになるだろう」を合言葉に、常に異領域や新技術から影響を受けながら変化し続けてきた建築の歴史を書きました。産学連携や異分野の先生方との協働に新しい建築の可能性を見ている自分自身も勇気づけられる本です。
プロム12	研究者と立ち話 (ポスター/展示) 医学研究科・准教授 畠谷 聡 『認知症の病態研究から治療まで』	若者にお勧めしたい本	『普及版 モーリ先生との火曜日』 ミッチ・アルボム、別宮貞徳 (訳) NHK出版	自分の人生をどう生きたら良いのかと悩む人に読んで欲しい本です。難病ALSと診断されながらも前向きにその人生を送るモーリ先生の話を読んで、より良い人生を送るきっかけとなれば嬉しいです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『アルツハイマー征服』 下山進 KADOKAWA	アルツハイマー病の研究史を網羅しながら、読み物としておもしろく書かれています。米国FDAが承認し話題となった「アデュカヌマブ」開発について知りたい方にもおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『普及版 100歳の美しい脳 : アルツハイマー病解明に手を差しのべた修道女たち』 デヴィッド・スノドン、藤井留美 (訳) DHC	「アルツハイマー病を発病しても、症状が現れない脳がある。678人の修道女が協力をするユニークな研究『ナン・スタディ』 (出版元紹介より)」。『若年期の生活習慣が老年期の認知症発症に大きく関わる』という、今では一般的となった考え方に大きな影響を与えた研究の報告です。
プロム13	研究者と立ち話 (ポスター/展示) 総合博物館・教授 本川 雅治 『大学博物館の標本と生物多様性科学』	今の仕事 (研究、進路) を選ぶきっかけになった本	『西洋事情』 福澤諭吉、マリオン・ソシエ (編集)、西川俊作 (編集) 慶應義塾大学出版会	「博物館」という言葉をMuseumの訳語として、はじめて使ったのが福澤諭吉のこの『西洋事情』といわれています。そして、明治時代になって日本にはじめての博物館が作られました。日本の博物館や標本の歴史を考えると興味深い本です。博物館や標本の概念やその国際比較について私が取り組むきっかけになりました。
		今ハマっている本	『標本の本 : 京都大学総合博物館の収蔵室から』 村松美賀子、伊藤存 青幻舎	博物館には多様な標本があります。博物館で研究していると自分の専門にとらわれて意外と標本を見ていないことがあるような気がします。この本は研究者ではないお二人が、京都大学総合博物館の収蔵室の標本をみて感じたことや、たくさんの写真がもとになった本です。私にとつて新鮮さや驚きをもって楽しめる本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『日本のネズミ : 多様性と進化』 本川雅治 (編) 東京大学出版会	森に住むネズミの多様性を多方面から探ろうとしたものです。身近でありながら、あまり知られていない動物の実態を解明するには、フィールドワークが重要です。また、そこから博物館標本も生みだされていきます。フィールドで感じたことやひらめいたことが興味深い研究成果につながることも知ってもらいたいです。
		若者にお勧めしたい本	『標本バカ』 川田伸一郎、浅野文彦 (イラスト) ブックマン社	国立科学博物館のモグラ博士の標本作製と収集の日々を綴ったエッセイ集です。標本を扱う仕事といってもなかなか想像できないかもしれません。この本を読むことで標本とともに楽しく刺激的に働く仕事の世界を少しでも知ってもらえたらと思います。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
プロム14	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・助教 日下部 武敏 『水銀フリーの未来における水銀リスク？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『環境マインドで未来を拓け：いのちをまもる工学の60年』 『環境工学への誘い』刊行委員会（編集） 京都大学学術出版会	日本の環境工学が創設されたのが、約60年前です。多くの先駆者が日本の環境を良くしようとがんばってきました。未来に向けて挑戦していく時に、今まではどうだったのかを理解する上で良い本ではないかと思いません。
プロム15	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学研究科・助教 當山 まゆみ 『介護施設における健康管理とICT』	自分の研究に関連して紹介したい本	『認知症世界の歩き方』 鏡裕介、認知症未来共創ハブ（監修） ライツ社	認知症の患者さんには世界はどう映っているのか？専門職の立場から専門用語で片づけてしまうことが、ご本人の視点からわかりやすく表現されていて目からうろこです。最近、オンラインゲーム型プログラム「認知症世界の歩き方 Play!」もでたようです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『私は誰になっていくの？—アルツハイマー病患者からみた世界』 クリスティーナ・ボーデン、榎垣陽子（訳） クリエイティブかもがわ	若年性認知症のご本人が書いている本です。「ご本人の言葉」で書かれており、大変興味深いです。認知症の方の支援に活かせるポイントが多く盛り込まれている点がお勧めです。
		今ハマっている本	『ケーキの切れない非行少年たち』 宮口幸治 新潮社	ちょっと前に読んで、非常に考えさせられましたし、今も考えています。漫画も出ています。お笑い芸人のかすれーさんもお勧めしていました。
プロム16	研究者と立ち話（ポスター/展示） 白眉センター・特定准教授 田原 弘量 『ナノって何なの？光と量子で探る科学』	若者にお勧めしたい本	『人間の未来 AIの未来』 山中伸弥、羽生善治 講談社	これから新しいことを始める人に気づきや勇気を与えてくれる本です。AIと比べながら人間とは何なのかについて対談スタイルで書かれています。雑談や裏話が多いので、どんな人でも気軽に楽しく読めるのでおすすめです。
		今ハマっている本	『パン どうぞ』 彦坂有紀、もりといずみ 講談社	子どもといっしょに読むと楽しいです。はいどうぞつてると、パクパク食べます。
プロム17	研究者と立ち話（ポスター/展示） 生命科学研究科・教授 松田道行 『“みる”から始まる研究の世界』	若者にお勧めしたい本	『たね そだててみよう』 ヘレン・J・ジョルダン、ロレッタ・クルピンスキ(イラスト)、さとうよういちろう（訳） 福音館書店	観察することの面白さを伝えてくれる本です。種を植えて、数日後に取り出して、見えない土の中で何が起きているかを調べているのですが、絵本とは思えないほど本格的な実験計画です。ぜひうちで試してもらいたいなと思います。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『城砦』 A.J.クローニン、竹内道之助（訳） 三笠書房	純粋に面白い。青臭いけど、十代でこれ読んで医学研究やってみたいと思いました。残念ながら日本語訳は絶版になって久しいです。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名/著者名/出版社名	推薦理由、コメントなど
プロム18	研究者と立ち話 (ポスター/展示) エネルギー科学研究科・講師 荻塚 武史 『生体鉱物で身体を治す素材をつくる』	今の仕事 (研究、進路) を選ぶきっかけになった本	『医学生』 南木佳士 文藝春秋	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする『生体材料学』という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな筆致で描かれています。
		今ハマっている本	『うつ病九段：プロ棋士が将棋を失った一年間』 先崎学 文藝春秋	学生時代に将棋部だった私がずっと憧れている、将棋の先崎学九段の実体験が綴られた本です。2019年、大宅壮一ノンフィクション賞候補作。なお私は、先崎先生のお兄様が著名な精神科医であることを、この本で初めて知りました。
		若者にお勧めしたい本	『挑戦：常識のブレーキをはずせ』 藤井聡太、山中伸弥 講談社	将棋界の第一人者・藤井聡太竜王と、iPS細胞研究のノーベル賞受賞者・山中伸弥先生の対談集です。今もなお、さらなる高みを目指されて走り続ける両先生の対談は、将棋やiPS細胞研究はもちろんのこと、AIと人間の関わり、新型コロナウイルス、研究者としての御半生等に渡って繰り広げられ、私も非常に興味深く拝読いたしました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人類を変えた素晴らしい10の材料：その内なる宇宙を探索する』 マーク・ミーオドニク、松井信彦 (訳) インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の疑問もなく最新の科学技術を享受しながら日常生活を送っておりますが、それらを根幹で支えているのが「材料」の技術です。本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードがまとめられています。なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントについて語られています。
ノース2	研究者と立ち話 (ポスター/展示) 経営管理大学院・研究員 柳 淳也 『LGBTQや多様なアントレプレナー』	若者にお勧めしたい本	『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』 森山至貴 筑摩書房	これからLGBTQについて学びたいと思っている人に、ぜひ読んでほしい本。LGBTとはなにか、といった基本的な情報から、欧米におけるLGBTの歴史やそこから派生したクィア・スタディーズの概観をサラッと学ぶことができます。異性愛規範やクィアについて学ぶことで (このあたりの記述にも負を割いているがこの本の魅力なのですが)、自分のこれまでのセクシュアリティやジェンダーに対する価値観が揺らぐかもしれません。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『イノベーション概念の現代史』 ブノワ・ゴダン、松浦俊輔 (訳)、隠岐さや香(解説・訳) 名古屋大学出版会	社会や環境、経済の課題に対する解決策として、近年ますます「イノベーション」が必要であると言われるようになっています。こうした「イノベーション」概念が、なぜ、現代の新たな宗教となり、施策等に組み込まれていったのでしょうか。その言葉の由来に遡り、「イノベーション」概念の系譜を科学技術の発展や経済的成長と絡めて、批判的に辿る一冊。
		今ハマっている本	『マツタケ：不確定な時代を生きる術』 アナ・チン、赤嶺淳 (訳) みすず書房	マツタケを中心に、資本主義による森林伐採・生態系の破壊、破壊からしか生まれ得なかった人間以外のものたちと人間との出会いとその関係性を見事に描いている人類学的研究です。グローバルな帝国主義的資本主義の影響下における個人とその中で生き延びようとする主体的行為、その絡まり合いの複雑さを複雑なまま捉えようとした、知の結晶。翻訳も素晴らしい難解ではなく、小説のような筆致なのでスラスラと読めると思います。
		今の仕事 (研究、進路) を選ぶきっかけになった本	『ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探索する』 スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー、望月 衛(訳) 東洋経済新報社	学部生時代に読んで衝撃を受けた本です。逸脱したコミュニティ等に入り込み、犯罪や、不正などの実態を、統計的な手法を使って相関関係を明らかにする本書は、研究のおもしろさを直感的に感じさせてくれるものでした。今でこそ、すべての人々の行為を操作化し、金銭的価値に落とし込んで、分析することに対して個人的には批判的ではあるのですが、今でも、読み物としては面白い一冊です。
ノース3	研究者と立ち話 (ポスター/展示) 工学研究科・教授 乾 晴行 『「ランダムさ」を活かす新しい材料設計』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ハイエントロピー合金：カクテル効果が生み出す多彩な新物性』 乾晴行 内田老鶴園	出展代表者が代表を務める新学術領域研究「ハイエントロピー合金：元素の多様性と不均一性に基づく新しい材料の学理」の初期の成果をまとめたものです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』 山口正治、乾晴行、伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べられている。
		今の仕事 (研究、進路) を選ぶきっかけになった本	『耐熱合金のおはなし』 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ノース5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 白眉センター・特定助教、特定准教授 東島沙弥佳、田原弘量 『研究の魅力を見出す“鏡”プロジェクト』	自分の研究に関連して紹介したい本	『草原の掟：西部モンゴル遊牧社会における生存戦略のエスノグラフィ』 相馬拓也 ナカニシヤ出版	鏡プロジェクトの一員である相馬氏が出した最新の本です。カバーも自分で制作したというこだわりの一冊。大草原で生き抜いてきた人々の生活の知恵をまとめあげています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ブータンの小さな診療所』 坂本龍太 ナカニシヤ出版	鏡プロジェクトの一員である坂本氏が、自身のブータンでの医療経験を綴った一冊。文化や風習、そもそも健康というものに対する概念が異なる他国での医療活動に情熱をもって取り組んだ彼が感じたこと・経験したことが満載です。
ノース6	研究者と立ち話（ポスター/展示） 複合原子力科学研究所・准教授 北尾真司 『原子核を活用した超精密な分析と応用』	若者にお勧めしたい本	『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 岩波文庫	固いテーマについて子供向けに読みやすく書かれた名著としてよく推薦される本ですが、昭和12年に書かれたことを考えると、その普遍的な内容に驚かされます。大人になってから読み直しても新たな発見や気づきがあると思います。
		今ハマっている本	『量子力学の奥深くに隠されているもの：コペンハーゲン解釈から多世界理論へ』 ジョン・キャロル、塩原通緒（訳） 青土社	量子力学は、一見奇妙ですが、それに反する実験は一つも見つかっていない完成された理論です。量子力学は物理学では計算の道具になっていますが、その奇妙さを日常世界の常識で「解釈」しようとすると、非常に難しく、現代の物理学では、まだうまく解釈できていないことに悩まされます。縦書きの本で、数式は出てきません。
ノース7	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 東南アジア地域研究研究所・教授 河野泰之 『日本とASEANの共創メカニズム』	若者にお勧めしたい本	『反殺物の人類史：国家誕生のディープヒストリー』 ジェームズ・C・スコット、立木 勝（訳） みすず書房	本書は、狩猟採取社会から農耕社会への変化の過程を、メソポタミアを舞台として描くものです。人が生き延びていくうえで、既存の何か、権力であったり、国家であったり、制度であったり、を活用すれば抑えられない、すなわちアナーキーであること、意義を改めて認識させてくれます。
ちゃぶ1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 生存圏研究所・助教 田鶴寿弥子 『文化財のかけらを通してみる人と木の歴史』	若者にお勧めしたい本	『日本建築集中講義』 藤森照信、山口晃 中公文庫	飛鳥時代から昭和時代にかけての著名な建築を、専門家がちょっと違った角度からコアを交えて解説する本です。私が過去に樹種や年代調査でかかわった建造物も複数掲載されているのですが、何度読んでもやりとできる建築の入門にぴったりの本です。
		若者にお勧めしたい本	『柿の種』 寺田寅彦 岩波書店	この本の中に、「花が樹にくっついている間は植物学の問題になるが、樹をはなれた瞬間から以後の事柄は問題にならぬそうである。学問というものはどうも窮屈なものである。」と、学問の有り方に疑問を投げかけている言葉があります。寺田氏により、窮屈なと形容されたそのような学問は今、分野横断型や学際研究という名前で、様々な分野で徐々に進められるようになってきています。研究に行き詰ると、いつもこの本をバラバラと読み返します。
ちゃぶ2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 エネルギー科学研究所・助教 松井隆太郎 『高強度レーザーが切り拓く極限科学』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『関ヶ原合戦：戦国のいばん長い日』 二木謙一 中央公論新社	小学生の頃に読み、漠然と研究者にあこがれるようになりました。現在の研究分野とは異なりますが、はじめて本格的な学術書に触れた時の感動は今でも心に残っています。関ヶ原合戦の実態は諸説あり、近年では「関ヶ原の戦いはなかった」とする説まで出ていますが、時間軸をもとに丁寧に解説している本書により、流れを中心とした全体像をつかむことができます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『非線形波動の物理』 田中光宏 森北出版	非線形方程式が支配する現象は、私たちの身近に数多く存在します。例えば、地球の反対側で起こった大地震によって日本の沿岸に到達する津波は、物理でよく知られたソリトン（孤立波）の典型例であり、KdV方程式という非線形方程式の解となっています。つまり、津波のふるまいを数学的に予測することができます。本書は、KdV方程式等の複雑な方程式を、車の交通渋滞などの分かりやすい例を用いて丁寧に解説しています。
		今ハマっている本	『精神科医が教える ストレスフリー超大全：人生のあらゆる「悩み・不安・疲れ」をなくすためのリスト』 樺沢紫苑 ダイヤモンド社	アドラーという有名な心理学者は、すべてのストレスは人間関係から来る！と言い切っているそうです。つまり、私たちが日常的に抱えているストレスは、人間関係からくるものだと捉えることができます。私自身は心理学の素人なので詳細は分かりませんが、本書は人間関係を中心としたストレスを和らげる考え方が紹介されています。研究生活から生じるストレスの解決方法として大変参考にしており、精神的にも大変楽になりました。
		若者にお勧めしたい本	『できる研究者の論文生産術：どうすれば「たくさん」書けるのか』 ポール・J・シルヴィア、高橋さきの（訳） 講談社	学生や研究者などにとって、論文を書くというのは大変な作業です。研究成果は論文発表という形で世間に公表して初めて財産となりますが、研究のスピードと同等に論文を進めるのはなかなか難しいものです。本書は、「どうすれば論文が量産できるか？」という視点で、非常に有益な処方箋が紹介されています。私自身、何度も本書に目を通しながら論文を執筆中です。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ちゃぶ3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 白眉センター・特定助教 東島沙弥佳 『失くしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!』	自分の研究に関連して紹介したい本	『日本の昔話』 柳田國男 新潮文庫	おとぎ話の中には、我々人がどのように周りの環境を捉えてきたのか雄弁に語るものがあり、おもしろいですよ！
		今ハマっている本	『日本書紀 全現代語訳』 宇治谷孟 講談社学術文庫	ドラマチックで展開が早い！読んでみるとツッコミどころが多くて楽しい。
ちゃぶ4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 医学研究科・講師 片岡正子 『いろいろな目で乳がんをみる』	自分の研究に関連して紹介したい本	『レディオミクス入門』 有村秀孝（編）、角谷倫之（編） オーム社	レディオミクスという分野は画像の研究でよく用いられている解析法であるが、本書はその背景や得られた数値の意味が丁寧に解説してあるため、画像解析の専門家でなくとも理解しやすい。これから画像解析の研究を始める人向け
ちゃぶ6	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 理学研究科・助教 宇高寛子 『ナメクジ、お嫌いですか？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『動物学がわかる。』 アエラムック「学問がわかる。」シリーズ 朝日新聞社	生き物を研究したいと考えていた時に出会った一冊。自分が知っていたよりもずっと多くの研究分野があることを知ることができました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『カタツムリハンドブック』 武田晋一（写真）、西浩孝（解説） 文一総合出版	ちゃんとナメクジも載っています。一部の学名が改訂されている第2版以降が特におすすめです。
		若者にお勧めしたい本	『カイメン：すてきなスカスカ』 権玲未 岩波書店	ナメクジと同じくどんな生き物かやや知られていない、カイメン。文章で知る知識だけでなく、カラー写真と美麗イラストが目にも嬉しい一冊です。

京大、新輝点。



パークプラザ3階共通ロビーにて
「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

(場所：ロームシアター京都 パークプラザ3階共通ロビー)

編集者 大西将徳（学術研究展開センター）
藤田弥世（学術研究展開センター）
白井哲哉（学術研究展開センター）
奥田将基（研究推進部研究推進課研究助成掛）

デザイン 永田奈緒美（情報環境機構）

写真 大森貴生
総務部渉外課

発行日 2023年1月

発行 学術研究展開センター
研究推進部研究推進課
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究展開センター
Tel : 075-753-5113
E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。